横浜市立大学総合研究教育棟改修工事

記号	図面名
A-01	表紙、図面リスト
A-02	建築概要・案内図・配置図
A-03	工事区分表、工事範囲一覧表
A-04	建築改修工事特記仕様書（その１）
A-05	建築改修工事特記仕様書（その２）
A-06	建築改修工事特記仕様書（その３）
A-07	建築改修工事特記仕様書（その４）
A-08	建築改修工事特記仕様書（その５）
A-09	建築改修工事特記仕様書（その６）
A-10	建築改修工事特記仕様書（その７）
A-11	内部仕上表（1）
A-12	内部仕上表（2）、外部仕上表
A-13	1階　全体平面図　＜現況図・工事範囲指示図＞
A-14	2階　全体平面図　＜現況図・工事範囲指示図＞
A-15	2階　全体平面図　＜改修＞
A-16	断面詳細図　bY3-bY7　＜現況図＞
A-17	平面詳細図　＜撤去＞（1）　Ｌ．Ｌ実習室（1），（2）
A-18	平面詳細図　＜改修＞（1）　学生演習室１，２
A-19	展開図　＜撤去＞（1）　Ｌ．Ｌ実習室（1），（2）
A-20	展開図　＜改修＞（1）　学生演習室１，２
A-21	展開図　＜撤去＞（2）　Ｌ．Ｌ実習室（1），（2）
A-22	展開図　＜改修＞（2）　学生演習室１，２
A-23	展開図　＜撤去＞（3）　廊下（1）
A-24	展開図　＜改修＞（3）　廊下（1）
A-25	天井伏図　＜撤去＞（1）　Ｌ．Ｌ実習室（1），（2）

記号	図面名
A-26	天井伏図　＜改修＞（1）　学生演習室１，２
A-27	平面詳細図　＜撤去＞（2）　L.Lテープライブラリー、録 音室 L.L編集室、L.L事務室、廊下（2）
A-28	平面詳細図　＜改修＞（2）　学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（2）
A-29	展開図　＜撤去＞（4）　L.Lテープライブラリー、録音室 L.L編集室、L.L事務室、廊下（2）
A-30	展開図　＜改修＞（4）　学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（2）
A-31	展開図　＜撤去＞（5）　L.Lテープライブラリー、録音室 L.L編集室、L.L事務室、廊下（2）
A-32	展開図　＜改修＞（5）　学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（2）
A-33	展開図　＜撤去＞（6）　L.Lテープライブラリー、録音室 L.L編集室、L.L事務室、廊下（2）
A-34	展開図　＜改修＞（6）　学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（2）
A-35	展開図　＜撤去＞（7）　L.Lテープライブラリー、録音室 L.L編集室、L.L事務室、廊下（2）
A-36	展開図　＜改修＞（7）　学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（2）
A-37	天井伏図　＜撤去＞（2）　L.Lテープライブラリー、録音室 L.L編集室、L.L事務室、廊下（2）
A-38	天井伏図　＜改修＞（2）　学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（2）
A-39	建具表キープラン　＜撤去＞＜改修＞
A-40	建具表（1）　＜撤去＞＜改修＞
A-41	建具表（2）　＜撤去＞＜改修＞
A-42	サイン計画図、ブラインドリスト
A-43	部分詳細図・凡例
A-44	仮設計画図（参考）

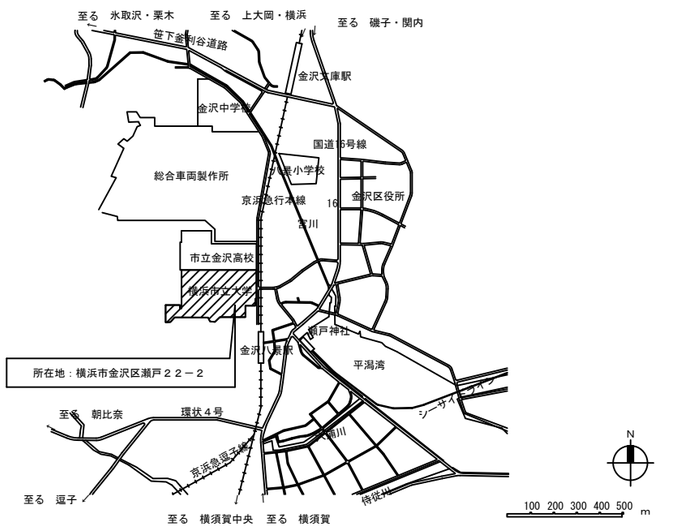
記号	図面名
E-01	表紙、図面リスト
E-02	特記仕様書、案内図、配置図、工事区分表
E-03	3階　動力設備　平面詳細図　＜撤去・新設＞　EPS
E-04	R階　動力設備　平面詳細図　＜撤去・新設＞　屋上
E-05	2階　電灯設備　全体平面図　＜撤去・新設＞
E-06	2階 電灯設備 平面詳細図 ＜撤去＞Ｌ．Ｌ第１実習室、Ｌ．Ｌ第２実習室
E-07	2階　電灯設備　平面詳細図　＜新設＞　学生演習室１、学生演習室２
E-08	2階　電灯設備　平面詳細図　＜撤去＞　Ｌ．Ｌテープライブラリー　他
E-09	2階　電灯設備　平面詳細図　＜新設＞　プロジェクト研究室　他
E-10	2階 ｺﾝｾﾝﾄ設備 平面詳細図 ＜撤去＞ Ｌ．Ｌ第１実習室、Ｌ．Ｌ第２実習室
E-11	2階　ｺﾝｾﾝﾄ設備　平面詳細図　＜新設＞　学生演習室１、学生演習室２
E-12	2階　ｺﾝｾﾝﾄ設備　平面詳細図　＜撤去＞　Ｌ．Ｌテープライブラリー　他
E-13	2階 ｺﾝｾﾝﾄ設備 平面詳細図 ＜新設＞ プロジェクト研究室 他
E-14	2階　弱電設備　全体平面図　＜撤去・新設＞
E-15	2階 弱電設備 平面詳細図　＜撤去＞　Ｌ．Ｌ第１実習室、Ｌ．Ｌ第２実習室
E-16	2階　弱電設備　平面詳細図　＜新設＞　学生演習室１、学生演習室２
E-17	2階　弱電設備　平面詳細図　＜撤去＞　Ｌ．Ｌテープライブラリー　他
E-18	2階　弱電設備　平面詳細図　＜新設＞　プロジェクト研究室　他
E-19	2階　機械警備　平面詳細図　＜新設＞　プロジェクト研究室　他
M-01	表紙、図面リスト
M-02	特記仕様書
M-03	空調設備　機器表
M-04	空調設備 2階　配管平面図
M-05	換気設備 2階　ダクト平面図
M-06	空調設備 2階　配管平面図（撤去）
M-07	換気設備 2階　ダクト平面図（撤去）

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月　縮尺　A3:N.S.	図面名称	表紙、図面リスト
設　計　者		図面番号	A-01
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹			

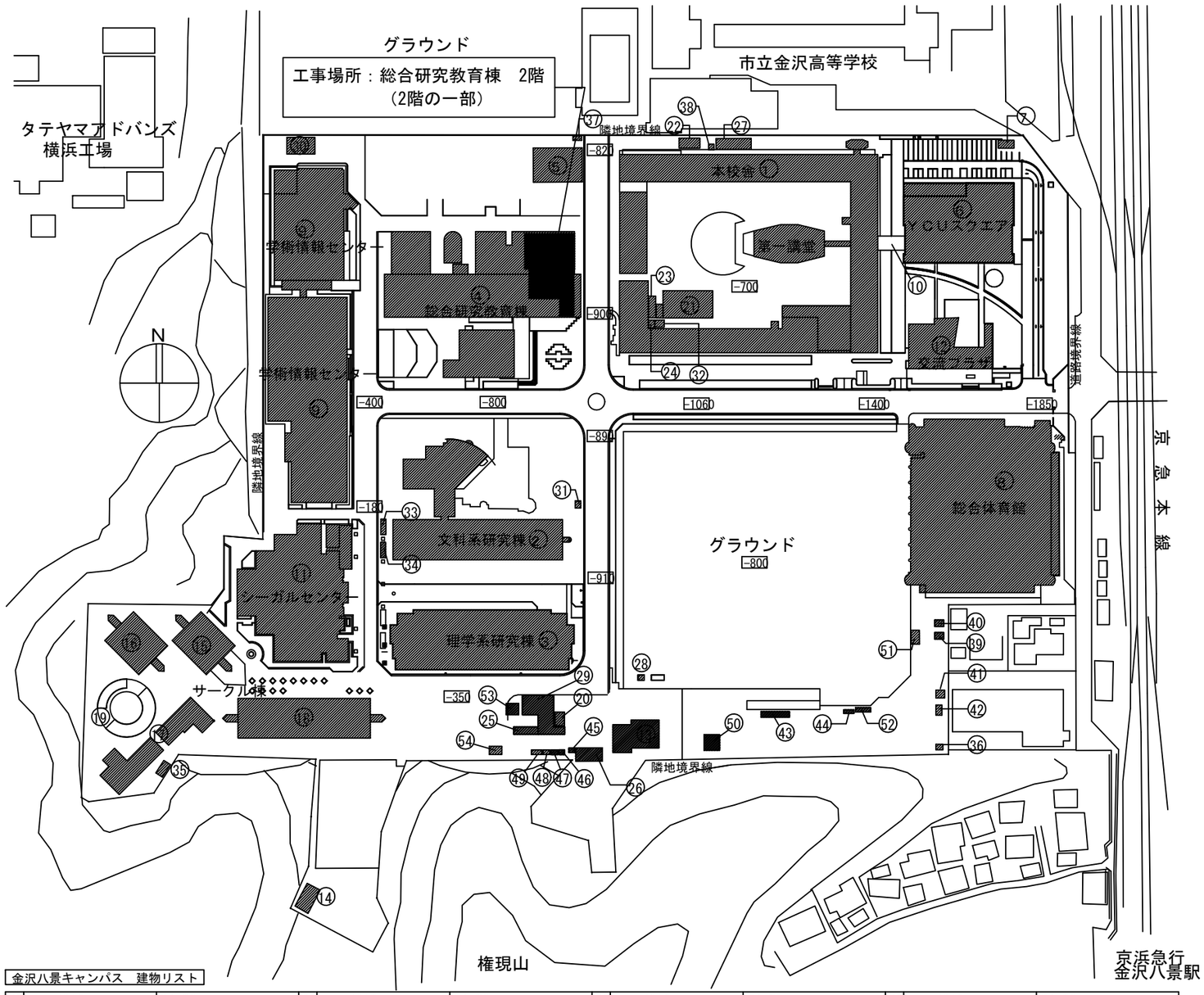
建築概要

件名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
建築地	（地名地番）－
	（住居表示）神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番２号
用途	大学
工事種別	改修
構造・規模	SRC、RC　地下1階、地上5階建て
前面道路	幅員：東面　10m
敷地面積	84,630.890㎡
建築面積	2,859.267㎡
延床面積	
	合計　9,560.102㎡
軒高	20,200m
最高高さ	29,720m
都市計画区域	区域内
用途地域	第一種中高層住居専用地域
防火地域	準防火地域
高度地区	第3種
日影規制	軒高7m超又は3階以上、測定面高さ 4m、規制時間 3時間/2時間
建築協定	なし
壁面後退	なし
絶対高さ	なし
建ペイ率	60.00%
容積率	150.00%
その他	宅地造成工事区域、急傾斜崩壊危険区域

案内図　縮尺=N.S.



配置図　縮尺=1/2000



金沢八景キャンパス　建物リスト

番号	建物名称	構造・階数	番号	建物名称	構造・階数	番号	建物名称	構造・階数	番号	建物名称	構造・階数
①	本校舎　（第一講堂含）	ＲＣ－３・Ｂ１	⑮	サークル棟　Ａ棟	ＲＣ－３	㉙	備蓄倉庫	Ｓ－１	㊸	野球部倉庫	Ｓ－１
②	文科系研究棟	ＲＣ－６	⑯	サークル棟　Ｂ棟	ＲＣ－３	㉚	グライコテクノロジーラボ	Ｓ－１	㊹	野球部倉庫	ＣＢ－１
③	理学系研究棟	ＲＣ－５	⑰	サークル棟　Ｃ棟	ＲＣ－２	㉛	外部ＷＣ	ＲＣ－１	㊺	倉庫	Ｓ－１
④	総合研究教育棟	SRC+RC-5・B1	⑱	サークル棟　Ｄ棟	ＲＣ－２	㉜	倉庫	Ｗ－１	㊻	倉庫	Ｓ－１
⑤	産学共同研究センター	ＲＣ－１	⑲	ステージ・スタンド棟	ＲＣ－１	㉝	自転車置場	Ｓ－１	㊼	倉庫	Ｓ－１
⑥	ＹＣＵスクエア	RC・S－5	⑳	公用車車庫	Ｓ－１	㉞	自転車置場	Ｓ－１	㊽	倉庫	Ｓ－１
⑦	ガスバーナー室	ＣＢ－１	㉑	グローバル推進室事務室	Ｓ－１	㉟	陶芸窯場	Ｓ－１	㊾	倉庫	Ｓ－１
⑧	総合体育館	ＲＣ－３・Ｂ１	㉒	ボイラー室	Ｓ－１	㊱	倉庫	Ｓ－１	㊿	自動車部倉庫	Ｓ－１
⑨	学術情報センター	ＳＲＣ＋ＲＣ＋Ｓ－４・Ｂ２	㉓	渡り廊下①	Ｓ－１	㊲	倉庫	Ｓ－１	(51)	選手控え室	ＣＢ－１
⑩	渡り廊下	Ｓ－２	㉔	渡り廊下②	Ｓ－１	㊳	倉庫	Ｓ－１	(52)	選手控え室	ＣＢ－１
⑪	シーガルセンター	ＲＣ－４・Ｂ１	㉕	実験廃棄物倉庫	Ｓ－１	㊴	倉庫	Ｓ－１	(53)	危険物倉庫	ＲＣ－１
⑫	交流プラザ	RC・S－1	㉖	運動部倉庫	Ｓ－１	㊵	倉庫	Ｓ－１	(54)	廃液保管庫	ＲＣ－１
⑬	動物舎	Ｓ－１	㉗	学務課倉庫	ＲＣ－１	㊶	倉庫	Ｓ－１			
⑭	弓道場	Ｗ－１	㉘	スプリンクラー庫	Ｓ－１	㊷	倉庫	Ｓ－１			

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月　縮尺　A3：1/2000	図面名称	建築概要・案内図・配置図
設計者		図面番号	A-02
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹			

工事区分表

項目	内容	建築	電気	衛生	空調	備考	項目	内容	建築	電気	衛生	空調	備考
1	内部養生	○	○	○	○		50						
2	壁・床配管貫通孔開け及び孔埋め		○	○	○		51						
3	空調・換気ダクト、制気口類撤去・処分				○		52						
4	同上撤去後、開口部塞ぎ（鋼板）				○		53						
5	給・排水管撤去・処分			○			54						
6	同上撤去後、開口部塞ぎ（鋼板他）			○			55						
7	壁・床配管新規貫通孔開け及び孔埋め		○	○	○		56						
8	機械機器アンカーボルト埋込み		○	○	○		57						
9	バルコニー　軒天井（ボード）張替え及び塗装	○					58						
10	同上　換気ダクトほか切込み				○		59						
11	天井　ボード類撤去・処分	○					60						
12	ＬＧＳ・木軸天井下地撤去・処分	○					61						
13	壁　ボード類撤去・処分	○					62						
14	ＬＧＳ・木軸下地撤去・処分	○					63						
15	コンクリート壁撤去・処分	○					64						
16	幅木類撤去・処分	○					65						
17	床　仕上げ材撤去・処分	○					66						
18	下地モルタル撤去・処分	○					67						
19	照明器具　取外し、再取付け		○				68						
20	照明器具　撤去・処分		○				69						
21	既存コンセント・スイッチ類　撤去跡の化粧(カバー)プレート取付		○		○		70						
22	研究室ほか　ステンレス製流し台撤去・処分	○					71						
23	同上　給・排水管撤去・処分			○			72						
24	天井点検口	○					73						
25	同上　位置出し		○	○	○		74						
26	照明器具の孔明、補強	○					75						
27	同上　位置出し		○				76						
28	天井　吹出口、吸込口孔明、補強	○					77						
29	同上　位置出し				○		78						
30	エアコンのドレン配管				○		79						
31	研究室　流し台（トラップ含む）新設	○					80						
32	同上　水栓			○			81						
33	同上　給排水接続			○			82						
34	動力制御盤・分電盤		○				83						
35	動力制御盤負荷側配管配線		○				84						
36	エアコンのスイッチ用配管配線				○		85						
37	天井扇のスイッチ及び配管配線		○				86						
38	エアコン・天井扇類用電源配管配線		○				87						
39	室内機、屋外機用制御配管配線				○		88						
40	バルコニー屋外機置場　不要基礎、冷媒配管撤去・処分				○		89						
41	同上　不要電気配線、配管撤去・処分		○				90						
42	換気用ベントキャップ				○		91						
43	サイン工事	○					92						
44	試運転及び清掃の電力・用水・ガス・燃料費（完了引き渡しまで）	○	○	○	○		93						
45							94						
46							95						
47							96						
48							97						
49							98						

工事範囲一覧表

撤去工事

○印：工事対象とする。（各室取合い細部は　図A-13～39を参照のこと）

年度	階	工事対象部位 / 室名(既存)	床 下地	床 仕上	幅木 下地	幅木 仕上	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	建具 内部	建具 外部	備考
R6 建築工事	2	L.L実習室（１）	○ 一部	○		○	○ 一部	○		○	○		
		L.L実習室（２）	○ 一部	○		○	○ 一部	○		○	○		
		L.L編集室	○ 一部	○		○	○ 一部	○		○	○		
		録音室	○ 一部	○		○	○ 一部	○		○	○		
		L.Lテープライブラリー	○ 一部	○		○	○ 一部	○		○	○		
		L.L事務室	○ 一部	○		○	○ 一部	○		○	○		
		廊　下（１）	○ 一部	○ 一部		○ 一部	○ 一部	○ 一部		○ 一部			床：間仕切り壁取合い部 壁：改修各室との間仕切り
		廊　下（２）	○ 一部	○ 一部		○ 一部	○ 一部	○ 一部		○ 一部			床：間仕切り壁取合い部 壁：改修各室との間仕切り

改修工事

○印：工事対象とする。（各室取合い細部は　図A-13～39を参照のこと）

階	工事対象部位 / 室名(改修後)	床 下地	床 仕上	幅木 下地	幅木 仕上	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	建具 内部	建具 外部	備考
2	学生演習室１	○	○		○	○	○		○	○		
	学生演習室２	○	○		○	○	○		○	○		
	プロジェクト研究室	○	○		○	○	○		○	○		
	プロジェクト研究室	○	○		○	○	○		○	○		
	学生演習室3 学生演習室4	○	○		○	○	○		○	○		
	研究室1、研究室2 廊下	○	○		○	○	○		○	○		
	廊　下（１）	○ 一部	○ 一部		○ 一部	○ 一部	○ 一部		○ 一部			床：間仕切り壁取合い部 壁：改修各室との間仕切り
	廊　下（２）	○ 一部	○ 一部		○ 一部	○ 一部	○ 一部		○ 一部			床：間仕切り壁取合い部 壁：改修各室との間仕切り

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	図面名称	工事区分表、工事範囲一覧表
縮尺	A3：1/2	図面番号	A-03
設計者	株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録　第176642号　田中　英樹		

建築改修工事特記仕様書（令和５年版）

1 工事名称	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
2 工事場所	横浜市金沢区瀬戸２２番２号
3 地域・地区	第１種中高層住居専用地域、指定建蔽率60%、指定容積率150%、緑化地域 （第3種高度地区）　（・防火　◉準防火　・指定なし）
4 建物概要	(1) 敷地面積 約85,000㎡ (2) 建築面積 2,859.267㎡ (3) 延べ面積 9,560.102㎡ (4) 構造 SRC造 (5) 階数 5階建　塔屋1階
	1 Aエリア：1)既存L.L 第1及び第2実習室の廊下(1)側既存壁を撤去新設後両教室の室名を学生演習室 1及び2と変更の上内部改修工事を行う。 2)既存廊下(1)の内部改修工事を行う。
	2 Bエリア：1)既存L.Lﾃｰﾌﾞﾙﾗｲﾌﾞﾗﾘｰに間仕切り壁を新設し学生演習室3及び4に変更の上　その内部改修工事を行う。 2)既存L.L編集室内に在る録音室の壁を解体撤去の上プロジェクト研究室に変更しその内部改修工事を行う。 3)既存L.L事務室の廊下(2)側の仕切り壁（両開き扉とも）を解体撤去の上新規に廊下隔壁を設置しその上、間仕切り壁を設け研究室　1及び2とし内部改修工事を行う 2)既存廊下(2)の内部改修工事を行う。
工事範囲	1.建築工事、電気工事、空調衛生設備工事 （1）総研棟２階改修工事
別途工事	

特記仕様書の取り扱い
(1) 章、項目は番号に　○　印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は ◉ 印の付いたものを適用する。

◉ 印の付かない場合は ※ 印の付いたものを適用する。
◉ 印と　※ 印の付いた場合は共に適用する。
(3) 特記事項に記載の〔　〕内表示番号は、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)（以下「改修標仕」という）の項目番号及び表番号を示す。
※は標準的な仕様を示し、特記が必要な場合は・を選択する。

章	項　目	特　記　事　項
①① 各章共通事項	適用基準等	本特記仕様書によるほか下記による。 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)令和４年版 [令和４年３月改定] 国土交通省大臣官房官庁営繕部 建築工事標準詳細図(令和４年版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部 公共建築木造工事標準仕様書(令和４年版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部 横浜市建築局建築工事特則仕様書(最新版) (以下「特則仕様書」という。) 営繕工事写真撮影要領(令和３年版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部
②	工事実績情報サービス(CORINS)への登録	※行う　・行わない [1.1.4] コリンズ工事実績情報システムによる「メール送付の承諾」 ※する　・しない
3	発生材の再資源化等	・本工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年5月31日法第104号）」、「資源の有効な利用の促進に関する法律（平成3年法律第48号）」の対象建設工事であり分別解体等および特定建設資材の再資源化等について適切な処置を行う。ただし、工事契約後にやむを得ない事情により予定した条件により難い場合は、監督員と協議する。[1.3.11] ※工事着手前に再生資源利用計画書、再生資源利用促進計画書及び工事登録証明書（計画書作成時の出力したもの）を提出する。また、上記２つの計画書を工事現場の見やすい場所に掲げる等により公衆の閲覧に供する。 ※工事完成時に再生資源利用実施書、再生資源利用促進実施書及び工事登録証明書（実施書作成時の出力したもの）を提出する。
④	発生材の処理等	分別解体等の方法 [1.3.12]

工程	作業内容	分別解体の方法 手作業	手作業・機械作業の併用(範囲)
◉解体工事	◉建築設備の取り外し	・	・(※図面による　・　)
	◉内装材等の取り外し	・	・(※図面による　・　)
	・屋根ふき材の取り外し	・	・(※図面による　・　)
	・外装材の取壊し	・	・(※図面による　・　)
	・上部構造部分の取壊し	・	・(※図面による　・　)
	・基礎の取壊し	・	・(※図面による　・　)
	・基礎杭の取壊し	・	・(※図面による　・　)
	・その他（　）	・	・(※図面による　・　)
・増築工事	・造成等の工事	・	・(※図面による　・　)
◉修繕・模様替え	・基礎の取壊し工事	・	・(※図面による　・　)
	・基礎杭の工事	・	・(※図面による　・　)
	・上部構造部分の工事	・	・(※図面による　・　)
	・外装材の工事	・	・(※図面による　・　)
	・屋根の工事	・	・(※図面による　・　)
	◉建築設備工事	・	・(※図面による　・　)
	◉内装材等の工事	・	・(※図面による　・　)
	・その他（　）	・	・(※図面による　・　)

◉再資源化等をする特定建設資材廃棄物の種類及び施設等 [1.3.12]

特定建設資材廃棄物の種類	再資源化等する施設の名称及び所在地
◉コンクリート	・「本市工事に伴い排出する建設副産物の処分要領」で指定する施設
◉建設発生木材	・「本市工事に伴い排出する建設副産物の処分要領」で指定する施設
・アスファルト・コンクリート	・「本市工事に伴い排出する建設副産物の処分要領」で指定する施設
◉コンクリートおよび鉄からなる建設資材	・建設リサイクル法第13条第1項に基づく書面による ・特則仕様書による

特定建設資材廃棄物以外の発生材の処分

種類	施設の名称	再資源化		所在地
金属・陶磁器	南本牧廃棄物最終処分場	・する	◉しない	中区南本牧4番地先
		・する	・しない	
		・する	・しない	
		・する	・しない	

・現場において再利用するもの(　) [1.3.12]
・引渡しを要するもの(・金属類　・PCB　・　) [1.3.12]
・特別管理産業廃棄物 [1.3.12]
(・廃石綿　・PCB含有物　・　)
処理方法(　)
・ひ素・カドミウム含有せっこうボードの処理 [1.3.12]
・製造業者への処分委託
・管理型最終処分場での埋立処分
・石綿・ひ素・カドミウムのいずれも含有しない [1.3.12]
せっこうボードの処理
・管理型最終処分場での埋立処分　・再資源化
・ＰＣＢ含有シーリング材の処理 [1.3.12]
・分析調査（　）
・撤去する　・撤去しない

5 電気保安技術者
・配置する　・配置しない [1.3.3]

⑥ 施工条件
◉現場説明書による。 [1.3.5]
・下記以外は現場説明書による。
工事用車両の駐車場所　※図面による　・
資機材置場　※図面による　・

7 施工中の安全確保
横浜市工事安全管理規則による安全管理指定工事
・指定する（「特則仕様書」第１章８節による） [1.3.7]

⑧ 材料の品質等
本工事に使用する材料は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及びJASマークのない材料及びその製造業者等は、次の(1)から(6)の事項を満たすものとする。 [1.4.2]
(1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。
(2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。
(3) 安定的な供給が可能であること。
(4) 法令等で定める許可、認可、認定または免許を取得していること。
(5) 製造または施工の実績があり、その信頼性があること。
(6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質および性能を有することの証明となる資料、または外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。
また備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品または同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は使用する場合は監督職員の承諾を得ること。

9 木材又は木材を原料とする資材
・木工事に使用する木材又は木材を原料とする資材を使用する場合は、神奈川県産木材又は地域材(関東甲信地方に属する都県及び静岡県で生産された素材等)を利用することとし、使用した材料の種別、産地等を監督員に報告する。ただし、神奈川県産材又は地域材とすることが困難な場合には、監督員の承諾を受けた国産材とする。
※木材又は木材を原料とする資材を使用する場合は、間伐材や合法性の証明された材を使用する。 [1.4.2]

⑩ 特別な材料の工法
「改修標仕」および「標仕」に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

⑪ 空気汚染低減措置 [1.4.1]

化学物質	建築材料等	性能
ホルムアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、アセトアルデヒド等	①合板 木質系フローリング 構造用パネル 集成材 単板積層材 MDF パーティクルボード その他の木質建材 （下地材含）	※ホルムアルデヒド放散量は『F☆☆☆☆』とする。 ※アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
	②作り付け家具 作り付け書架 実験台	※ホルムアルデヒド放散量は『F☆☆☆☆』とする。 ※アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 ※トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ないJIS規格品とする。
	③ユリア樹脂	※ホルムアルデヒド放散量は『F☆☆☆☆』とする。 ※アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
	④壁紙 ⑤木工事、内装工事に使用する接着剤 ⑥保温材、防露材 緩衝材 断熱材 ⑦塗料 ⑧仕上塗材	※ホルムアルデヒド放散量は『F☆☆☆☆』とする。 ※アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 ※⑤は併せて、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ないJIS規格品とする。 また、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシン等を含有しない難揮発性の可塑剤を使用しているJIS規格品とする。 ※⑦は併せて、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ないJIS規格品とする。
	⑨木材保存(木材の防腐・防蟻処理)剤	※クロルピリホス、ダイアジノン及びフェノブカルブを含有しない非有機リン系の薬剤とし、加圧式防腐・防蟻処理等は工場で行い、十分乾燥した後に現場へ搬入する。

※ 工事中の安全管理
接着剤及び塗料の塗布に当たっては、使用方法及び塗布量を十分に管理し、適切な乾燥時間をとるものとする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に発散した化学物質等を室外に放出させる。

⑫ 石綿含有建材の調査
事前調査 [1.5.1]
※「改修標仕」1.5.1による　・ [1.5.1]
石綿含有の分析調査
◉行う　(◉ 定性分析　・定量分析)
・行わない

13 施工調査
施工数量調査 [1.6.2]
調査項目　・防水改修　・外壁改修　・
外壁改修工事の施工数量調査を行う場合は、本特記仕様書「4-1 外壁改修工事・コンクリート打放し仕上げ外壁 1 施工数量調査」「4-4 外壁改修工事・塗り仕上げ外壁 1 施工数量調査」による
調査範囲　※図面による
調査方法　※図面による
報告書部数　部
既存部分の破壊を行った場合の補修方法 [1.6.3]
※図面による　・

14 技能士 [1.7.2]

適用工事種別	技能検定の職種
防水改修工事	・アスファルト防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・シーリング防水工事作業
外壁改修工事	・左官　・タイル張り ・塗装(建築塗装作業) ・樹脂接着剤注入施工
建具改修工事	・サッシ施工　・ガラス施工
内装改修工事	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業・表装(壁装作業) ・内装仕上施工(鋼製下地工事作業) ・左官　・建築大工 ・タイル張り
塗装改修工事	・塗装(建築塗装作業)
耐震改修工事	・鉄筋施工　・型枠施工　・とび
既製コンクリート	・ブロック建築 ・エーエルシーパネル施工
石工事	・石材施工(石張り作業)
植栽工事	・造園

15 見本施工
・実施する　工種(　) [1.7.5]

⑯ 化学物質の濃度測定
◉実施する [1.7.9]
測定対象化学物質、測定方法、測定対象室及び測定箇所は「横浜市建築局所管工事揮発性有機化合物(VOC)等の室内濃度測定マニュアル」(平成27年版)による。
◉測定箇所数：施工前 無し　施行後 7箇所
◉測定対象室は監督員の指示による。

17 中間技術検査
中間技術検査を実施する段階 [1.8.2]
(　)

⑱ 完成時の提出図書
◉完成図　(原図のサイズ　A3　) [1.9.1～3][表1.9.1]
完成図の種類
◉「改修標仕」表1.8.1のうち監督職員が指示するもの
・下記による

種類	記入内容

完成図(原図)の作成方法 [1.9.2]
◉CAD　・
CADデータ貸与　※貸与する　・貸与しない
・完成図CADデータ　(CD-R)

⑲ 完成写真
※デジタルデータで提出する
(提出方法は営繕工事写真撮影要領に準ずる)
◉200万画素(キャビネ判)程度以上
・400万画素(A4判)程度以上
・
・下記のものを監督員に提出する。
・アルバム・300×300　・A4判　1　冊提出
(・施設管理者　・発注者　・工事担当課　・　)

分類・規格	撮影箇所		
※カラー	外部　※4箇所	内部　10箇所◉	
※キャビネ版	・	・	
・	・	・	

・工事用アルバム A4判　冊提出

分類・規格	撮影箇所	
※カラー	外部　※4箇所	内部　・
※L版	・	・
・	・	・

完成写真の使用については、横浜市(建物所有者)の発行する印刷物等(広報誌など)に限り、使用を認めるものとする。
撮影業者
※監督員の承諾する撮影業者(建築完成写真撮影の実績のあるもの)とする。
・指定しない

⑳ 設備工事との施工区分
施工範囲
※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強
※図示した壁、天井仕上材の切込み及び下地材の補強
※駆動装置が電動による建具類の２次配線及び操作スイッチ
※自動閉鎖装置取付箇所の切込み及び補強
◉その他(A-03図　)

21 建築基準法に基づく区分
※建築基準法に基づき定められる風圧区分等
・風速　(Vo＝　※34m/s　・　m/s)
・地表面粗度区分　(・Ⅰ　・Ⅱ　※Ⅲ　・Ⅳ)
・垂直積雪量　(　※　30cm　・　cm　)

㉒ 電子納品
※対象工事とする
◉工事記録写真　◉施工図　◉完成図　◉製作図
◉打合せ記録　◉その他(再生資源計画実施ファイル)
・対象工事としない

23 その他

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	R6.3月　縮尺　NO.SCALE	図面名称	建築改修工事特記仕様書(その1)
設計者			
株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹		図面番号	A-04

② 仮設工事

1 騒音・粉じん等の対策
騒音・粉じん等の対策 [2.1.3]
・防音パネル ・防音シート
防音パネル等の取付け足場等の範囲等
※図面による ・

② 足場その他
内部足場 種別 ※脚立、足場板等 ・ [2.2.1]
外部足場 ※脚立、足場板等 ・
・外部足場 ・設置する
(枠組み足場については、特則仕様書による)
・防護シートによる養生 ・行う
材料、撤去材等の運搬方法 [2.2.1][表2.2.1]
・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種

③ 既存部分の養生
既存部分の養生 ※ビニルシート等 ⊙合板 (図面による) [2.2.1]
既存家具等の養生 ※ビニルシート等 ・
固定された備品、机・ロッカー等の移動・行う(図面による)
外部開口部の養生 ⊙行う(図面による)

④ 仮設間仕切
仮設間仕切等の種別 [2.3.2][表2.3.1]

種別	下地	材質	充填材	塗装
・A種	・木下地	⊙せっこうボード (※9.5 ・)	厚さ mm	・片面 ※無し
※B種	※軽量鉄骨	※合板 (※9.0 ・)		
・C種	・単管下地	防炎シート		
仮設扉	※木製扉 ・	※合板張り		※無し ・あり
	・鋼製扉	※片面フラッシュ程度 ・		

5 監督員事務所
・設ける [2.4.1]
・既存建物内の一部を使用する
・構内に新設する
監督員事務所を設ける場合の規模
・10㎡程度 ・20㎡程度 ・30㎡程度・ ㎡程度

6 監督員事務所の設備、備品
備品の設置 [2.4.1]
備品の種類 ( )
数量 ( )

⑦ 工事標示板
※工事現場の適切な場所に「特則仕様書」1.23の標示板を設ける。(900mm×1800mm、白地にゴシック黒文字) [2.4.1]

⑧ 工事用水
構内既存の施設
※利用できる(・有償 ⊙無償)
・利用できない

⑨ 工事用電力
構内既存の施設
※利用できる(・有償 ⊙無償)
・利用できない

⑩ 仮囲い
・位置・仕様については参考図を参照のこと。

11 工事用車両の駐車場所、資機材の置場所
※工事現場内
・位置・仕様については参考図を参照のこと。

12 その他
・

3 防水改修工事

1 降雨等に対する養生方法(とい共)
※「改修標仕」3.1.3(5)による [3.1.3][3.3.3]
・

2 防水改修方法
・( ) 工法 [3.1.4][表3.1.1]

3 シーリング改修工法
・シーリング充填工法 ・シーリング再充填工法 ・ [3.1.4]
・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法 [表3.1.2]

4 改修用ドレン
・設ける(主防水材製造所の仕様による) [3.2.5]

5 既存下地の処理
補修箇所の形状、長さ、数量等 [3.2.6]
※図面による ・
立上り部保護層、防水層の撤去
・行う ・行わない
既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした [3.2.6]
立上り部の補修
・POS、POSI工法(機械的固定方法)
※「改修標仕」3.2.6(4)(ｳ)(g)による
・

6 既存露出防水層表面の仕上げ塗装除去
・行う [3.2.6]

7 脱気装置
・設ける [3.3.3][3.4.3][3.5.3][3.6.3]

種類	材質	設置数量
平面部脱気型	・ポリスチレン ・ABS樹脂 ・ステンレス ・鋳鉄 ・	※製造所の指定による ・1個/80㎡ ・ 個/ ㎡
立上がり部脱気型	・合成ゴム ・塩化ビニル樹脂 ・ステンレス ・鋼鋼	※製造所の指定による ・1個/立上り長さ10m ・ 個/ ㎡

8 アスファルト防水
防水保証期間
(引渡しの日から
・屋根 年間 ・外壁 年間 ・その他 年間)

施工箇所	工法	種別
	・P1B	※B-2 ・B-1 ・B-3
	・P1BI ・T1BI	※BI-2 ・BI-1 ・BI-3
	・P2AI	※AI-2 ・AI-1 ・AI-3
	・P2A	※A-2 ・A-1 ・A-3
	・M4C	※C-2 ・C-1 ・C-3 ・C-4
	・M3D ・POD	※D-2 ・D-1 ・D-3 ・D-4
	・P0DI ・M3DI ・M4DI	※DI-2 ・DI-1
	・P1E ・P2E	※E-2 ・E-1

アスファルトの種類 [3.2.2(7)]による
押え金物 [3.3.2]
※アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度
・
断熱材 [3.3.2]

工法	種類	厚さ(mm)
P1BI P2AI T1BI	※JIS A9521(建築用断熱材)に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付き) ・	・
P0DI M3DI M4DI	※JIS A9521に基づく発泡プラスチック断熱材(硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号若しくは2号の場合、透湿係数を除く規格に準ずるもの) ・	・

絶縁用シート [3.3.2]

工法	種類	厚さ(mm)
P1B、P2A	※ポリエチレンフィルム	・0.15mm以上
P1BI、P2AI T1BI	※フラットヤーンクロス(70g/㎡)	・

P1E、P2Eの保護層 ・設ける [3.3.3]
屋根露出防水絶縁断熱工法の断熱材張りじまい位置
※図面による ・ [3.3.4(f)(g)]
平場の保護コンクリートの施工 [3.3.5]
こて仕上げの場合 厚さ ※80mm以上 ・
仕上材がある場合 厚さ ※60mm以上 ・
屋上排水溝 ※図面による ・

立上り部の保護の方法 [3.3.5]
・乾式保護材 製造所の仕様による
・れんが押さえ
・コンクリート押さえ
・モルタル押え(屋内)

9 改質アスファルトシート防水
防水保証期間
(引渡しの日から
・屋根 年間 ・外壁 年間 ・その他 年間)
屋根露出防水絶縁断熱工法に用いる断熱材 [3.4.2]

材質	厚さ(mm)
※JIS A 9521のA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの ・	・

防水層の種別(JIS A6013による) [表3.1.1][3.4.1][3.4.2][3.4.3]

施工箇所	防水改修工法の種類	防水改修工法の種別	材質		厚さ(mm)
	・M4AS	・AS-T1	下層用	改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種)	※2.5 ・
			上層用	改質アスファルトシート(露出複層防水用R種)	※3.0 ・
		・AS-T2	改質アスファルトシート(露出単層防水用R種)		※4.0 ・
		・AS-J2	粘着層付改質アスファルトシート(露出単層防水用R種)		※3.0 ・
	・M3AS ・POAS	・AS-T3	下層用	部分粘着層付改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種)	※1.5 ・
			上層用	改質アスファルトシート(露出複層防水用R種)	※3.0 ・
		・AS-T4	改質アスファルトシート(露出単層防水用R種)		※4.0 ・
		・AS-J1	下層用	部分粘着層付改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種)	※1.5 ・
			上層用	粘着層付改質アスファルトシート(露出複層防水用R種)	※2.0 ・
		・AS-J3	粘着層付改質アスファルトシート(露出単層防水用R種)		※3.0 ・
	・M3ASI ・M4ASI ・POASI	・ASI-T1	下層用	部分粘着層付改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種)	※1.5 ・
			上層用	改質アスファルトシート(露出複層防水用R種)	※3.0 ・
		・ASI-J1	下層用	部分粘着層付改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種)	※1.5 ・
			上層用	粘着層付改質アスファルトシート(露出複層防水用R種)	※2.0 ・

10 合成高分子系ルーフィングシート防水
防水保証期間
(引渡しの日から
・屋根 年間 ・外壁 年間 ・その他 年間)
ルーフィングシートの種類及び厚さ [3.5.2][3.5.3]
(JIS A6008による) [表3.5.1、表3.5.2]

施工箇所	工法	種別	仕上塗料	使用分類
	・POS ・POSI ・S4S ・S4SI	・S-F1 ・S-M1 ・SI-F1 ・SI-M1	・ ・	※非歩行 ・軽歩行
		・S-F2 ・S-M2		
		・SI-F2 ・SI-M2		
	・S3S ・S3SI	・S-F1 ・SI-F1	・ ・	※非歩行 ・軽歩行
		・S-F2 ・SI-F2		
	・M4S ・M4SI	・S-M1	・	※非歩行 ・軽歩行
		・S-M2 ・SI-M1 ・SI-M2		

絶縁用シート 、可塑剤移行防止用シート
※発泡ポリエチレンシート ・

既存防水層下地がPCコンクリート部材及び [3.5.4]
ALCパネルの場合
(S-F1・S-F2)
目地処理 ・行う(工法)
増張り ・行う(工法)
種別S-F1及びSI-F1の場合のPCコンクリート部材 [3.5.4]

入隅部増張り
・

機械式固定工法によるルーフィングシートの風圧力に対応した工法 [3.5.4(f)(2)]
・

保護層の施工 (屋内保護密着工法)
・床塗り工法 ※[3.3.5(d)(1)～(3)]による ・
・下地ﾓﾙﾀﾙ塗り ※[6.15.6(c)(1)]に準ずる ・
・保護コンクリートの厚さ ・ mm
・立上り部の保護ﾓﾙﾀﾙ塗厚 ※7mm以下 ・ mm

11 塗膜防水
防水保証期間
(引渡しの日から
・屋根 年間 ・外壁 年間 ・その他 年間)
ウレタンゴム系塗膜防水 [表3.1.1][3.6.3][表3.6.1～表3.6.2]
及びゴムアスファルト系塗膜防水

施工箇所	工法	種別		その他
	・POX ・L4X	・X-1 ・X-1H ・X-2 ・X-2H		仕上塗料塗り
	・P1Y ・P2Y	※Y-2 ・	保護層	※適用する ・適用しない

・歩行用 ・非歩行用

12 シーリング
シーリング改修工法 [3.1.4][表3.1.2]
・シーリング充填工法 [3.7.4～3.7.7]
・シーリング再充填工法
・拡幅シーリング再充填工法
・ブリッジ工法

シーリング材の目地寸法 [3.7.3]

箇所	幅(mm)	深さ(mm)
コンクリート打継目地、ひび割れ誘発目地	・20以上 ・	・10以上 ・
[5.13.3]以外のガラス回り	⊙5以上	⊙5以上
上記以外	・10以上 ・	・10以上 ・

ブリッジ工法 ボンドブレーカー張り ・適用する [3.7.7]
エッジング材張り ・適用する
接着性試験 ※簡易接着性試験 [3.7.8][図3.7.1]
・引張接着性試験

13 とい
といその他の材種 ※図面による [3.8.2][表3.8.1]
防露材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [3.8.2]
清掃口 ・設ける
鋼管製といの防露
・行う(工法 ※「改修標仕」表3.8.4による ・)
たてどい受金物の取付け ※図面による [3.8.3]
・「改修標仕」表3.8.2による
ルーフドレン ・ろく屋根用 (・縦型 ・横型) [3.8.3]

14 アルミニウム製笠木
[3.9.2][表3.9.1][表5.2.2]

種類	製品幅(mm)	板厚(mm)	表面処理の種別	固定間隔	備考
押出し ・250形	・250	※2.0 ・1.6	※AB-1種 ・AB-2種 ・	固定方法および間隔は、品質計画で定めたもの	隅角部および突当たり部等の役物は、本体製造所の仕様による
・300形	・300	・1.8			
・350形	・350				
・	・	・			
折り曲げ形	・	※2.0 ・			

笠木の下地補修 [3.9.3]
・行う (工法 ※図面による ・)
笠木の取付方法 [3.9.3]
※「改修標仕」3.9.3(b)による ・図面による

15 その他
・

4-1 外壁改修工事・コンクリート打放し仕上げ外壁

1 施工数量調査
調査範囲 ※躯体コンクリート面 ・図面による [1.5.2]
調査内容
ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 調査報告書の部数 ※2部

2 ひび割れ部改修工法
※樹脂注入工法 [4.1.4][4.2.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2～1.0	・200～300		
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2～1.0	・250～300		
・機械式エポキシ樹脂注入工法				

注入材料 [4.2.4]
※建築補修用注入エポキシ樹脂(JIS A6024)
・低粘度形 ・中粘度形
・確認方法 ※コアの抜き取り ・( ) [4.2.5]
(抜取り部の補修方法:)
(抜取り個数:)
・Uカットシール材充填工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.6]

充填材料	品質・規格等	備考
・シーリング用材料	※1成分形または2成分形ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない
・可とう性エポキシ樹脂	・JIS A 6024	

ポリマーセメントモルタルの品質・規格等 実績等の資料を監督員に提出する
・シール工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.7]

シール材料	品質・規格等
・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂	・JIS A 6024

3 欠損部改修工法
※充填工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.8]

充填材料	品質・規格等
・エポキシ樹脂モルタル	・JIS A 6024
・ポリマーセメントモルタル	

4 その他
・

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	R6.3月	縮尺	NO.SCALE	図面名称	建築改修工事特記仕様書(その2)
設計者					
株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹				図面番号	A-05

4－2 外壁改修工事・モルタル塗り仕上げ外壁

1 ひび割れ部改修工法

既存モルタル撤去工法
（範囲は図面による
撤去部分の補修は、2 欠損部改修工法による）
※樹脂注入工法 [4.1.4][4.3.5][4.3.6]
（※既存モルタル面　・既存躯体コンクリート面）

注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.05～0.2	・200～250	・	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2～1.0	・250～300		
・機械式エポキシ樹脂注入工法				

注入材料 [4.2.4]
※建築補修用注入エポキシ樹脂(JIS A6024)
・低粘度形　・中粘度形
・確認(コア抜取り)を行う。 [4.2.5]
(抜取り部の補修方法：　)
(抜取り個数：　)
・Uカットシール材充填工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.6][4.3.7]

充填材料	品質・規格等	備考
・シーリング用材料	※1成分形または2成分形ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない
・可とう性エポキシ樹脂	・JIS A 6024	

ポリマーセメントモルタルの品質・規格等　実績等の資料を監督員に提出する
・シール工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.7][4.3.8]

シール材料	品質・規格等
・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂	・JIS A 6024

・既存塗り仕上げ材の撤去及び補修 [4.4.2][4.6.3]
(※シール工法の範囲　・　)

2 欠損部改修工法

既存モルタル面の欠損部 [4.1.4][4.2.2][4.4.3][4.4.8～9]

改修工法の種類	材料	品質・規格等
・充填工法	・エポキシ樹脂モルタル	・JIS A 6024
	・ポリマーセメントモルタル	・実績等の資料を監督職員に提出
・モルタル塗替え工法	「改修標仕」4.2.2(7)による	塗り厚25mmを超える場合の補強処置 ※行う　・行わない ・図面による

既製目地材 [4.3.4]
・適用する(形状　※図面による　・　)

3 浮き部改修工法

[4.3.11～16][表4.3.3～4]

改修工法の種類(モルタルを撤去しない場合)	アンカーピンの本数(本/㎡) 一般部	指定部	注入口の箇所数(箇所/㎡) 一般部	指定部	充填量 注入量(ml/箇所)
・アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25 ・
・アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
・アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・

アンカーピン [4.3.5]
材質　※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの
・
注入口付アンカーピン [4.3.5]
材質　※ステンレスSUS304、呼び径外形6mm
・
ポリマーセメントスラリー [4.3.5]
実績等の資料を監督職員に提出

4 その他

・

4－3 外壁改修工事・タイル張り仕上げ外壁

1 ひび割れ部改修工事

改修場所　※既存タイル張り面
・既存タイル撤去面
(・コンクリート面　・モルタル面)
※樹脂注入工法 [4.1.4][4.3.4][4.5.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.05～0.2	・200～250	・	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2～1.0	・250～300		
・機械式エポキシ樹脂注入工法				

注入材料 [4.2.2]
※建築補修用注入エポキシ樹脂(JIS A6024)
・低粘度形　・中粘度形
・確認(コア抜取り)を行う。 [4.3.4]
(抜取り部の補修方法：　)
(抜取り個数：　)
・Uカットシール材充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.5][4.5.6]

充填材料	品質・規格等	備考
・シーリング用材料	※1成分形または2成分形ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない
・可とう性エポキシ樹脂	・JIS A 6024	

ポリマーセメントモルタルの品質・規格等　実績等の資料を監督員に提出する

2 欠損部改修工法

・タイル部分張替え工法 [4.1.4][4.4.7]
事前調査に基づき、適用範囲については監督員と協議する。
・タイル張替え工法 [4.1.4][4.4.8]
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 [4.4.8][表4.4.2]
位置　※「改修標仕」表4.4.2による　・図面による
タイル張りの工法 [4.4.7～8][表4.4.5]

タイルの種別	工法
・外装タイル	・密着張り　・改良積上げ張り ・改良圧着張り
・ユニットタイル	・マスク張り ・モザイクタイル張り

・タイルの試験張りを行う
・既製調合モルタル（張付け用） [4.4.5(4)(エ)④]
実績等の資料を監督職員に提出
・外装タイル貼り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験を行う [4.4.8(8)(ア)(a)]
(　)
・外装壁タイル接着剤張り [表4.4.6]

タイルの種類	裏あし高さと裏面反り	接着剤使用量
・外装タイル	裏あし高さ0.9mm以下、かつ、裏面反り±0.7mm以下	2.5kg/㎡
	上記以外	3.5kg/㎡
・ユニットタイル	裏あし高さ0.9mm以下、かつ、裏面反り±0.7mm以下	2kg/㎡
	上記以外	2.5kg/㎡
・外装壁タイル接着剤張り専用タイル以外のタイル		・

3 浮き部改修工法

[4.4.9～15][表4.3.5～6]

改修工法の種類(モルタルを撤去しない場合)	アンカーピンの本数(本/㎡) 一般部	指定部	注入口の箇所数(箇所/㎡) 一般部	指定部	充填量 注入量(ml/箇所)
・アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25 ・
・アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
・アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・
・タイル部分張替工法	－	－	－	－	
・タイル張替工法	－	－	－	－	

アンカーピン [4.3.5]
材質　※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの
・
注入口付アンカーピン [4.3.5]
材質　※ステンレスSUS304、呼び径外形6mm
・
ポリマーセメントスラリー [4.3.5]
実績等の資料を監督職員に提出
タイル部分張替工法、タイル張替工法については欠損部改修工法による

4 目地改修工法

伸縮調整目地改修工法 [4.1.4][4.4.16]

目地の位置	寸法
・図面による	・

シーリング用材料 [3.7.2][表3.7.1][4.4.16]

種類	施工箇所
・	・図面による

5 タイルの種類

[4.4.7～8]

施工箇所	形状寸法(mm)	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 あり	なし	色 標準	特注	再生材適用	対凍害性 あり	なし	用途による区分	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・		

役物
標準的な曲がり(小口、標準、二丁、屏風)の役物は一体成形とする。
・タイルの見本焼きを行う

6 その他

・

4－4 外壁改修工事・塗り仕上げ外壁

1 施工数量調査

調査範囲　※躯体コンクリート面　・図面による [1.5.2]
調査内容　ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。
コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。
調査報告書の部数　※2部

2 既存塗膜等の除去及び下地処理

既存塗膜劣化部の除去、下地処理の工法 [4.5.4][表4.5.3～7]

工法	処理範囲	下地面の補修
・サンダー工法	※既存仕上面全体　・	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法
・高圧水洗工法	※既存仕上面全体　・	
・塗膜はく離剤工法	※既存仕上面全体　・	
・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上面全体　・	

3 下地調整材

※下地調整材 [4.5.2][4.5.4]
・ポリマーセメントモルタル
製造所　性能等の確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。
・防水形仕上げ塗材主材を使用

4 仕上げ塗材仕上げ種類、仕上げの形状、工法 [4.1.4][4.5.2][表4.5.1～2]

種類	呼び名	仕上げの形状等	工法
・薄付仕上塗材	・外装薄塗材Si	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・ローラー
	・可とう形外装薄塗材Si	・砂壁状 ・さざ波状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー
・薄付仕上塗材	・外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・さざ波状 ・凹凸状 ・着色骨材砂壁状	・吹付け ・こて ・ローラー
	・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・さざ波状 ・凹凸状	・吹付け ・こて ・ローラー
	・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状	・吹付け ・ローラー
	・外装薄塗材S	・砂壁状	・吹付け
・厚付け仕上げ塗材	・外装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・掻き落とし	・吹付け ・こて
	・外装厚塗材Si ・外装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・吹付け ・こて ・ローラー
・複層仕上塗材	・複層塗材CE ・複層塗材Si ・複層塗材E ・複層塗材RE ・可とう形複層塗材CE ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RE	・凸部処理 ※凹凸模様 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー
		対候性 ※耐候形3種　・ 上塗材 溶媒　※水系　・ 樹脂　※アクリル系 外観　※つやあり ・つやなし ・メタリック 防水形の増塗材　※行う	
・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材RE ・可とう形改修塗材CE	・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー 塗り

防火材料の指定がある場合 [4.5.2]
※建築基準法に基づく認定を受けた材料
[4.5.3]
※見本帳又は見本塗板を監督員に提出する

5 マスチック塗材塗り

種別　・A種　・B種 [4.6.2]

6 外壁用塗膜防水材塗り

[4.7.2][表4.7.1][4.7.3]
仕上げの形状　・凹凸状　・ゆず肌状
・凸部処理　・さざ波状
工法　・吹付け　・ローラー
下地挙動緩衝材　・適用する　・適用しない
耐候性　・耐候形１種　※耐候形２種　・耐候形３種

7 その他

・

⑤・① 建具改修工事

1 改修工法

[5.1.3]

建具の種類		かぶせ工法	撤去工法	適用箇所
・アルミニウム製建具		・	・	※図面による　・
・鋼製建具	・外部	・	・	※図面による　・
	・内部	・	・	※図面による　・
⊙鋼製軽量建具		・	⊙	※図面による　・
・ステンレス製建具		・	・	※図面による　・
・木製建具		・	・	※図面による　・

新規に建具を設ける場合　※図面による　・

2 防火戸

防火戸の指定　※図面による [5.1.4]
防火戸の自動閉鎖機構等　※図面による

3 見本の製作等

建具見本の製作　・行う　(建具番号：　) [5.1.5]
・本工事に使用するものとして、あらかじめ製作するもの
・収まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組　・行う　(建具番号：　) [5.1.5]

4 防犯建物部品

適用する(　) [5.1.7]

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	R6.3月	縮尺	NO.SCALE	図面名称	建築改修工事特記仕様書(その3)
設計者					
株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中　克樹				図面番号	A-06

5 アルミニウム製建具

外部に面する建具の性能等級等 [5.2.2][表5.2.1]

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)
・A種	※S-4	※A-3 ・	※W-4 ・	※70 ・
・B種	※S-5			
・C種	※S-6	※A-4 ・	※W-5 ・	※100 ・

[5.2.2]

種類	性能等級	建具符号
・防音ドア	遮音性 ・T-1 ・T-2 ・T-3	
・防音サッシ	・T-4	
・断熱ドア	断熱性 ・H-1 ・H-2 ・H-3	
・断熱サッシ	・H-4 ・H-5	
・耐震ドア	面内変形追随性 ・D-1 ・D-2 ・D-3	

表面処理 [5.2.4][表5.2.2]
外部に面する建具
※BA-1種
・BA-2種 (・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー)
・BB-1種 (・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー)
・BB-2種 (・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー)
・BC-1種 (・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー)
・BC-2種 (・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー)
屋内の建具
・C種 (・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー)
結露水の処理方法 ・ [5.2.4]

6 網戸等 [5.2.3]

種類	材種	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・ mm	※16～18メッシュ ・ メッシュ
・防鳥網	・ステンレス(SUS304)線材	・1.5mm以上	・15mm以上

7 樹脂製建具

外部に面する建具の性能等級等 [5.3.2][表5.3.1]

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)
・A種	※S-4	※A-4	※W-4	※図面による
・B種	※S-5		※W-5	・
・C種	※S-6			

[表5.3.2][表5.3.3]

種類	種別	性能等級
・防音ドア	・T-A種	遮音性 T-1
・防音サッシ	・T-B種	遮音性 T-2
・断熱ドア	・H-A種	断熱性 H-4
・断熱サッシ	・H-B種	断熱性 H-5
	・H-C種	断熱性 H-5

ガラス ※複層ガラス ・単層ガラス ・ [5.3.3]
表面色 ・標準色 ・特注色 ・ [5.3.4]

8 鋼製建具

簡易気密型ドアセット [5.4.2][表5.4.1]
・気密性 A-3
・水密性 W-1
外部に面する鋼製建具の耐風圧性 [5.4.2][表5.2.1]
・S-4 ・S-5 ・S-6 ・
鋼板類 [5.4.3]
・JIS G 3302
・JIS G 3101
鋼板類のめっきの付着量 ・Z12 ・F12 [5.4.3]
鋼板類の厚さ [5.4.4]
※「改修標仕」表5.4.2による ・ mm

⑨ 鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセットの気密性 [5.2.2(1)]
※A-3 [5.2.2(2)]
戸の鋼板 [5.5.3]
※亜鉛めっき鋼板
・ビニル被覆鋼板
⊙カラー鋼板
・ステンレス鋼板
召合せ 縦小口包み板等の材質
※鋼板
・ステンレス鋼板(※SUS304 ・)
・アルミニウム合金押出形材
鋼板類の厚さ [5.5.4]
※「改修標仕」表5.5.1による ・ mm

10 ステンレス製建具

簡易気密型ドアセット [5.6.2][表5.4.1]
・気密性 A-3
・水密性 W-1
外部に面する鋼製建具の耐風圧性 [5.6.2][表5.2.1]
※S-4 ・S-5 ・S-6 ・
ステンレス鋼板 [5.6.3]
※SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1
表面仕上げ ※HL仕上げ ・ [5.6.4]
曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ [5.6.5]

建具用金物は建具表による [5.7.1～5.7.3]

11 木製建具

建具材の種別 [5.7.2]
※A種 ・B種
フラッシュ戸の表面材の種類及び品質等 [5.7.2]
種類 ※図面による ・
品質等 ※「改仕」5.7.2(2)(イ)による ・
MDFの区分 ※図面による
かまち戸の樹種 [5.7.2]
かまち( ) 鏡板( )
ふすまの材料種別 ・Ⅰ型 ・Ⅱ型 [5.7.2][表5.7.3]
ふすまの上張り [5.7.2][表5.7.3]
※新鳥の子またはビニル紙程度(押入等の裏面は除く)
・鳥の子
接着剤のホルムアルデヒド放散量 [5.7.2]
※F☆☆☆☆
枠及びくつずりの材料( ) [5.7.2]
フラッシュ戸の表面材の厚さ [5.7.3][表5.7.6]
※「改仕」表5.7.6による
・
見込み寸法 [5.7.3][表5.7.6]
※「改仕」表5.7.7による
・
ふすまの縁の仕上げ ( ) [5.7.4]

⑫ 建具用金物

建具用金物は建具表による [5.8.1～5.8.3]
マスターキー [5.8.4]
※鍵はロータリー式
⊙在来マスターキーにあわせ製作する
(本数 ※3本1組 ・)
・在来マスターキーにあわせないで製作する
(本数 ※3本1組 ・)
鍵の引渡し [5.8.4]
鍵箱への収納 ・収納する ⊙収納しない

13 自動ドア開閉装置

開閉方式 [5.9.1][5.9.2]
・片引き ・引分け [表5.9.1]
・戸の開閉方法は図面による
防錆 ・適用する
ドアの種類
・JIS A 4722 (歩行者用) ・多機能トイレ出入口
・SSLD-1 ・SSLD-2 [5.9.2][表5.9.2]
・DSLD-1 ・DSLD-2
センサーの種類 [5.9.2][表5.9.4]
・光線 (反射) センサー ・熱線センサー
・音波センサー ・光電センサー ・電波センサー
・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ
・多機能トイレスイッチ
・凍結防止措置を行う [5.9.2]

14 自閉式上吊引戸装置

自閉式上吊引戸の性能 [5.10.3][表5.10.1]
適用戸の重量 ・40kg以下
・「改修標仕」表5.9.1による
・40kgを超えるもの
・「改修標仕」表5.9.1による

15 重量シャッター

シャッターの種類 [5.11.2]
・管理用シャッター (JIS A 4705、4706に基づく)
(耐風圧強度 ・S-1 ・S-2 ・)
・外壁用防火シャッター
(耐風圧強度 ・S-1 ・S-2 ・)
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
開閉機能による種類 [5.11.2][表5.11.1]
※上部電動式(手動併用) ・上部手動式
・シャッターケースの設置 [5.11.2]
重量シャッターに使用する鋼板類の厚さ [5.11.4][表5.11.2]
・厚さを増す(図面による) ・
・安全保護装置の設置

16 軽量シャッター

開閉機能による種類 [5.12.2][表5.12.1]
※手動式 ・上部電動式(手動併用)
耐風圧強度 ・S-1 ・S-2 ・) [5.12.2]
スラットの材質 [5.12.3]
※塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 ・
スラットの形状 [5.12.4]
・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形

17 オーバーヘッドドア [5.13.2][5.13.3]

セクション材料(JIS A 4715)	開閉方式	収納形式	ガイドレールの材質
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

耐風圧性能 ・S-1 ・S-2 ・ [5.13.2]

⑬ ガラス

ガラスは建具表による [5.14.2]

⑬ ガラスとめ材 [5.14.2]

建具の種類	種類
アルミニウム製	※シーリング材 ・ガスケット ※グレイジングチャンネル形(枠込み70mmの引違い、片引障子の場合) ・
鋼製	※シーリング材 ・
ステンレス製	※シーリング材 ・

板ガラスをはめ込む溝の大きさ [5.14.3][図5.14.1]
※「改修標仕」図5.14.1による
(強化ガラス、倍強度ガラスを用いる場合を除く)

20 ガラスブロック

ガラスブロックの材料は建具表による [5.14.5]
壁用金属枠及び補強材 ※図面による [5.14.5]
シーリング材 ※SR-1 ・ [3.7.2]
金属製化粧カバーの材質、寸法、形状 ※図面による [5.14.5]
風圧力に対応した工法 ・ [5.14.5]

ⓑ 内装改修工事

① 改修範囲

・既存壁の撤去に伴う、当該壁の取合う天井・壁・床の [6.1.3]
改修範囲
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
⊙図面による
・天井内の既存壁の撤去に伴う、当該壁の取合う天井の [6.1.3]
改修範囲
※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
⊙図面による

② 既存床の撤去、下地補修

⊙ビニル床シート等の撤去 ⊗仕上げ材のみ(接着剤とも) [6.2.2]
下地モルタルの撤去 ※図面による
・合成樹脂塗り材床の撤去工法 [6.2.2]
・機械的除去工法 ・目荒し工法

③ 既存壁の撤去、下地補修

⊙間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 [6.3.2]
※「改修標仕」4.3.10による ・図面による

4 木下地等

・機械加工仕上げの程度 [6.5.1][表6.5.1]
・A種 ・B種 ・C種
手加工仕上げの程度 [6.5.1][表6.5.2]
・H-A種 ・H-B種 ・H-C種

5 材料

・現場搬入時の木材の含水率 [6.5.2(1)][表6.5.3]
※A種 ・B種
「製材の日本農林規格」による製材 [6.5.2(2)]
・下地用針葉樹製材

樹種	寸法(mm)	等級	形状(板類耳付・押角)	含水率(%)
		※2級 ・		

・造作用針葉樹製材

樹種	寸法(mm)	等級	形状(板類・角類)	含水率(%)
		・上小節 ・小節以上		

・広葉樹製材

樹種	寸法(mm)	等級	形状(耳付材の有無)	含水率(%)
		※1等 ・		

「製材の日本農林規格」以外の製材
・下地、造作及び仕上げ用製材

樹種	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率(%)	代用樹種
		・A種 ・B種				※認めない ・

・造作材 [表6.5.4]

使用箇所	部材名称	種別
生地のまま又は透明塗料塗り	枠、額縁、敷居、かもい、かまちの類	※A種 ・B種
	押入、戸棚等の内面造作の類	※A種 ・B種
不透明塗料塗り		※A種 ・B種

造作用集成材 [6.5.2(3)]
ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・
「集成材の日本農林規格」による造作用集成材
・造作用集成材

樹種	寸法(mm)	見付け材面の等級
		※1等 ・

・化粧ばり造作用集成材

樹種(化粧薄板・芯材)	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ	見付け材面の等級
			※1等 ・

・化粧ばり構造用集成柱

樹種(化粧薄板・芯材)	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	備考

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材
・造作用集成材

樹種	寸法(mm)	見付材面の品質	含水率(%)
			※15%以下 ・

・化粧ばり造作用集成材

樹種(化粧薄板・芯材)	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ	見付け材面の品質	含水率(%)
				※15%以下 ・

・化粧ばり構造用集成柱

樹種(化粧薄板・芯材)	寸法(mm)	見付け材面の品質	化粧薄板の厚さ	含水率(%)
				※15%以下 ・

造作用単板積層材 [6.5.2(4)]
ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・
・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

厚さ(mm)	表面の品質	防虫処理	

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

厚さ(mm)	表面の品質	防虫処理	含水率(%)
			※14%以下 ・

直交集成板 [6.5.2(5)]
ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・
「直交集成板の日本農林規格」による直交集成板
・普通合板

厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	材の処理
※5.5 ・		※1類 ・	・2等以上	・防虫処理 ・難燃処理
			・C-D以上	・防炎処理

・構造用合板

厚さ(mm)	等級	強度等級	接着の程度	表板の樹種名	板面の品質	防虫処理
※12 ・	※2級 ・		※1類 ※特類(屋内常時湿潤箇所) ・		・C-D以上	・する

・パーティクルボード

厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
・15		・13タイプ	・Pタイプ	
			・Mタイプ	

・構造用パネル

厚さ(mm)	等級	

接着剤のホルムアルデヒド放散量 [6.5.3]
※F☆☆☆☆ ・
・下地木材への防腐・防蟻処理を行う [6.5.5]
(適用範囲)
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 [6.5.5]
適用部位 ※図面による ・
保存処理性能区分 ・K2 ※K3 ・K4
・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理 [6.5.5]
※「改修標仕」6.5.5(1)(b)による ・
・ボード原料接着剤への薬剤混入を行う [6.5.5]
(適用範囲)
ラワン材等防虫処理 ※保存処理K1 [6.5.5]

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	R6.3月 縮尺 NO.SCALE	図面名称	建築改修工事特記仕様書(その4)
設計者			
株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹		図面番号	A-07

6 木材 [6.5.6～9]

部位		材質	備考
間仕切軸組		・杉　・松　・	
床組		・杉　・松　・	
土間スラブの類の土台等		・ひのき ・保存処理木材	
窓、出入口その他	吊元枠、水掛りの下枠、敷居	・ひのき　・	
	上記以外	・松　・杉　・	
縁甲板、上がりがまち		・ひのき　・	
壁、天井下地		・杉　・松　・	

⑦ 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 [6.6.2][表6.6.1]
屋外　※25形　・19形
屋内　※19形　・25形
屋外の野縁受、つりボルト及びインサートの間隔及び周辺部からの距離　※図面による [6.6.3]
屋外の野縁の間隔　※図面による [6.6.3]
既存の埋込みインサート　・使用する [6.6.4]
あと施工アンカーの確認試験(屋外)　・行う [6.6.4]
つりボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法 [6.6.4]
(　)
⊙天井ふところ1.5m以上の場合の補強方法 [6.6.4]
※「改修標仕」6.6.4(8)(ｱ)及び(ｲ)による
・(　)
・天井ふところ3mを越える場合の補強方法 [6.6.4]
(　)
天井下地材における耐震性を考慮した補強 [6.6.4]
・行う(方法等は図面による)
屋外の軒天井、ピロティの耐風圧性を考慮した天井等の補強 [6.6.4]
・行う(方法等は図面による)

⑧ 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーの種類 [6.7.3][表6.7.1]
・50形　⊙65形　⊙90形　・100形
スタッドの高さが5.0mを超える場合
※図面による　・

⑨ ビニル床シート張り

[6.8.2][6.8.3]

種類	種類の記号	色柄	厚さ(mm)
※発泡層のないもの	※FS ・TS	※無地 ・マーブル柄	※2.0 ⊙2.5
・発泡層のあるもの	・HS ・KS	・柄物 ・無地	・
・	・	・	・

工法　※熱溶接工法　・突付け工法(施工箇所：　)

10 ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

[6.8.2]

種類	種類の記号	厚さ(mm)	備考
※コンポジションビニル床タイル(半硬質)	KT	※2.0 ・	
・コンポジションビニル床タイル(軟質)	KT	・	
・単層ビニル床タイル	TT	・	
・複層ビニル床タイル	FT	・	
・ゴム床タイル	・	・	

11 特殊機能床材張り

・帯電防止床シート、床タイル [6.8.2]

種類	厚さ(mm)	性能
※コンポジションビニル床タイル ・	※2 ・	体積抵抗値(JIS K 6911による)1.0×10^9Ω以下または漏洩抵抗値(JIS A 1454による)1.0×10^10Ω未満
・単層ビニル床タイル	※4.0	
・複層ビニル床タイル	又は4.5	
・	・	

・視覚障害者用床タイル [6.8.2]

箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)
屋内	・塩化ビニル製	※300×300 ・	※7 ・
	・磁器又はせっ器質タイル	・	・
	・	・	・
屋外	・レジンコンクリート製	※300×300 ・	※30 ・
	・	・	・

ブロックパターンは JIS T 9251 による。

・耐動荷重性床シート [6.8.2]

種類	厚さ(mm)	備考
・	・	・
・		
・		

・防滑性床シート、床タイル [6.8.2]

種類	厚さ(mm)	性能
・	・	・
・		
・		

⑫ ビニル幅木 [6.8.2]

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)
※軟質	※1.5以上	※60　・75
・硬質	・	・100

⑬ カーペット敷き

・織じゅうたん [6.9.1～6.9.3][表6.9.1][表6.9.2]

種別	パイル形状	色柄等	帯電性	工法
・A種	・カットパイル	※単一色(無地) ・柄物(標準品) ・	人体帯電圧 ※3kV以下 ・	※グリッパー工法(下敷き材共) ・
・B種	・ループパイル			
・C種	・カット、ループパイル併用			

・タフテッドカーペット [6.9.2～6.9.3][表6.9.2]

パイル形状	パイル(mm)長	帯電性	工法
・カットパイル	※5～7 ・	人体帯電圧 ※3kV以下 ・	※全面接着工法 ・グリッパー工法(下敷き材共)
・マルチレベルループ	※4～6 ・		
・レベルループパイル	※4 ・		
・カット、ループ併用	・		

・ニードルパンチカーペット [6.9.2]

厚さ(mm)	帯電性
・	人体帯電圧　※3kV以下　・

⊙タイルカーペット [6.9.2]

種別	パイル形状	電気抵抗値(Ω)	寸法	総厚さ
※第一種	※ループパイル	※適用しない	※500mm角 ・	※6.5mm ・
・第二種	・カットパイル	・10^9Ω以下		

・タイルカーペットの敷き方 [6.9.3]

・平場	※市松敷き　・
・階段部分	※模様流し　・

・下敷き材(JIS L3204) [6.9.2]

※第2種2号	※呼び厚さ　8mm

・見切り、押え金物の材質、種類及び形状 [6.9.2]
※図面による　・

14 合成樹脂塗床 [6.10.3][表6.10.4～表6.10.7]

種別	仕上げの種類
・弾性ウレタン樹脂系塗床材	※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂系塗床材	・薄膜流しのべ仕上げ(※平滑　・防滑) ・厚膜流しのべ仕上げ(※平滑　・防滑) ・樹脂モルタル仕上げ(※平滑　・防滑)

15 フローリング張り

・単層フローリング [6.11.2～6.11.6][表6.11.1～表6.11.5]

品名	樹種	厚さ(mm)	大きさ(mm)	工法
・フローリングボード1等	※なら ・	・15 ・8	幅75以上 長さ400以上	・乾式 ・釘留め工法(根太張り工法) ・釘留め工法(直張り工法) ・接着工法 ・湿式 ・モルタル埋込み工法
・フローリングブロック1等	・	・	・	
・	・	・	・	

フローリング゛、接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

・天然木化粧複合フローリング [6.11.2～6.11.6][表6.11.3～表6.11.5]

品名	樹種	防湿処理	工法	種別
・複合フローリング	※なら ・	・行う	・乾式 ・釘留め工法(根太張り工法) ・釘留め工法(直張り工法) ・接着工法 ・湿式 ・モルタル埋込み工法	・A種 ・B種 ・C種

フローリング゛、接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

・フローリング裏面の緩衝材(接着工法) [6.11.5]
※合成樹脂発泡シート　・

・フローリングの塗装 [6.11.6]
※図面による　・

16 畳敷き [6.12.2][表6.12.1]

畳の種別	・A種　・B種　・C種 ・D種　(畳床：KT-　)

⑰ せっこうボードその他ボードおよび合板張り

[6.13.2][表6.13.1]

種類	種類の記号	厚さ(mm)、規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・15　・20　・25　・
・中質木毛セメント板	MW	・15　・20　・25　・
・普通木毛セメント板	NW	・15　・20　・25　・
・硬質木片セメント板	HF	・12　・15　・18　・
・普通木片セメント板	NF	・25　・30　・50　・
・繊維強化セメント板(けい酸カルシウム板のタイプ2)	0.8FK 1.0FK	・5　・6　・8　・10　・12
・火山性ガラス質複層板(VSボード)	A1	・
・ハードファイバーボード	HB	・素地 ・化粧(・内装用・外装用) ・2.5　・3.5　・5　・7
・ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・素地　・化粧 ・3　・7　・9　・12　・15
・インシュレーションファイバーボード	IB	・タタミ　・A級 ・シージング ・9　・10　・12　・15　・18 ・
・素地パーティクルボード(研磨板)	RS	・9　・10　・12　・15　・18 ・
・化粧パーティクルボード(研磨板)	VS	
・化粧パーティクルボード(単板オーバーレイ)	DV	
・化粧パーティクルボード(プラスチックオーバーレイ)	DO	
・化粧パーティクルボード(塗装)	DC	
・ロックウール吸音材	・RW-F ・RW-B ・RW-BL	・25　・40　・50　・
・グラスウール吸音材	・GW-F ・GW-B	・50　・75　・90　・ ・25　・40　・50　・
⊙ロックウール化粧吸音板	DR	フラットタイプ (・9　⊙12　・　) 凹凸タイプ (・12　・15　・　)
・吸音用インシュレーションファイバーボード	IB	・9　・12　・
・吸音用木毛セメント板	WWCB	・15　・20　・25　・
・吸音用あなあきせっこうボード	GB-P	・9.5　・12.5　・
・吸音用あなあきハードファイバーボード	HB-P	・3.5　・5　・7　・
⊙せっこうボード	GB-R	⊙9.5　⊙12.5　・
⊙シージングせっこうボード	GB-S	・9.5　⊙12.5　・
⊙強化せっこうボード	GB-F	⊙12.5　⊙15　・21　・
・せっこうラスボード	GB-L	・9.5　・
・化粧せっこうボード	GB-D	・9.5　・
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	・9.5　・ 化粧　・無 ・有(トラバーチン模様)
・化粧せっこう吸音ボード	GB-P	・9.5　・
・木目化粧せっこうボード		・9.5　・ ・柾目　・板目
⊙普通合板	⊙1類　・2類 ・2.5　・4　・5.5　・9　・ ・有孔(・5.5　⊙9　・　) 樹種　・しな　⊙ラワン 処理　・防虫　・難燃	
・天然木化粧板	樹種　・なら　・しおじ　・ 処理　・防虫　・難燃 厚さ　・4.2　・	
・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法(・　) 厚さ　・ 処理　・防虫　・難燃	
⊙フレキシブル板(無石綿)	・3　・4　・5　⊙6　・8	

合板、接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

遮音シール材 [6.13.2]
・適用する(・アクリル系シーリング　・ウレタン系シーリング　・ジョイントコンパウンド)
下地 [6.13.3]
・軽量鉄骨下地　・木下地　・
合板類の張付け　・A種　※B種 [表6.13.3]
せっこうボードの目地工法 [表6.13.5]

目地工法の種類	せっこうボードのエッジの種類
・継目処理工法	・テーパーエッジ　・ベベルエッジ
・突付け工法	・ベベルエッジ　・スクェアエッジ
・目透し工法	

⑱ 壁紙張り [6.14.2]

施工箇所	壁紙の種類					防火性能の級別	品質等
	紙	織物	ビニル	化学繊維	無機質		
壁改修部	・	・	⊙	・	・	⊙不燃 ・準不燃 ・難燃	
壁新設部	・	・	⊙	・	・	⊙不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	

壁紙のホルムアルデヒド放散量 [6.14.2]
※F☆☆☆☆　・
素地ごしらえ [6.14.3][7.3.5～7.3.7]
・モルタル、プラスター面
※B種　・　(施工箇所：　)
・コンクリート面
※B種　・　(施工箇所：　)
・せっこうボード面
※B種　・　(施工箇所：　)

⑲ モルタル塗り
既成目地材　・適用する(形状　・ [6]15.3]

20 タイル張り [6.16.3][6.16.4]

施工箇所	形状寸法(mm)	きじ			うわぐすり		役物		色		工法
		磁器	せっ器	陶器	施ゆう	無ゆう	あり	なし	標準	特注	
											・A ・B
											・A ・B
											・A ・B

工法欄の　・Aは[6.16.3]を　・Bは[6.16.4]を示す。
役物：標準的な曲がりの役物は一体成形とする

伸縮調整目地の位置　・図面による　・ [6.16.2]
試験張り　※行わない　・行う [6.16.3][6.16.4]
見本焼き　※行わない　・行う [6.16.3][6.16.4]
接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・

21 セルフレベリング材塗り
種類　・せっこう系　・セメント系 [6.17.2][表6.17.1]
塗厚　・図面による [6.17.3]

22 その他
・

㉑ 塗装改修工事

1 材料
※屋内の壁、天井仕上げは次の箇所を除き防火材料 [7.1.3]
とする。(箇所：　)
材質　・水性系　・
「横浜市公共建築物シックハウス対策ガイドライン」に基づくものとする。
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	R6.3月	縮尺	NO.SCALE	図面名称	建築改修工事特記仕様書(その5)
設計者					
株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中　克樹				図面番号	A-08

②下地調整
・素地ごしらえ

既存塗膜の除去範囲 [7.2.1][表7.2.1～表7.2.7]
(塗替えでRB種の場合)
※劣化部分除去 ・図面による
下地調整・素地ごしらえ [7.2.2～7.3.7][表7.2.1～7.3.7]

下地面の種類	下地調整等の種別 塗替え	新規	ひび割れ部の補修
木部	※RB種 ・	・A種 ・B種	
鉄鋼面	※RB種 ・	※C種 ・DPはB種	
亜鉛めっき鋼面	※RB種 ・	・A種 ・B種	
亜鉛めっき鋼面(鋼製建具)	※RB種 ・		
モルタル、せっこうプラスター面	※RB種 ・	・A種 ※B種	・行う
コンクリート(8節以外)、ALCパネル面	※RB種 ・	・A種 ※B種	・行う
コンクリート(8節)、押出成形セメント板面	・	・A種 ・B種	・行う
せっこうボード、その他のボード面	※RB種 ・	・A種 ・B種	

③錆止め塗料塗り

錆止め塗料塗りの種別 [7.4.2, 7.4.3][表7.4.1～7.4.6]

塗装面	適用	塗料種別	工程種別 塗替え	新規
鉄鋼面	5節(SOP塗り)	※A種	※C種 ・	・A種(見掛り) ・B種(見隠れ)
	8節(DP塗り)新規面	1回目C種 2・3回目 D種		※A種 ・B種 ・C種
	8節(DP塗り)塗替えRA種	1回目C種 2・3回目 D種	・A種 ・B種 ・C種	
	8節(DP塗り)塗替えRB・RC種	※E種	・A種 ・B種 ・C種	
	9節(屋内EP-G塗り)	・A種 ※B種	※C種 ・	・A種 (見掛り) ・B種 (見掛り)
亜鉛めっき鋼面	5節(SOP塗り)	※A種 ・B種	※C種 ・	※A種(鋼製建具等) ・B種
	8節(DP塗り)	※B種	[表7.4.6]	
	9節(屋内EP-G塗り)	※C種	※C種 ・	※A種(鋼製建具等) ・B種

耐火材吹付けなど、被覆材が接着する面への塗装
・行わない ・行う
適用箇所 ・図示による( ) ・
塗料の種別 ・「標仕」18.3.2表18.3.1( )種

④塗装

[7.5.1～7.13.2][表7.5.1～7.13.16]

塗装の種類	塗装面	工程種別 塗替え	新規
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部	※B種 ・	・A種(屋外) ・B種(屋内)
	鉄鋼面	※B種 ・	・A種 ・B種
	亜鉛めっき鋼面	※B種 ・	※B種 ・
	亜鉛めっき鋼面(鋼製建具)	※A種 ・	※B種 ・
・クリアラッカー塗り(CL)	木部	※B種 ・	※B種 ・
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)	コンクリートモルタル面	※B種 ・	※B種 ・
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	・	※A種
	亜鉛めっき鋼面	・	※A種
	コンクリート、ルタル、押出成形セメント板面	・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種	・A-1種 ・B-1種 ・C-1種
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	コンクリート、モルタル、せっこうプラスター、せっつこうボード、その他ボード面	※B種 ・	・A種 ・B種
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(屋内)(EP-G)	木部	※B種 ・	※A種 ・
	鉄鋼面	※B種 ・	・A種 ・B種
	亜鉛めっき鋼面	※A種	※A種
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)	コンクリート、モルタル、せっこうプラスター、せっつこうボード、その他ボード面	※B種 ・	・A種 ・B種
・ウレタン樹脂ワニス塗り(屋内)(UC)	木部	※B種 ・	※B種 ・
・木材保護塗料塗り(WP)	木部	※B種 ・	※B種 ・

・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)の塗料の種別 [7.5.2]
※1種 ・

・耐候性塗料塗り(DP)の上塗り塗料の等級 [7.8.2][7.8.3]
・鉄鋼面( ) ・亜鉛めっき鋼面( )
[7.9.2][7.10.2]
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)のしみ止め
・しみ止めシーラー ・( )
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)のしみ止め
・しみ止めシーラー ・( )

・ステイン塗りの塗料 [7.12.2]
・( )

防水型 外形外装薄塗材E 艶有り
※特殊合成樹脂エマルジョン(JIS A6909)
ニュートップスクリーン同等

8 耐震改修工事

8 1 一般事項

工事内容 [8.1.1]
・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事
・鉄骨ブレースの設置工事
・柱補強工事(溶接金網巻き工法・溶接閉鎖フープ巻き工法)
・柱補強工事(鋼板巻き工法・帯板巻き工法)
・柱補強工事(連続繊維補強工法)
・耐震スリット新設工事
・免震改修工事
・制振改修工事
・土工事及び地業工事
工事種別
・施工調査(施工計画調査、施工数量調査、調査のための破壊部分の補修)
・撤去工事(設備機器配管及び仕上の取り壊し・撤去(下地の一部又は全てを含む)、構造体のはつり)
・鉄筋工事
・コンクリート工事
・あと施工アンカー工事
・鉄骨工事
・グラウト工事
・連続繊維補強工事
・耐震スリット新設工事
・免震改修・制震改修工事
・土工事及び地業工事

8－1 撤去工事

1 既存部分の撤去等 [8.21.2][8.22.2][8.23.2][8.24.4][8.25.2]
既存仕上げ等の撤去 [8.26.5][8.27.2][8.28.2]
撤去の範囲
※図面による
・新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分
・既存コンクリート撤去範囲に接する部分
・
既存構造体の撤去範囲
※図面による ・
はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置
※図面による ・

2 既存部分の処理 [8.21.3][8.22.3][8.23.3][8.25.2][8.26.6][8.27.3]
既存構造体の目荒らし範囲
※打継ぎ面全面
※既存鉄骨ブレースの取り付く範囲
・図面による
目荒らしの程度
※平均深さ2～5mm最大深さ7mm程度の凹凸とし、範囲は既存柱・梁面の場合、打継ぎ面の15～30%程度、増打ち壁増設の場合は打継ぎ面の10～15%程度とする。
・図面による

8－2 鉄筋工事

1 鉄筋 異形鉄筋の種類 [8.2.1][表8.2.1]

種類の記号	呼び径
・SD295A	※D16以下 ・
・SD295B	・
・SD345	※D19以上 ・
・	・

2 溶接金網 ※図面による [8.2.2]

3 鉄筋の加工及び組立 90°未満の折り曲げ内法直径 [8.3.2][8.3.3]
※図面による ・
割裂補強筋 [8.21.6]
※スパイラル筋(仕様：図面による) ・はしご筋

4 鉄筋の継手及び定着 呼び径D19以上の柱、梁の主筋 [8.3.4]
・ガス圧接継手 ・重ね継手 ・機械式継手 ・
継手位置、重ね継手の長さ [8.3.4]
※図面による
鉄筋の定着長さ
※図面による ・表8.3.4による

5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ [8.3.5]
※「改修標仕」表8.3.6による
・軽量コンクリートの場合 mm
塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所のかぶり厚さ [8.3.5]
※図面による
特殊な鉄筋の継手(機械式継手等)のあき [8.3.5]
※図面による

6 壁の配筋及び補強 壁の配筋及び壁開口部の補強 [8.3.7]
※図面による

7 ガス圧接 圧接部の確認試験 [8.3.8]
※超音波探傷試験

8－3 コンクリート工事

1 コンクリートの種類及び強度 コンクリートの種類 [8.1.3]
・普通コンクリート ・軽量コンクリート
レディーミクストコンクリートの類別 [8.1.3][表8.1.1]
※Ⅰ類 ・Ⅱ類
国土交通大臣の認定を受けたコンクリート [8.1.3]
※図面による
調合管理強度 [8.1.4]

種類	設計基準強度 Fc (N/mm2)	スランプ	施工箇所
普通コンクリート	・36 ・	※18 ・	
軽量コンクリート	・27 ・	・ ・	

※構造体強度補正は特則仕様書による

2 普通コンクリートの材料 セメントの種類 [8.2.5][表8.2.3]
・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントA種
・フライアッシュセメントA種 ・シリカセメントA種
混和材料 [8.2.5]
・混和剤
・AE剤 ・AE減水剤 ・高性能AE減水剤
(JIS A 6204)
・フライアッシュ (・Ⅰ種・Ⅱ種・Ⅳ種) (JIS A 6201)
・コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206)
・膨張材 (JIS A 6202)
・シリカフューム (JIS A 6207)

3 コンクリートの打込み工法等 部位等のコンクリートの打設工法の指定 [8.21.8][8.23.5]

補強工法	打設工法	部位
現場打ちコンクリートの壁の増設工事	・流込み工法 [8.21.8(1)(7)、(2)]	・全ての増設壁 ・図面による ・
	・圧入工法 [8.21.8(1)(4)、(3)]	・全ての増設壁 ・図面による ・
	・	・全ての増設壁 ・図面による ・
	・	・図面による ・
鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	・流込み工法 [8.23.5(3)(a)]	・全ての補強柱 ・図面による ・
	・圧入工法 [8.23.5(3)(b)]	・全ての補強柱 ・図面による ・
	・	・全ての補強柱 ・図面による ・
	・	・図面による ・

鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法での型枠等 [8.23.5]
柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠
※発泡プラスチック保温材等を埋込む
・
柱頭及び柱脚の隙間寸法
※図面による
あと打ちコンクリート又はグラウト材の厚さ
※図面による

4 打放し仕上げの種別 ※合板せき板を用いる場合 [8.1.4][表8.1.4]

種別	施工箇所
・A種	
・B種	
・C種	

5 型枠の材料 材料 [8.2.7]
・表8.1.4の表面の仕上がり程度に見合ったもの
・[8.2.7(2)(4)]
厚さ ※12mm ・ mm
スリーブの材種、規格 [8.2.7][表8.2.6]
※図面による

8－4 あと施工アンカー工事

1 設計・施工指針 ※国土交通省「あと施工アンカー・連続繊維補強設計・施工指針」及び「同解説」によるあと施工アンカー項目

2 アンカーの種類 ・金属系アンカー [8.2.4]

セット方法	径(mm)	埋込深さ(mm)	引張耐力(kN)	せん断耐力(kN)	備考
※本体打込み式					

接合筋の種類、径、長さ ※図面による
・接着系アンカー

セット方法	径(mm)	埋込深さ(mm)	引張耐力(kN)	せん断耐力(kN)	備考
※カプセル型回転・打撃式					

アンカー筋の種類
※改修標準仕様書 表8.2.1の異形棒鋼(JIS G 3112)
・建築基準法37条の規定に基づき認定を受けた鉄筋
アンカー筋の新設壁内への定着長さ
・頭部ナット付き 20d(dはアンカー筋径)
・頭部ナット無し 30d
・
・性能確認試験を実施する
試験方法及び試験数
・図面による ・

3 穿孔前の埋込み配管等の探査 範囲 ・図面による [8.12.4]
※あと施工アンカー施工部分全て
方法 ※鉄筋探知器(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出を行う
・はつり出し
・レントゲン等(X線、超音波探査等)

4 あと施工アンカーの確認試験 施工確認試験 ※実施する ・実施しない [8.12.7]

試験方法	確認強度	試験本数
※引張試験	・図面による	・全数
	・	・図面による
・		・1ロットで3本

5 シアコネクタ ※図面による(セパレーターとしての使用は不可)

8－5 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場 ・監督員の承諾する製作工場 [8.1.5]
※(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構が「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める
「(・S ・H ・M ・R ・J)グレード」
として評価し、その評価を基に国土交通大臣が認定した工場

2 施工管理技術者 適用する [8.1.5]

3 工作図 高力ボルト、普通ボルト、 [8.13.2]
アンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ
※図面による ・

4 鋼材 鋼材の材質 [8.2.8][表8.2.7][8.2.14]

種類の記号	規格等	使用箇所	板厚方向に引張力を受ける鋼板の材料試験(JIS G 0901)
			・行う ・行わない
			・行う ・行わない

5 高力ボルト [8.2.9]

種類	ボルトの径
・トルシア形高力ボルト (2種 S10T)	・M12 ・M16 ・M20 ・M22 ・M24
・JIS形高力ボルト (2種 F10T)	・M12 ・M16 ・M20 ・M22 ・M24
・溶融亜鉛めっき高力ボルト (1種 F8T)	・M12 ・M16 ・M20 ・M22 ・M24

6 仮組 実施する( ) [8.13.10]

7 技能資格者 ・技量付加試験を実施する [8.15.3]
( )

8 材料準備 開先の形状 ※図面による [8.15.4]

9 溶接施工 ・エンドタブの切除 [8.15.7]
・適用箇所( )
スカラップの形状 ※図面による [8.15.7]

横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	R6.3月	縮尺 NO.SCALE	図面名称	建築改修工事特記仕様書(その6)
設計者			図面番号	A-09
株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹				

10 溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 [8.24.6]
工場溶接部の場合
※全数試験とする
・「標仕」 7.6.12(ｲ)(b) による
平均出検品質限界(AOQL) ※4.0% ・2.5% [8.24.6]
検査水準 ※第6水準 ・
ロットの構成( )
・
工事現場溶接の場合
※全数試験とする [8.24.6]
・「標仕」 7.6.12(ｲ)(c) による
平均出検品質限界(AOQL) ※4.0% ・2.5%
検査水準 ※第6水準 ・
ロットの構成( )
・ [8.24.7]

11 錆止め塗料の種別

SRC造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内面の錆止め塗料の種別
※A種 ・図面による
特記により塗装を行う場合の耐火被覆材の接着する面の塗料の種別 ( )
[8.25.2]

12 耐火被覆の種類及び性能

※ラス梁モルタル塗り以外、建築基準法に基づき認定を受けたものとする

種別		所要性能及び適用構造区分
・耐火材吹付け	・乾式吹付ロックウール	
	・半乾式吹付ロックウール	
	・湿式ロックウール	
・耐火板張り		
・耐火材巻付け		
・ラス張りモルタル塗り		

8-6 グラウト工事

1 柱底均しモルタル及びグラウト材

柱底均しモルタル
※無収縮モルタル ・図面による
構造用モルタルの調合(圧縮強度及びフロー値)

※図面による
無収縮モルタル材
無収縮グラウト材 プレミックス及び現場調合形 [8.25.2]

混和材料	セメント系(酸化カルシウム、カルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの)とする。
セメント	JIS R 5210(ポルトランドセメント)による普通または早強ポルトランドセメントとする。[8.26.7][8.27.4]
砂	精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については規定しない。 [8.26.7][8.27.4]

無収縮モルタルの品質及び試験方法(現場調合形においては標準使用量・配合値) [8.26.6][8.27.3]

コンシステンシー	Jロートによる流下時間 [8.26.10][8.27.6] 練混ぜ完了から3分以内の値 (秒)
ブリーディング	練り混ぜ2時間後のブリージング率 2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間 ( ) 時間以上 終結時間 ( ) 時間以内
無収縮性	材齢 7日 収縮しない
圧縮強度	材齢 3日 25N/mm 以上 材齢28日 45N/mm 以上 [8.26.13][8.27.8]
付着強度	材齢28日 ( ) N/mm 以上
塩化物量	( ) kg/m3 以下 [8.26.16][8.27.9]
試験方法	NEXCO試験「無収縮モルタル品質管理試験方法」JHS312-1999によるプレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合はプレミックスのみ試験を行う。 [8.21.6][8.26.10][8.27.6]

2 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法

増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処理方法 [9.1.1]

部位	処理方法	備考
・増設壁の上部	※グラウト材を注入 ・	※寸法は図面による [9.1.1] [9.1.1]
・	・	・

8-7 連続繊維補強工事

1 連続繊維補強工法

連続繊維補強工法
※「連続繊維補強材を用いた既存鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計・施工指針」((一財)日本建築防災協会発行)第4章補強工事の施工による工法又は同等の性能を有する工法 [9.1.3] [9.1.3] [9.1.3]

2 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等の材料

材質	形状	引張強度 (N/mm2)	ヤング係数 (N/mm2)
・炭素繊維	・一方向織物	・	・
・アラミド繊維	・一方向シート		[9.1.4]
・ガラス繊維	・二方向織物		
・	・		

3 連続繊維シートの施工準備

仕上げモルタルの除去 [9.1.5]
※構造躯体まで除去する
・除去しない(モルタルの強度試験 ・有 ・無)
・ひび割れ部の改修 [9.2.3]
種類 ( )

柱の隅角部の面取り [8.24.6]
※工法の評価内容により半径は20mm又は30mmとする。
・

4 連続繊維シートの貼付

連続繊維の目付量 [8.24.6]
※図面による ・200g/㎡ ・300g/㎡ ・ g/㎡
連続繊維シートの巻き数
※図面による ・1巻き ・2巻き

5 連続繊維補強材の強度試験

・引張強度試験を実施する [8.24.6]
試験数量( )
・付着強度試験を実施する
試験数量( )

6 補強工事後の仕上げ

※図面による [8.24.7]

7 その他

8-8 耐震スリット新設工事

1 スリットの形状及び既存鉄筋の処理

・完全スリット [8.25.2]

	一般型	一面せん断型
記号		
形状	※図面による	※図面による
幅w(mm)	※図面による ・	※図面による ・
既存鉄筋の処理	・既存鉄筋はつりだし ・切断してよい ・	・切断してよい ・

・部分スリット

	片側スリット	両側スリット
記号		
形状	※図面による	※図面による
幅w(mm)	※図面による ・	※図面による ・
目地部の残存厚さ	・壁厚の1/2以下かつ70mm以下	・壁厚の1/2以下かつ70mm以下
既存鉄筋の処理	・存置する ・既存鉄筋はつりだし ・切断してよい ・	・存置する ・切断してよい ・

2 充填材の挿入及び周囲補修

耐火材の使用箇所及び仕様 ※図面による [8.25.2]
遮音材の使用箇所及び仕様 ※図面による
撤去部分の補修 ※図面による

8-9 免震改修・制震改修工事

1 材料及び性能確認試験

※図面による [8.26.7][8.27.4]

2 支承材又は減衰材

支承材又は減衰材の材質及び諸元 [8.26.7][8.27.4]
※図面による ・設置しない

3 既存部分の処理

※図面による ・「改修標仕」8.21.3による [8.26.6][8.27.3]

4 支承材又は減衰材の設置

[8.26.10][8.27.6]
防錆処理 ・
設置位置の寸法許容差 ・
別置の支承材又は減衰材

適用	種類	形状	寸法(mm)	数量	設置条件
・有り	・				
・無し	・				

5 設置後の仕上げ

※図面による ・ [8.26.13][8.27.8]

6 検査

検査項目及び数量 ※図面による ・ [8.26.16][8.27.9]

7 割裂補強筋

・スパイラル筋 ・はしご筋 [8.21.6][8.26.10][8.27.6]
・

9 環境配慮改修工事

1 石綿の処理

一般事項
適用範囲 [9.1.1]
※除去工法 ・封じ込め工法 ・囲い込み工法
・仕上げ工事を行う

石綿粉じん濃度測定 [9.1.1]
・行う 「改修標仕」9.1.1(6)による

2 石綿含有吹付け吹付け材の除去

除去工法 ・「改修標仕」9.1.3(2)(ｱ)による [9.1.3]
石綿含有吹付け材の飛散防止措置 [9.1.3]
※湿潤化 ・固形化
石綿含有吹付け材の処分 [9.1.3]
・埋立処分 ・中間処理

3 石綿含有保温材等の除去

養生等 作業場の隔離 ・行う ・行わない [9.1.4]
石綿含有保温材等の処分
・埋立処分 ・中間処理

4 石綿含有成形板等の除去

石綿含有成形板等の処分 [9.1.5]
・埋立処分 ・中間処理

5 石綿含有仕上塗材の除去

除去工法 ・「改修標仕」9.1.6(3)による [9.1.6]
石綿含有仕上塗材の飛散防止措置 [9.1.6]
・負圧隔離養生 ・隔離養生（負圧不要）
石綿含有仕上塗材の処分 [9.1.6]
・埋立処分 ・中間処理

6 外断熱改修工事（外壁）

材料(外断熱) [9.3.2]

種類	種別	厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレン ・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材			
・押出法ポリスチレンフォーム保温材A種	・保温板(2種b)	・25 ・	
	・保温板(3種b)	・25 ・	
	・	・	
・フェノールフォーム保温材	※F☆☆☆☆		
・ロックウール	・JIS A 9504		
・グラスウール			

外装材の種類及び防火性能 [9.3.2]
・図面による
既存外壁の処置 [9.3.3]
既存外壁の仕上げ材撤去 ・図面による
下地面の清掃 ・行う
下地面欠損部の改修工法 ・図面による
工法 [9.3.4]
通気層の有無及び厚さ ・有り(厚さ)
断熱材施工 ・図面による
外装材の施工 ・図面による

7 断熱・防露改修工事

・断熱材打込み工法 [9.5.2]
断熱材の種類 ・ 厚さ ・ mm
接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F☆☆☆☆ ・
・断熱材現場発泡工法 [9.5.3]
断熱材の種類 ・A種1 ・A種1H
断熱材の吹付け厚さ ・ mm
・断熱材後張り工法 [9.5.4]
断熱材の種類 ・ 厚さ ・ mm
接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F☆☆☆☆ ・

8 屋上緑化

材料 [9.6.2]
芝及び地被類の種類等 ・図面による
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ・図面による
工法 [9.6.3]
固定工法 ・図面による
かん水装置 ・設ける（種類 ）
既存保護層の撤去 ・図面による
新植芝等の枯補償
新植した芝及び地被類の枯れ補償期間 [9.6.4]
※引渡しの日から1年 ・

9 透水性アスファルト舗装

既存舗装の撤去及び再利用 [9.7.2]
・既存舗装の撤去 ※図面による ・
・既存舗装の再利用 ※図面による ・
路床の構成、材料及び厚さ等 [9.7.3]
・遮断層を設置 (mm) [表9.7.1～9.7.3]
材料 ※川砂、海砂又は良質な山砂とし、品質は75μm ふるい通過量が10%以下のもの
・凍上抑制層を設置
材料 ・
厚さ(mm) ・
フィルター層の厚さ(mm) 車道部 ※150 ・
歩道部 ※ 50 ・
・路床安定処理
方法 ※添加材料による安定処理
厚さ ( ) mm CBR ( )
添加材料の種類 ・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・普通ポルトランドセメント
・生石灰( )
・消石灰( ) ・
・ジオテキスタイル
ジオテキスタイルの品質：
盛土の種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種
C種の場合(建設発生土受入量( )㎥ 発生場所)
発生土の処理
※指定処分 ( )
・構内指示の場所に堆積
・構内指示の場所に敷き均し
・再利用 ( )
・確認処分
・路床土の支持力比(CBR)試験
・路床の締固め度試験
・現場CBR試験
・砂の粒度試験
路盤材料及び厚さ等 [9.7.4]
路盤材料 ※再生クラッシャラン(RC-40)
・クラッシャラン(C-40)
・クラッシャラン鉄鋼スラグ(CS-40)
・
路盤厚さ(mm) 車道部 ※150 ・
歩道部 ※100 ・
・路盤の締固め度試験

舗装材料及び厚さ等
車道部 [9.7.5～6]
※ストレートアスファルト 厚さ(mm) ※50 ・
・
歩道部
※ストレートアスファルト 厚さ(mm) ※30 ・
・
舗装の平たん性 [9.7.5]
※著しい不陸がないもの
・透水性アスファルト混合物等の抽出試験を行う [9.7.9]

内部仕上表

階	部屋No.	部屋名 ／ 天井高	区分	床	巾木	壁	天井	備考
2階	改修前	L.L実習室（1） CH=2600	撤去	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=80 タイルカーペット t=6.5 貼り ：撤去（タ イルカーペット t=6.5 貼りのみ）	ビニル巾木 h=60 ：撤去	（部屋側） LGS下地(グラスウール t=100)、有孔石綿ケイカル板 t=8、VE ：撤去（有孔石綿ケイカル板 t=8、VEのみ） （廊下側） LGS下地、石膏ボード t=9+12、内部用吹付タイル：撤去 (間仕切壁部屋側) LGS下地、石膏ボード t=9+12、ビニルクロス貼り：撤去（ビニルクロス貼りのみ） （柱型 ） コンクリート下地、パーライトモルタ ル金ゴテ t=10、ビニルクロス貼り ：撤去（ビニルクロス貼りのみ）	（一般部） LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り ：撤去（石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り のみ） （設備更新部） LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り ：撤去	ホワイトボード：撤去 床置き設備収納部：撤去 既存吹き付けタイル、パーライトに アスベスト（レベル3）含有有り
	改修後	234 学生演習室１ CH=2600	改修	タイルカーペット t=6.5 貼り ：新設	ビニル巾木 h=60 ：新設	（部屋側） 石膏ボード t=9.5+12.5、ビニルクロス貼り：新設 （廊下側） LGS下地(グラスウール t=100)、強化石膏ボード t=12.5+12.5（両面） 内部用吹付タイル：新設 (間仕切壁部屋側) ビニルクロス貼り ：新設 （柱型） ビニルクロス貼り：新設	(一般部） LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り ：新設（石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り のみ） (設備更新部） LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り ：新設	－
	改修前	L.L実習室（2） CH=2600	撤去	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=150 タ イルカーペット t=6.5 貼り ：撤去（タイルカーペット t=6.5 貼りのみ）	同上	同上	同上	ホワイトボード：撤去 床置き設備収納部：撤去 既存吹き付けタイル、パーライトに アスベスト（レベル3）含有有り
	改修後	235 学生演習室２ CH=2600	改修	タイルカーペット t=6.5 貼り ：新設	同上	同上	同上	－
	改修前	L.L編集室 CH=2600	撤去	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り ：撤去（長尺塩ビシート t=2.5 貼りのみ）	同上	同上	LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り ：撤去（石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り のみ）	既存吹き付けタイル、パーライト にアスベスト（レベル3）含有有り
	改修後	245 プロジェクト研究室 CH=2600	改修	長尺塩ビシート t=2.5 貼り ：新設	同上	同上	石膏ボード t=9.5、岩綿吸音板 t=12.5 貼り ：新設（石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り のみ）	－
	改修前	録音室 CH=2600	撤去	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り ：撤去（長尺塩ビシート t=2.5 貼りのみ） LGS下地、構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り ：撤去（上床）	同上	RC壁(W=150)、LGS下地(グラスウール t=100)、有孔石綿ケイカル板 t=8、VE ：撤去（RC壁はウォールソーイング工法にて撤去）	LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り ：撤去	－
	改修後	245 プロジェクト研究室 CH=2600	改修	長尺塩ビシート t=2.5 貼り ：新設	同上	LGS下地(グラスウール t=100)、強化石膏ボード t=12.5+12.5（両面）、ビニルクロス貼り ：新設	LGS下地、石膏ボード t=9.5、岩綿吸音板 t=12.5 貼り ：新設	－
	改修前	L.Lテープライブラリー CH=2600	撤去	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り ：撤去（長尺塩ビシート t=2.5 貼りのみ）	同上	（部屋側） LGS下地、石膏ボード t=9+12、ビニルクロス貼り：撤去（ビニルクロス貼りのみ） （廊下側） LGS下地、石膏ボード t=9+12、内部用吹付タイル：撤去 (間仕切壁部屋側) LGS下地、石膏ボード t=9+12、ビニルクロス貼り：撤去（ビニルクロス貼りのみ） （柱型） コンクリート下地、パーライトモルタル金ゴテ t=10、ビニルクロス貼り ：撤去（ビニルクロス貼りのみ）	（一般部） LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り ：撤去（石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り のみ） (設備更新部) LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り ：撤去 （壁面新設部）LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り ：撤去	既存吹き付けタイル、パーライトに アスベスト（レベル3）含有有り
	改修後	236 学生演習室３ 237 学生演習室４ CH=2600	改修	長尺塩ビシート t=2.5 貼り ：新設	同上	（部屋側） ビニルクロス貼り：新設 （廊下側） LGS下地(グラスウール t=100)、強化石膏ボード t=12.5+12.5（両面） 内部用吹付タ イル：新設 (間仕切壁部屋側) ビニルクロス貼り：新設 （柱型） ビニルクロス貼り：新設	（一般部） 石膏ボード t=9.5、岩綿吸音板 t=12.5 貼り ：新設（石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り のみ） (設備更新部) LGS下地 石膏ボード t=9.5、岩綿吸音板 t=12.5 貼り：新設 （壁面新設部）石膏ボード t=9.5、岩綿吸音板 t=12.5 貼り ：新設（石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り のみ）	－
	改修前	L.L事務室 CH=2600,2350	撤去	同上	同上	同上	同上	ブラインド ：撤去（W=2550）2箇所
	改修後	243 研究室1 244 研究室2 CH=2600,2350 廊下（２）	改修	同上	同上	同上	同上	ブラインド ：新設（W=2475）2箇所

横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：N.S.	図面名称	内部仕上表（1）
設 計 者			図面番号	A-11
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹				

内部仕上表

階	部屋名 ／ 天井高		区分	床	巾木	壁	天井	備考
2階	改修前	廊下（1） CH=4380,2350	撤去	(一般部)　コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り ：全面撤去（長尺塩ビシート t=2.5貼りのみ） (壁面撤去部) コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り ：全面撤去（長尺塩ビシート t=2.5貼りのみ）	ビニル巾木 h=60 ：撤去	(廊下側)　LGS下地(グラスウール t=100)、石膏ボード t=9+12、内部用吹付タイル ：撤去 (柱型)　コンクリート下地、パーライトモルタル金ゴテ t=10、内部用吹付タ イル ：撤去（ビニルクロス貼りのみ）	(一般部)　LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=19 貼り ：撤去（石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=19 貼り のみ） (設備更新部)　LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=19 貼り ：撤去	ホワイトボード、掲示板 ：撤去 既存吹き付けタイル、パーライトにアスベスト（レベル3）含有有り
	改修後	廊下（1） CH=4380,2350	改修	(一般部)　長尺塩ビシート t=2.5 貼り ：更新 (壁面撤去部) 長尺塩ビシート t=2.5 貼り ：更新	ビニル巾木 h=60 ：新設	(廊下側)　LGS下地(グラスウール t=100)、強化石膏ボード t=12.5+12.5（両面） 内部用吹付タ イル：新設 (柱型)　ビニルクロス貼り ：新設	(一般部)　LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=19 貼り ：新設（石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り のみ） (設備更新部)　LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=12 貼り ：撤去	－
	改修前	廊下（2） CH=2350	撤去	同上	同上	同上	(一般部)　LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=19 貼り ：撤去（石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=19 貼り のみ） (設備更新部)　LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=19 貼り ：撤去 (壁面新設部)　LGS下地、石膏ボード t=9、岩綿吸音板 t=19 貼り ：撤去	ホワイトボード ：撤去 既存吹き付けタイル、パーライトにアスベスト（レベル3）含有有り
	改修後	廊下（2） CH=2350	改修	同上	同上	同上	(一般部)　－ (設備更新部)　LGS下地 石膏ボード t=9.5、岩綿吸音板 t=12 貼り：新設 (壁面新設部)　LGS下地 石膏ボード t=9.5、岩綿吸音板 t=12 貼り：新設	－

内部仕上特記

■　廻り縁について

特記なき、すべての天井改修部分には、「塩ビ天井廻り縁」を使用すること

■　補修範囲、箇所について

撤去により、既存部位の平滑性、凹凸、隙間が生じた（※原則隙間が生じないように施工すること）場合は、その範囲を撤去し、既存同材にて補修すること
また、取合い部はコーキングにより処理を行うこと

■　下地処理に付いて

新設する部位は、適切に下地処理を行い施工すること

■　塗料略号

VE　　塩化ビニルエナメル塗装
EP-G　ツヤ有り合成樹脂エマルションペイント

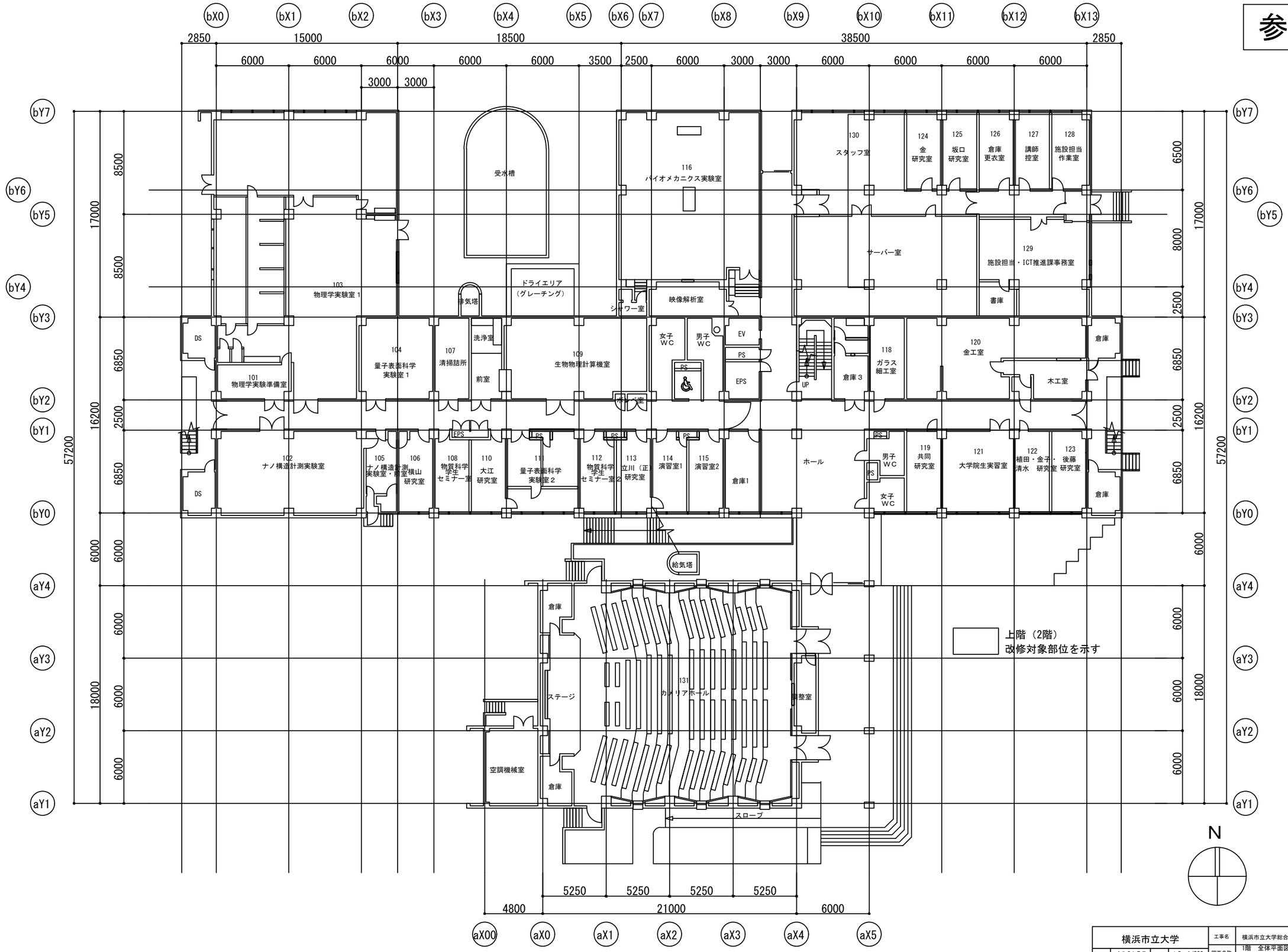
特記
・使用する材料はすべてF☆☆☆☆仕様とする。
・天井裏等（収納スペース内部等を含む）は、上記同様F☆☆☆☆仕様とする

外部仕上表

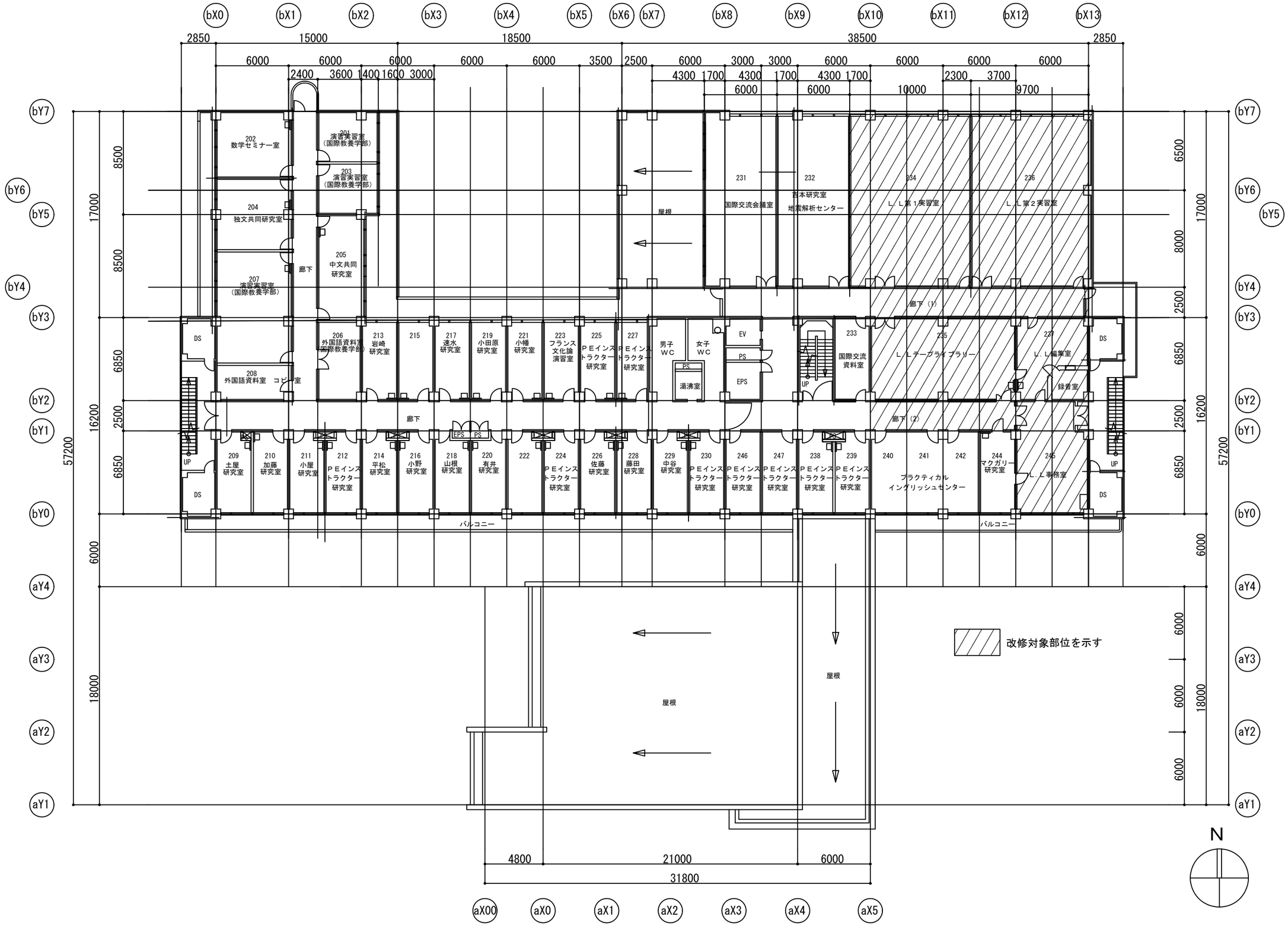
階	部　位		区分	仕　上
2階	改修前	軒天井 （南側バルコニー）	撤去	LGS、特殊石綿板 t=6、ST(単層弾性仕上塗材) 吹付 ：撤去（特殊石綿板 t=6、ST(単層弾性仕上塗材) 吹付）のみ
	改修後		改修	珪酸カルシウム板 t=6、多機能型単層弾性仕上塗材吹付 ：新設

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：N.S.	図面名称	内部仕上表（2）、外部仕上表
設　計　者				図面番号	A-12
株式会社一級建築士事務所DEN－A 一級建築士登録　第120642号　田中 克樹					

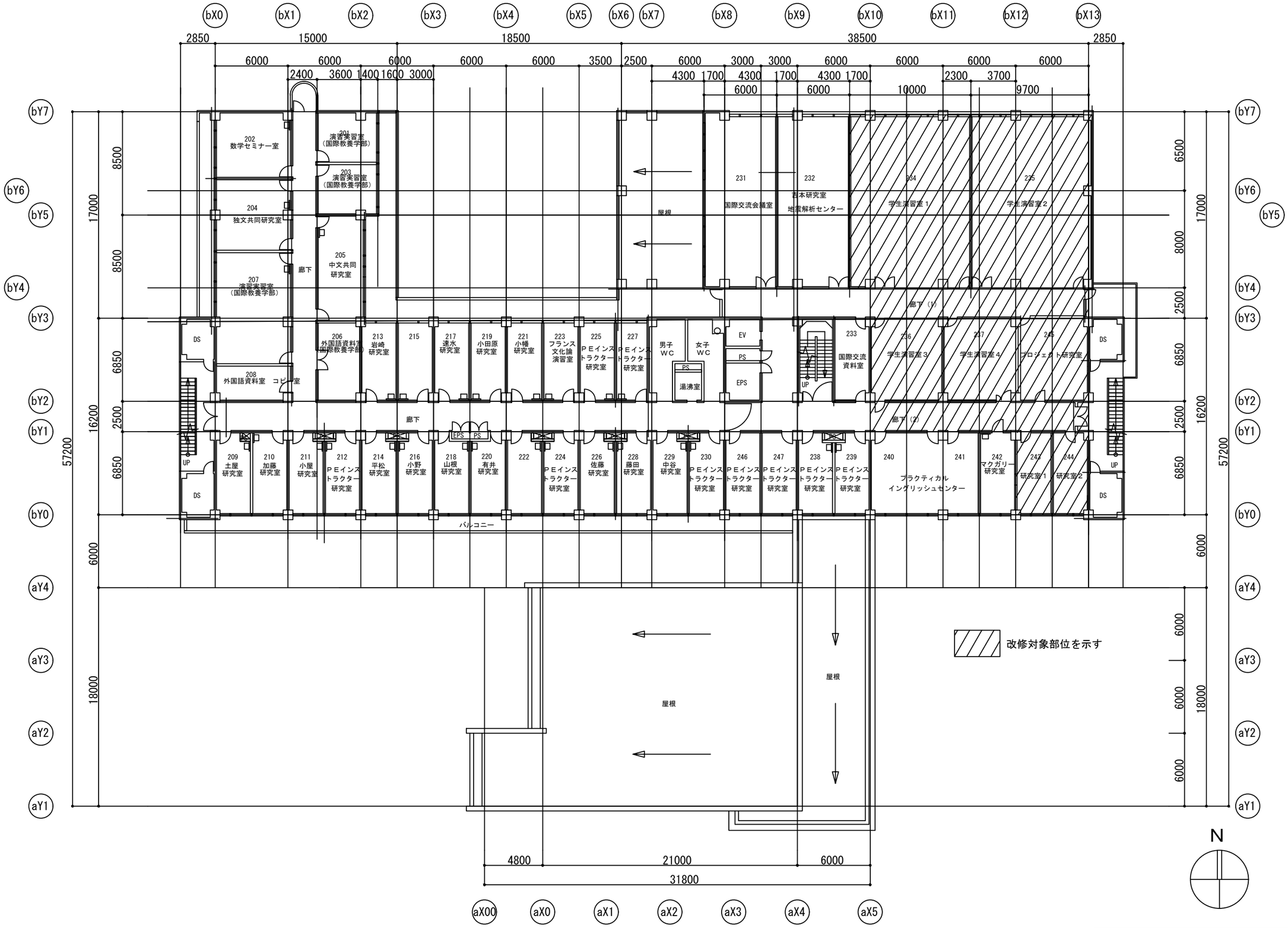
参考



横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A３：1/300	図面名称	1階　全体平面図 ＜現況図・工事範囲指示図＞
設計者				
株式会社一級建築士事務所DEN－A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹			図面番号	A-13

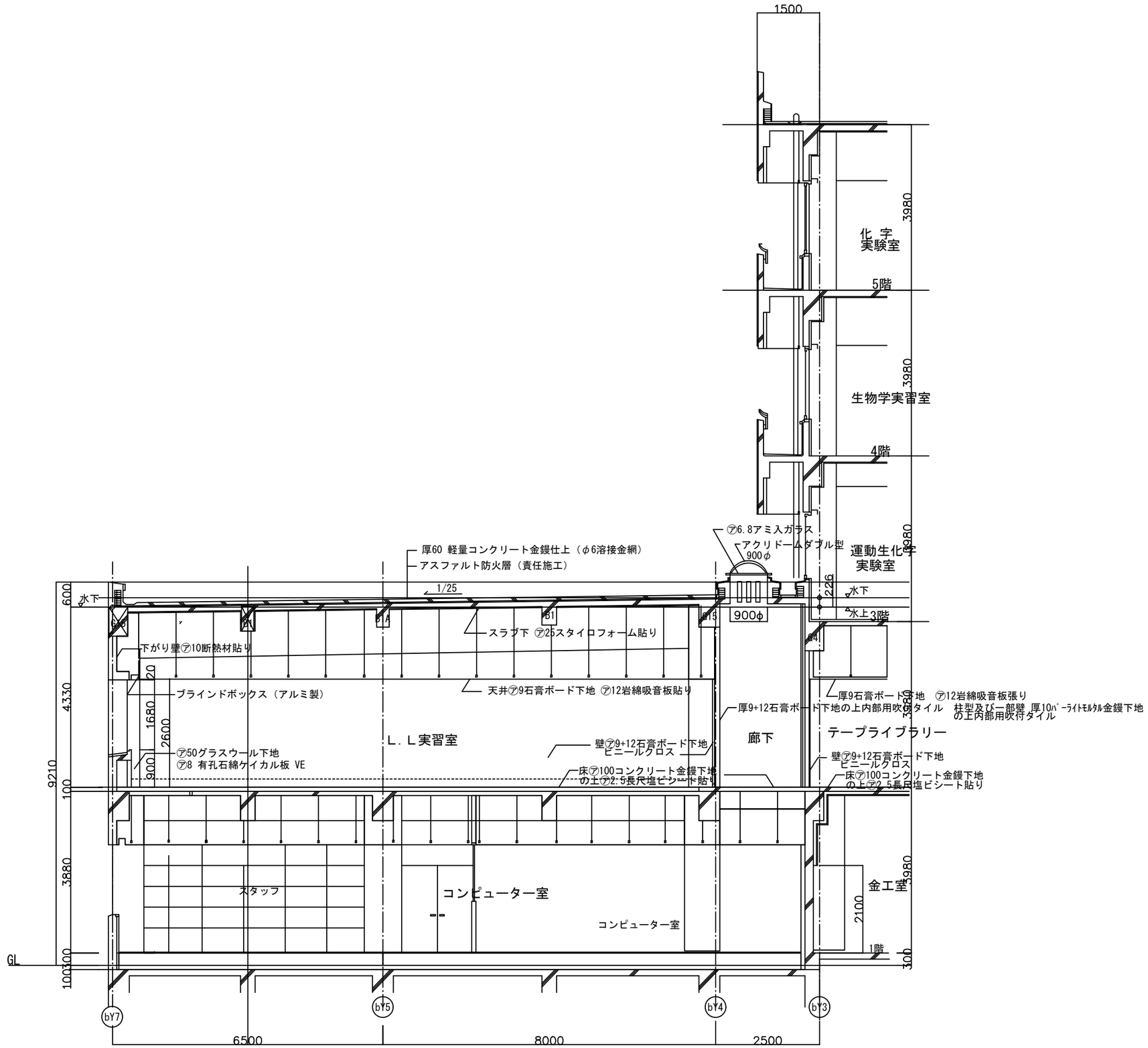


横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/300	図面名称	2階　全体平面図 ＜現況図・工事範囲指示図＞
設計者			図面番号	A-14
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				



横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/300	図面名称	2階　全体平面図　＜改修＞
設計者			図面番号	A-15
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				

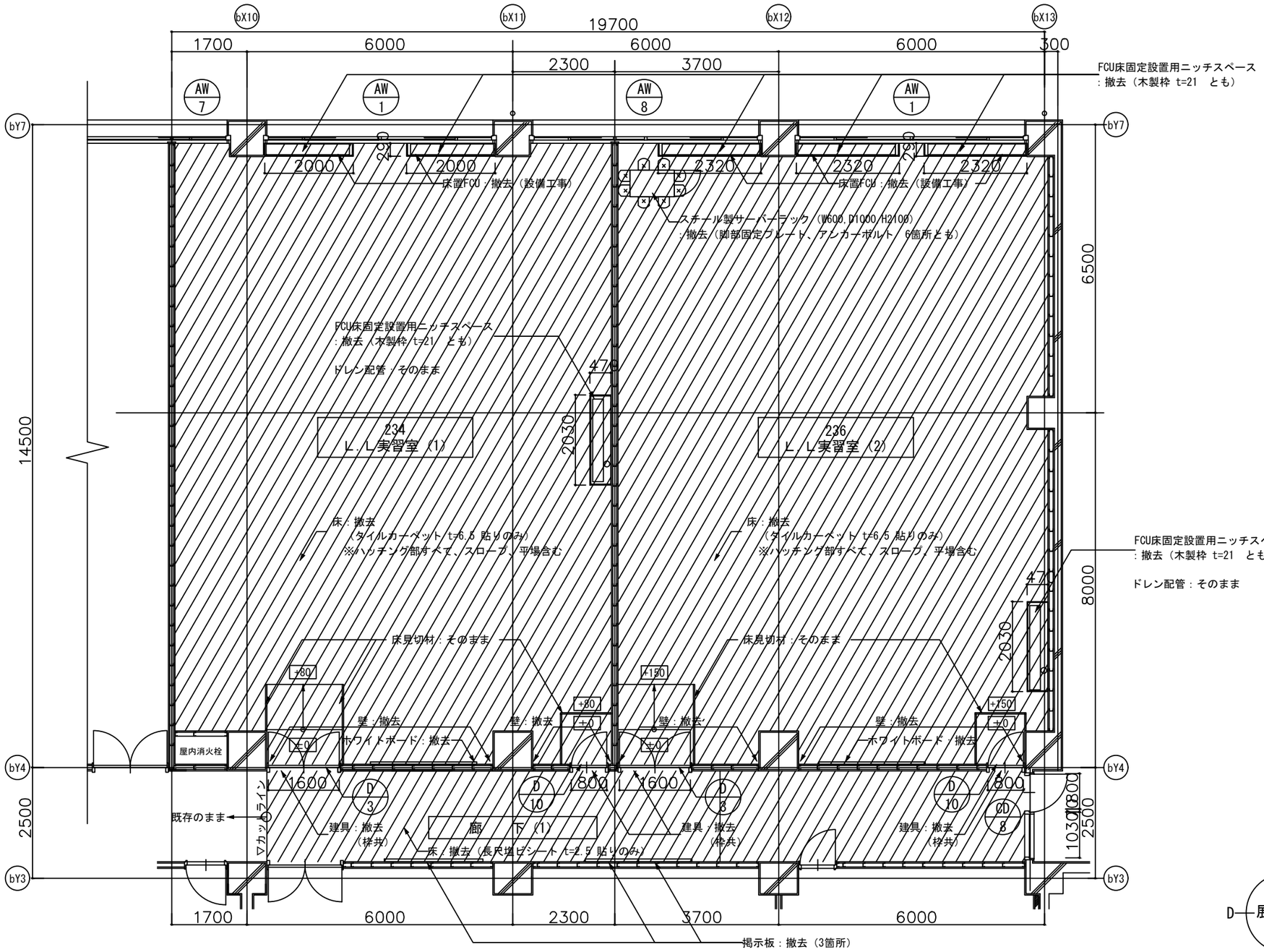
参考



断面図 S=1:50

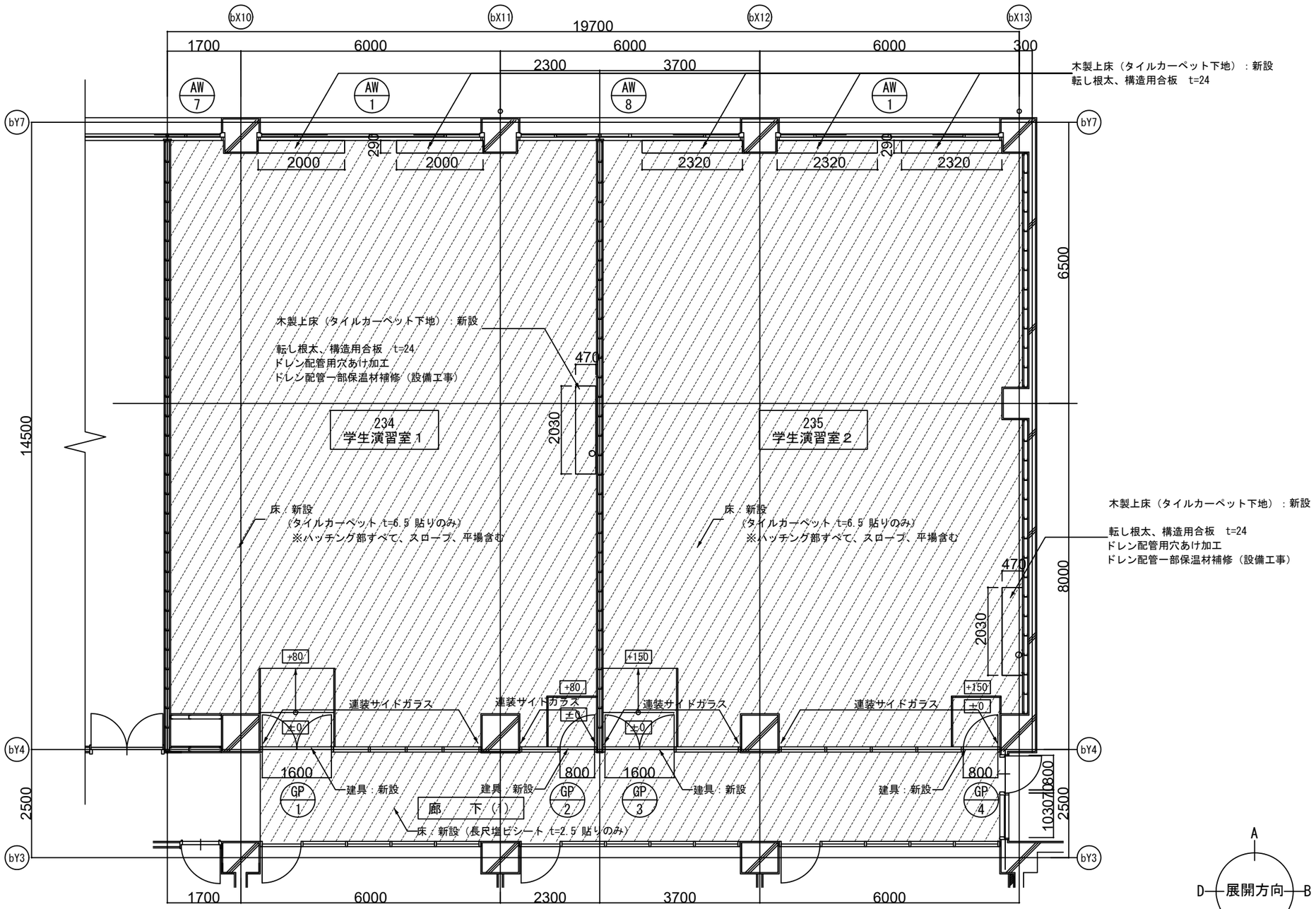
横浜市建築局		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日 令和6年3月	縮尺 A3:1/100	図面名称	断面詳細図 bY3-bY7 ＜現況図＞
設計者		図面番号	A-16

撤去



横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100
設計者		図面名称	平面詳細図 <撤去>（1） L.L実習室（1）、（2）
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹		図面番号	A-17

改修

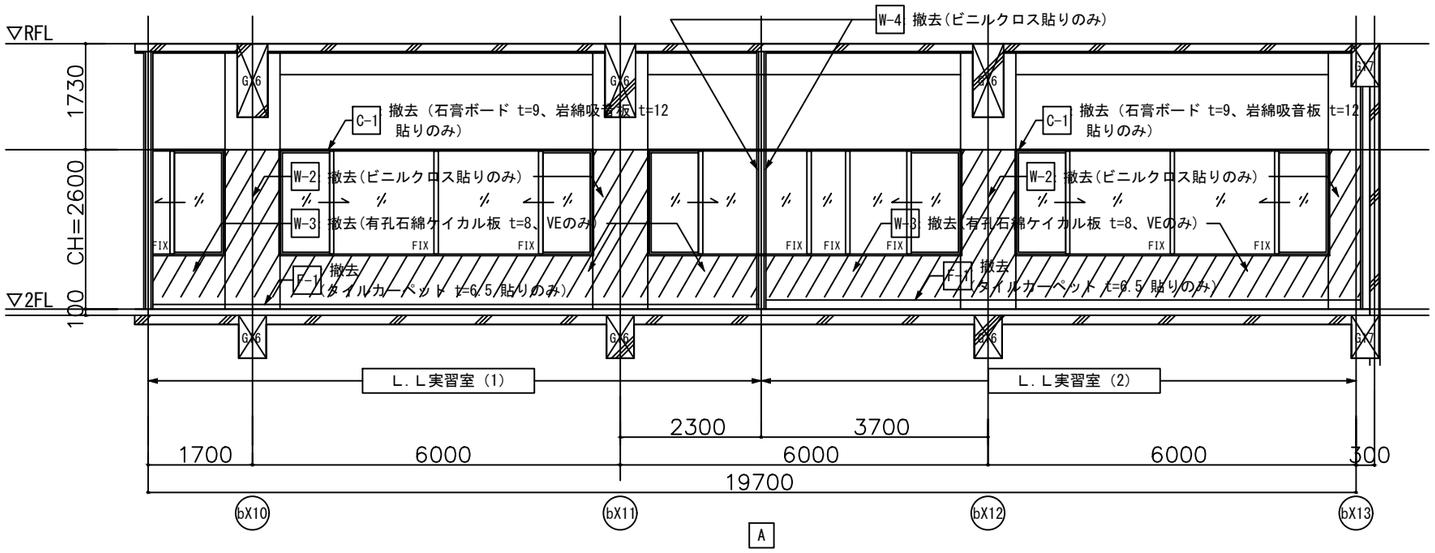


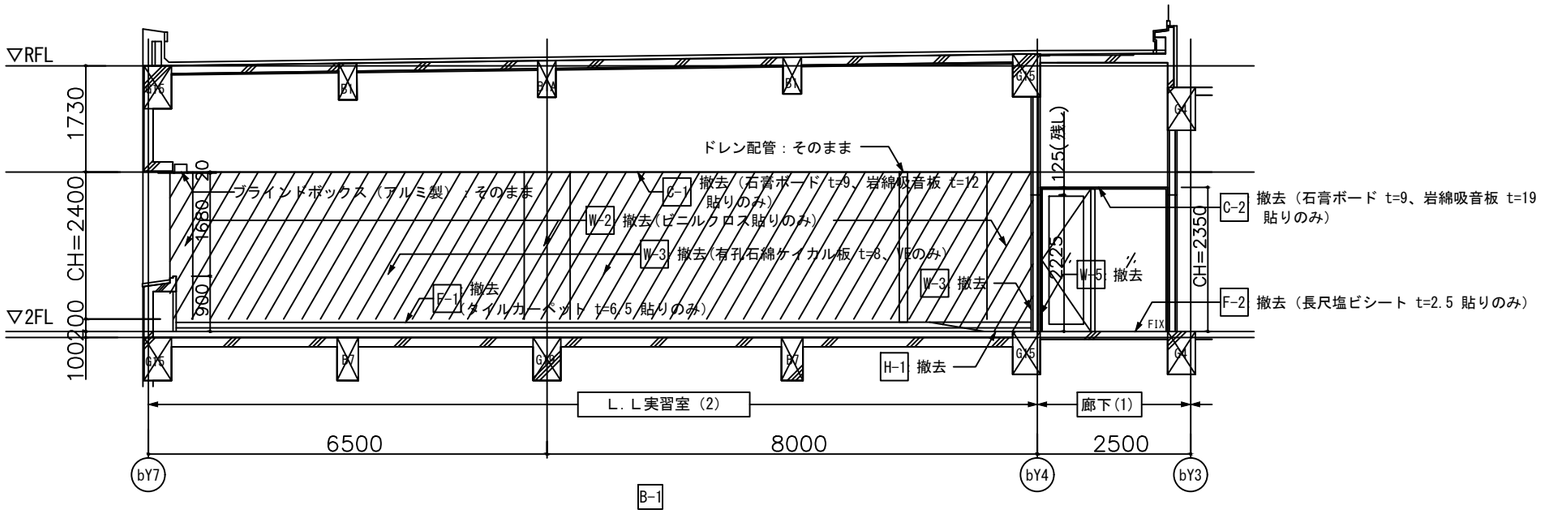
横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100	図面名称	平面詳細図 <改修>（1） 学生演習室１，２
設計者		図面番号	A-18
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　樹中 茂樹			

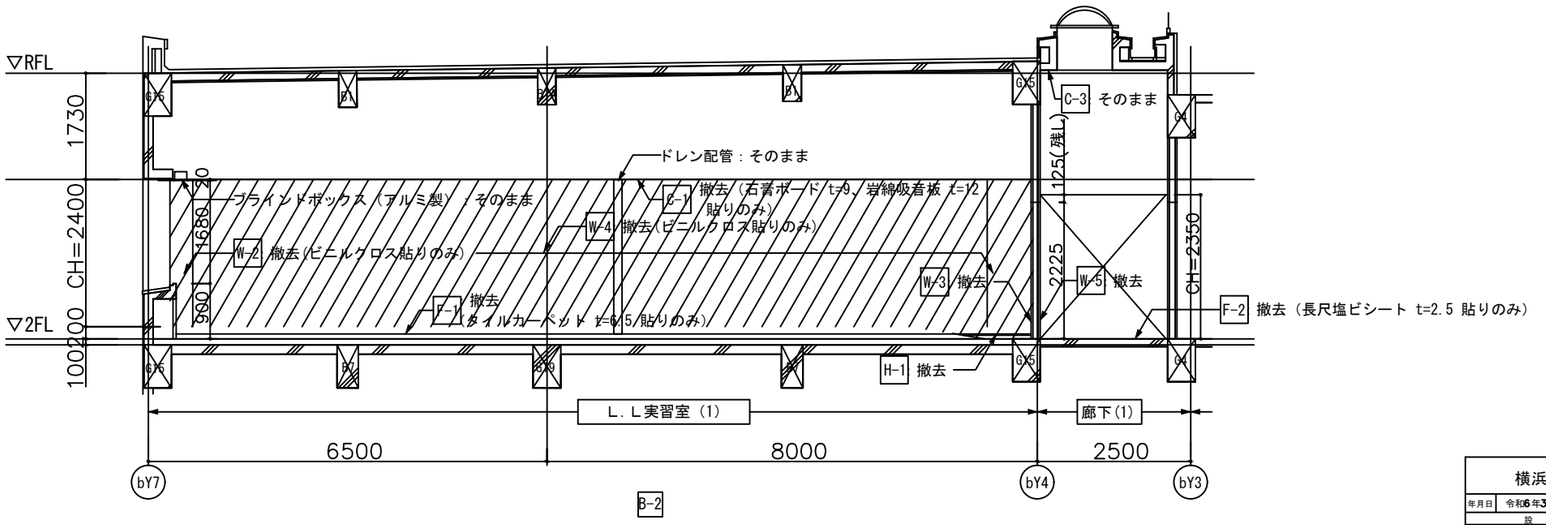
撤去

L.L実習室（1）、（2）		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地 石膏ボード t=9+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地 石膏ボード t=9+12 内部用吹付タイル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例	
	壁面、建具　撤去を示す





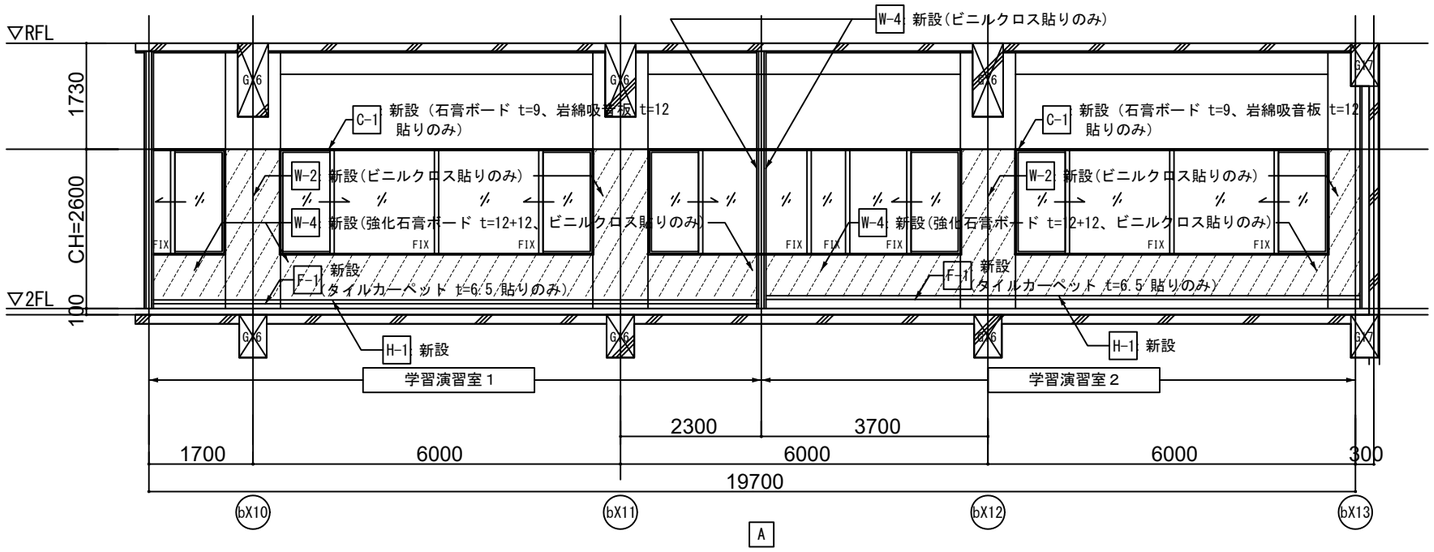


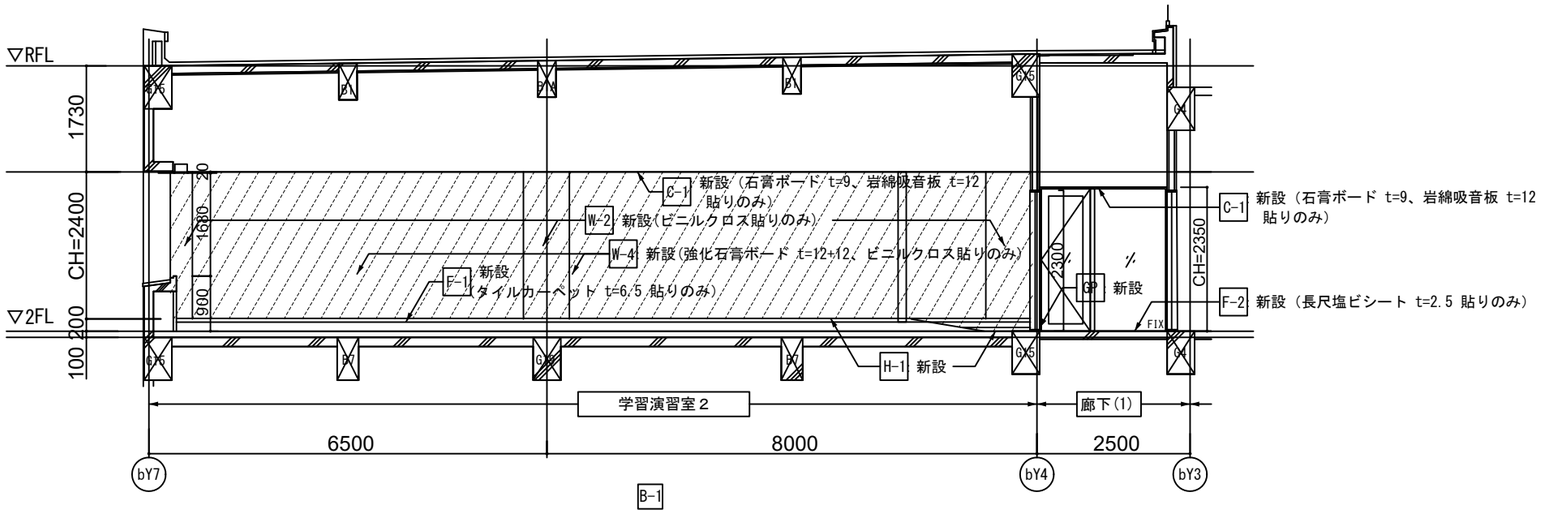
横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	展開図 <撤去>（1）L.L実習室（1）、（2）
設計者				
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹			図面番号	A-19

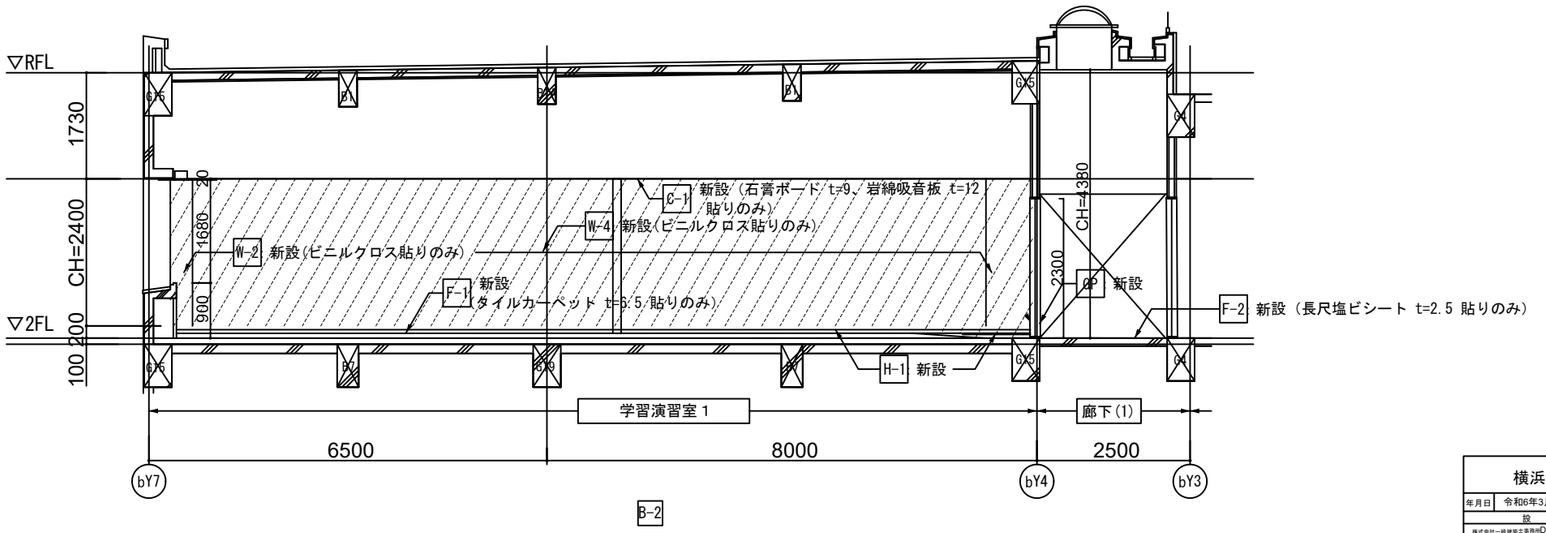
改修

学生演習室１、学生演習室２		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 内部用吹付タ イル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例	
	壁面、建具　新設を示す





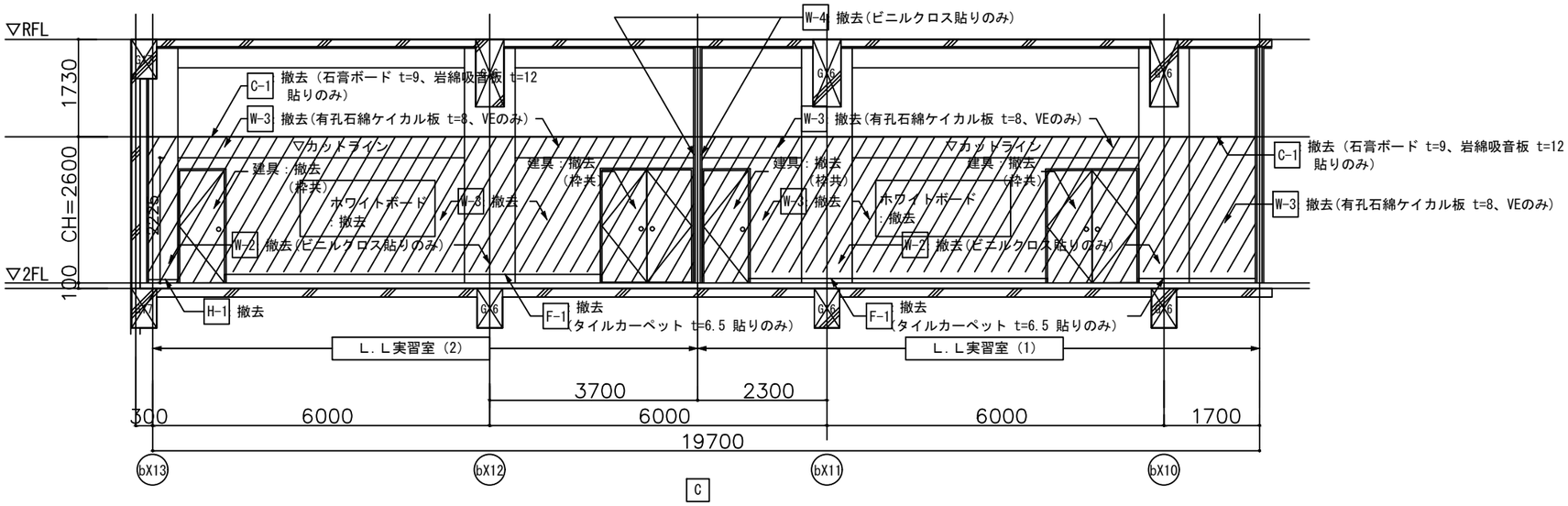


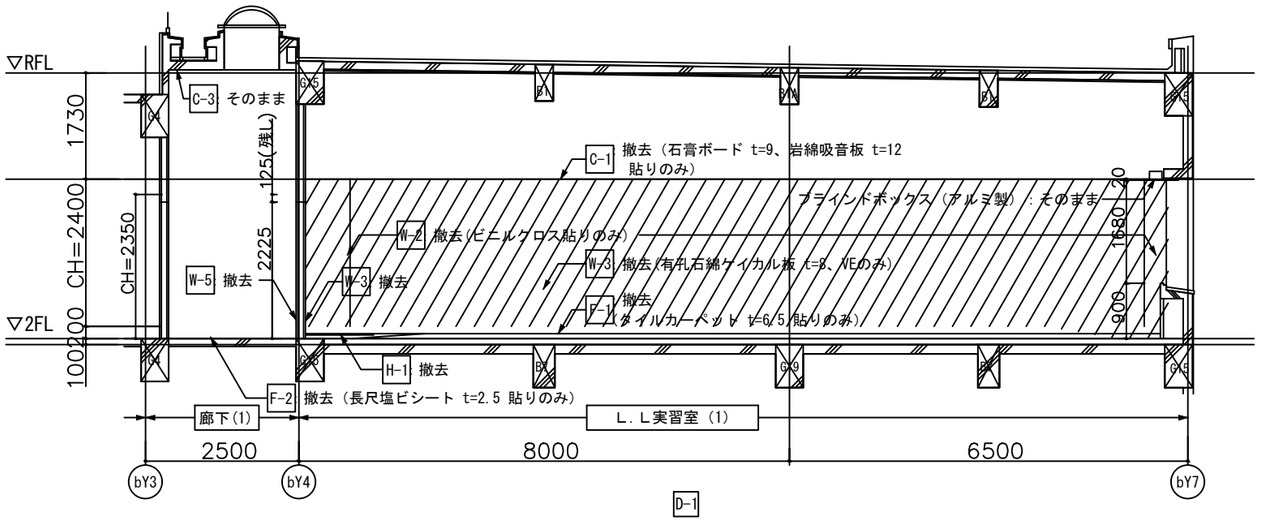
横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100
設計者		図面名称	展開図 <改修>（1） 学生演習室１，２
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第17064号 田中 克樹		図面番号	A-20

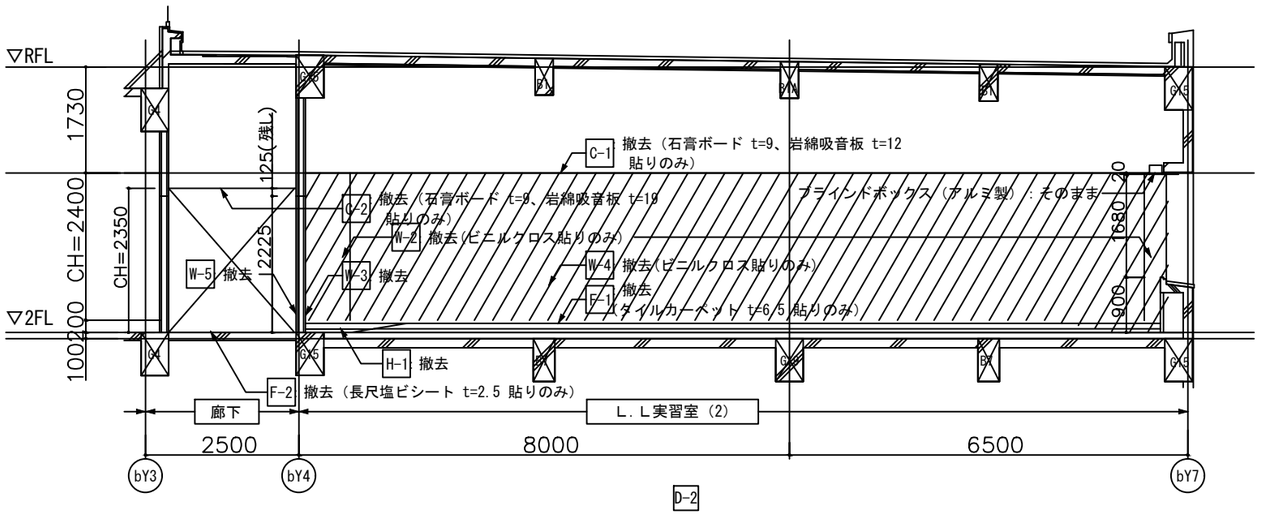
撤去

L.L実習室（1）、（2）		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地 石膏ボード t=9+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地 石膏ボード t=9+12 内部用吹付タイル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例	
	壁面、建具　撤去を示す





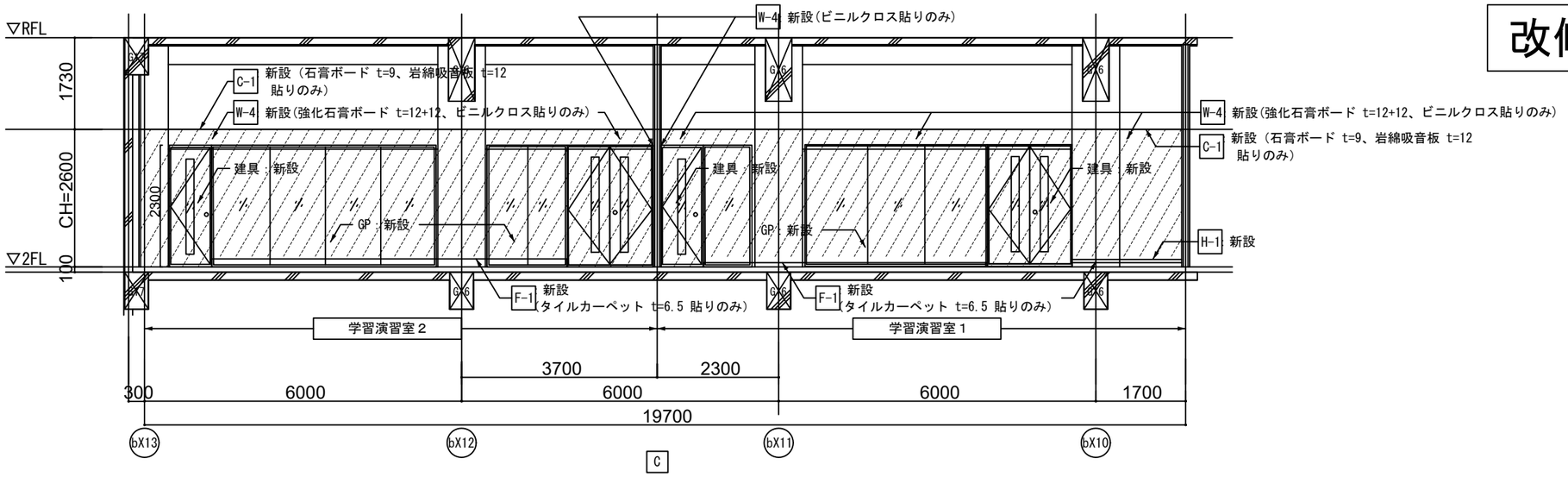


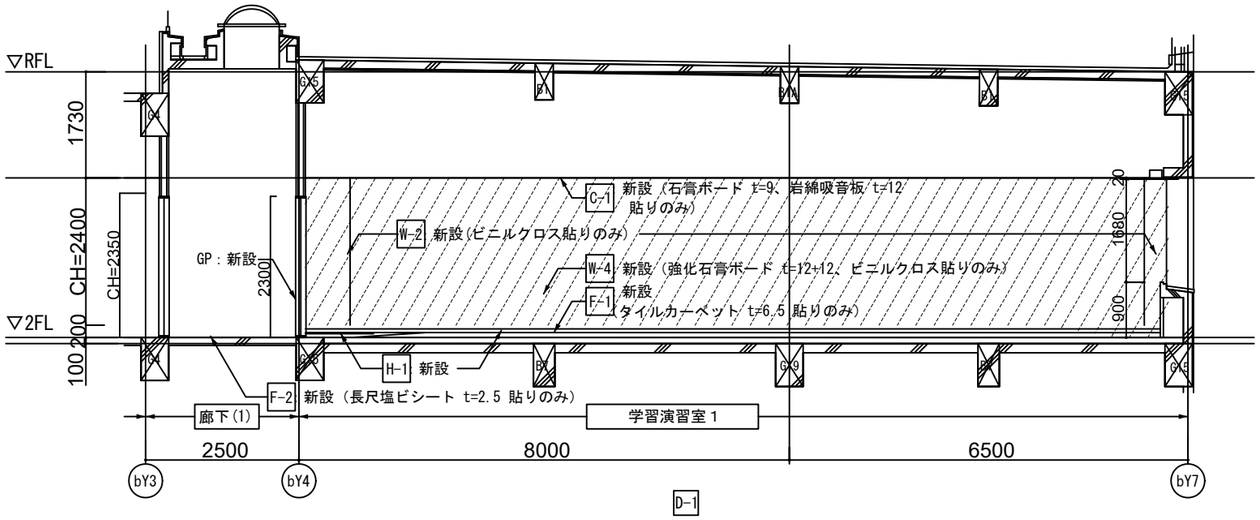
横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100	図面名称	展開図 ＜撤去＞（2）L.L実習室（1）、（2）
設計者					
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				図面番号	A-21

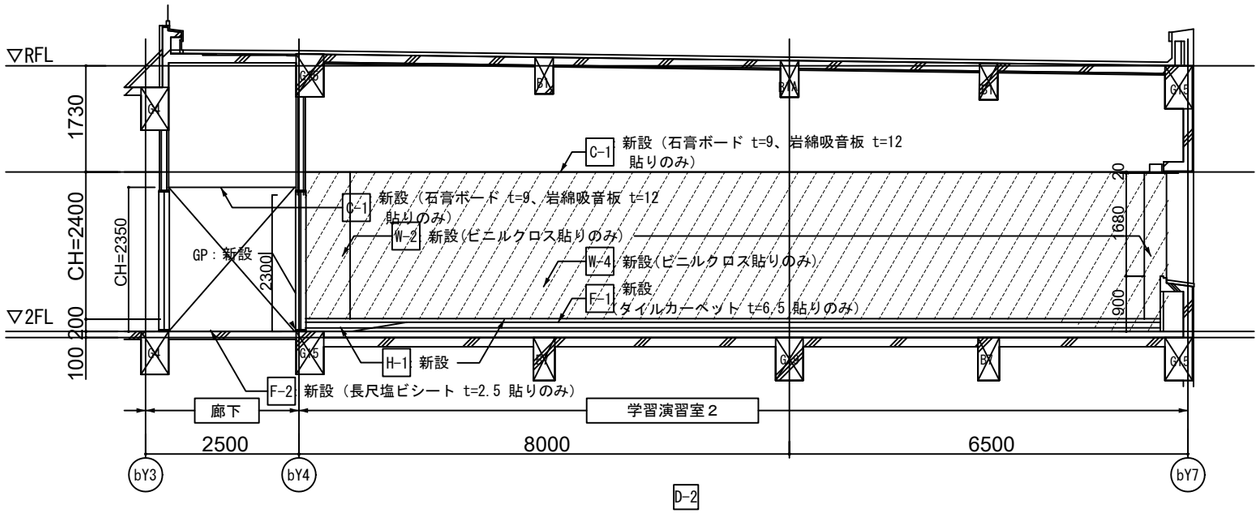
改修

学生演習室１、学生演習室２		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 内部用吹付タ イル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例	
	壁面、建具　新設を示す





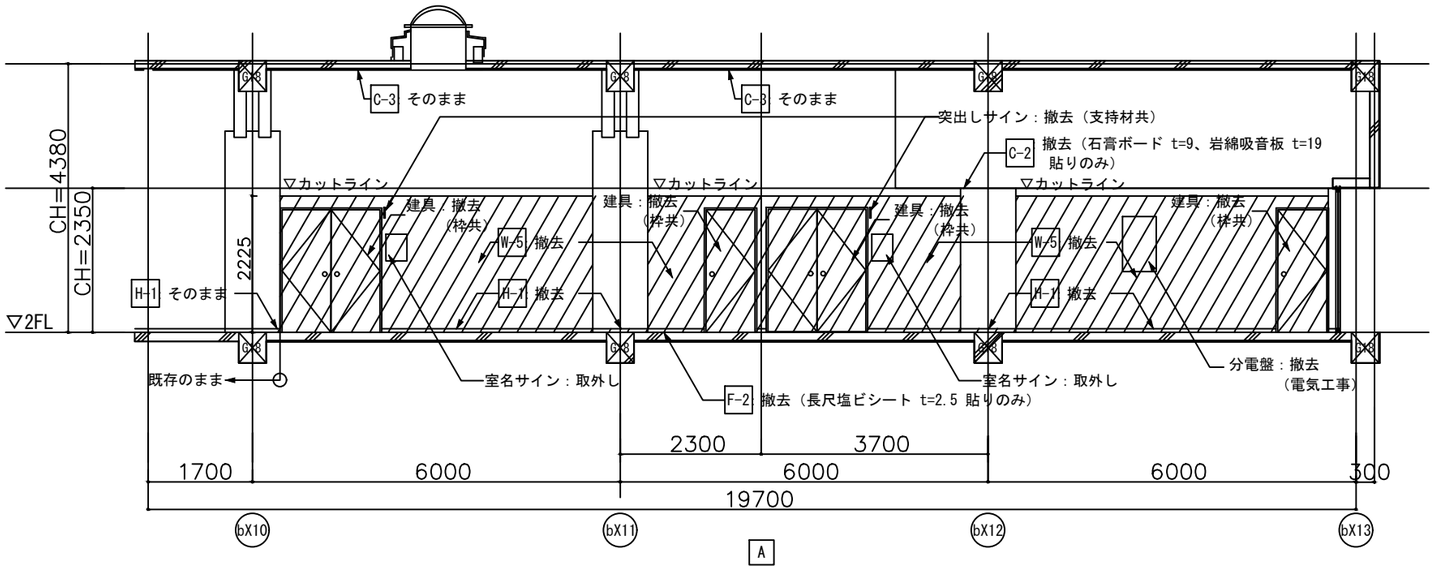


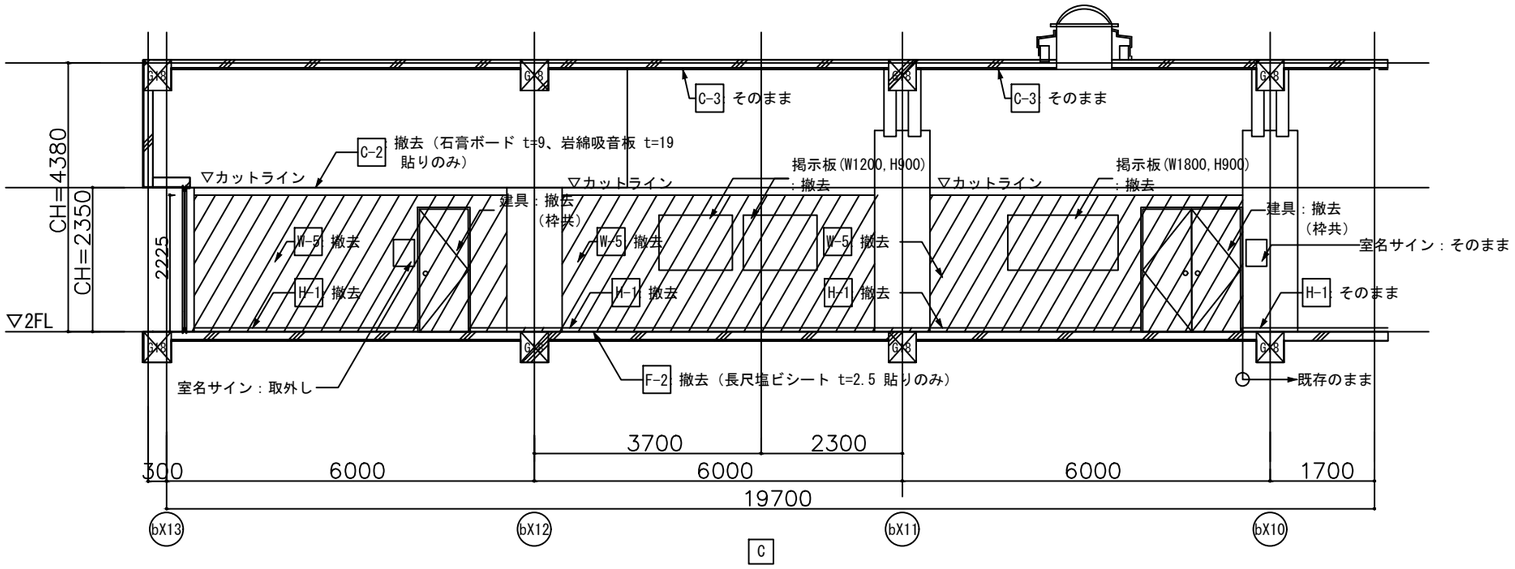
横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100	図面名称	展開図 ＜改修＞（2） 学生演習室１，２
設計者					
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹				図面番号	A-22

撤去

廊下（1）		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地 石膏ボード t=9+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地 石膏ボード t=9+12 内部用吹付タイル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例	
	壁面、建具　撤去を示す



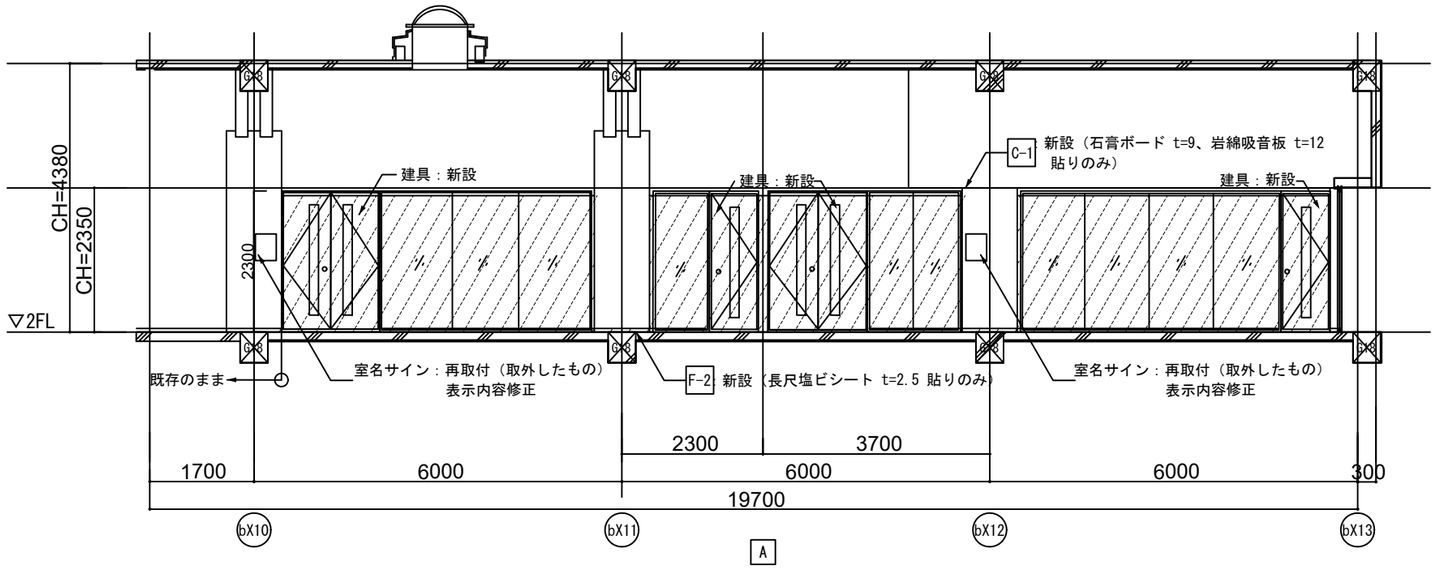


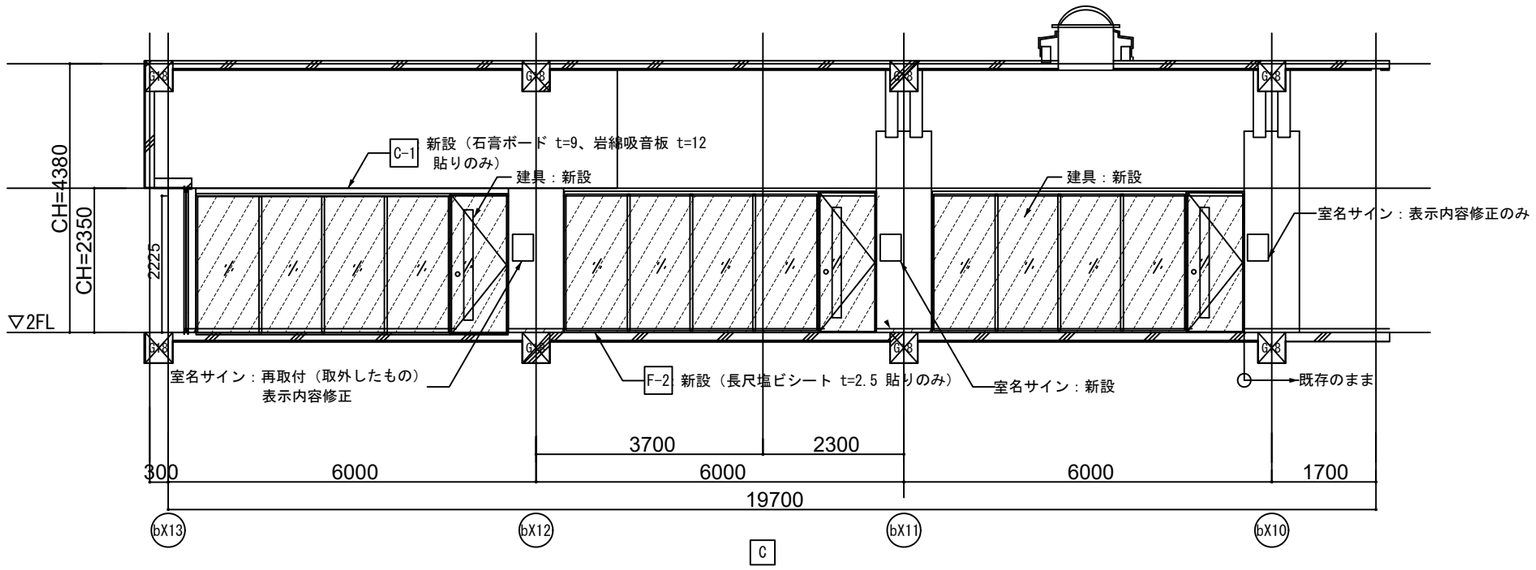
横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	展開図 <撤去>(3)　廊下（1）
設計者			図面番号	A-23
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				

改修

廊下（1）		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 内部用吹付タ イル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例	
	壁面、建具　新設を示す



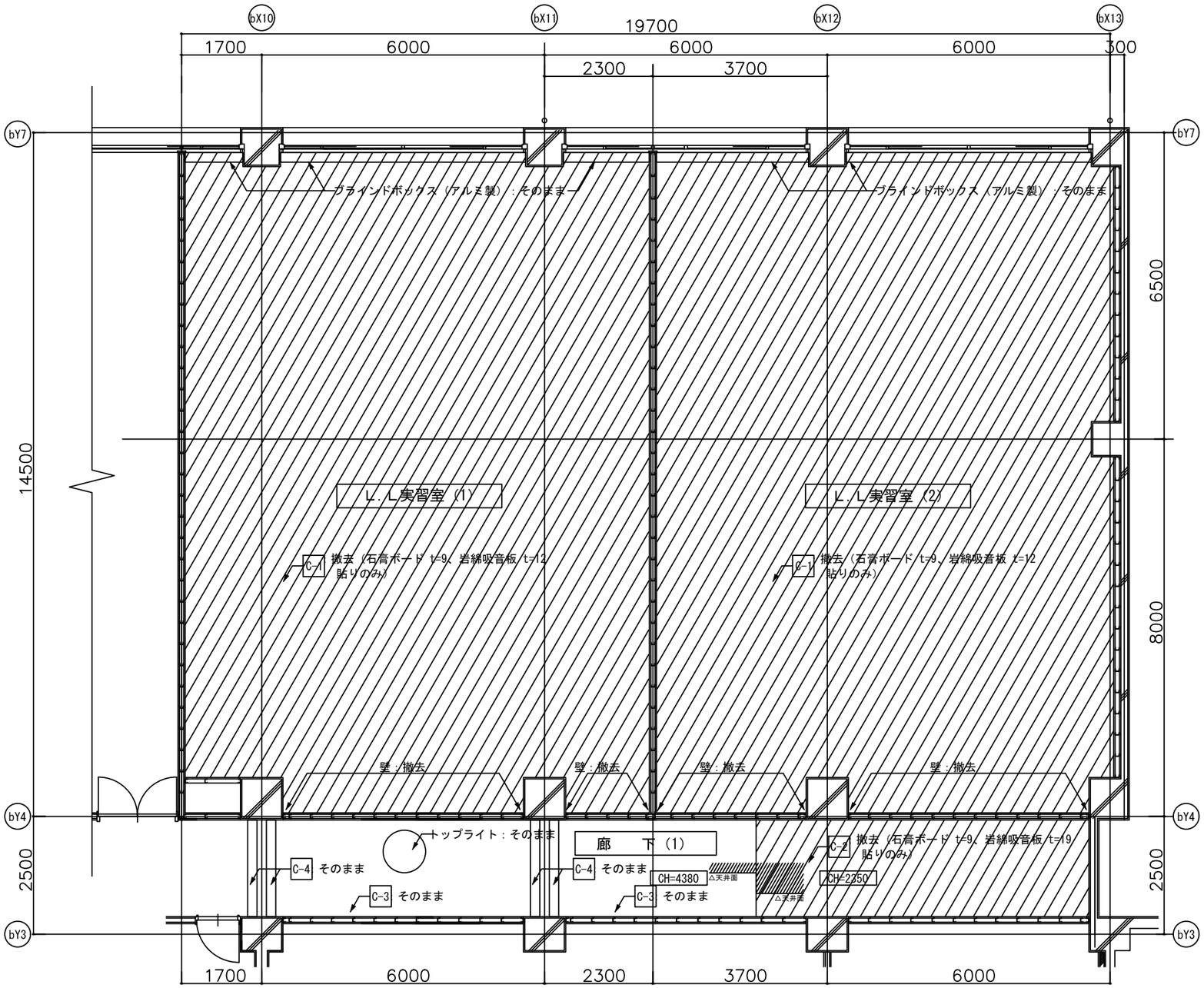


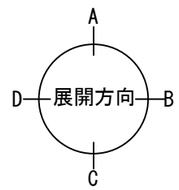
横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	展開図 ＜改修＞(3)　廊下（1）
設計者			図面番号	A-24
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				

撤去

L.L実習室（1）、（2）		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP

凡例	
	壁面、建具　撤去を示す





横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	天井伏図 <撤去>（1）、L.L実習室（1）、（2）
設計者				
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹			図面番号	A-25

改修

L.L実習室（1）、（2）		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP

凡例（建築）	
	壁面、建具　新設を示す
設備用	天井点検口　新設を示す 450角アルミ製・パネル天井同材 （建築工事）
電気用	同上

図面記載なき、開口補強（建築工事）を以下に示す
※設置個所は、電気設計図書によること

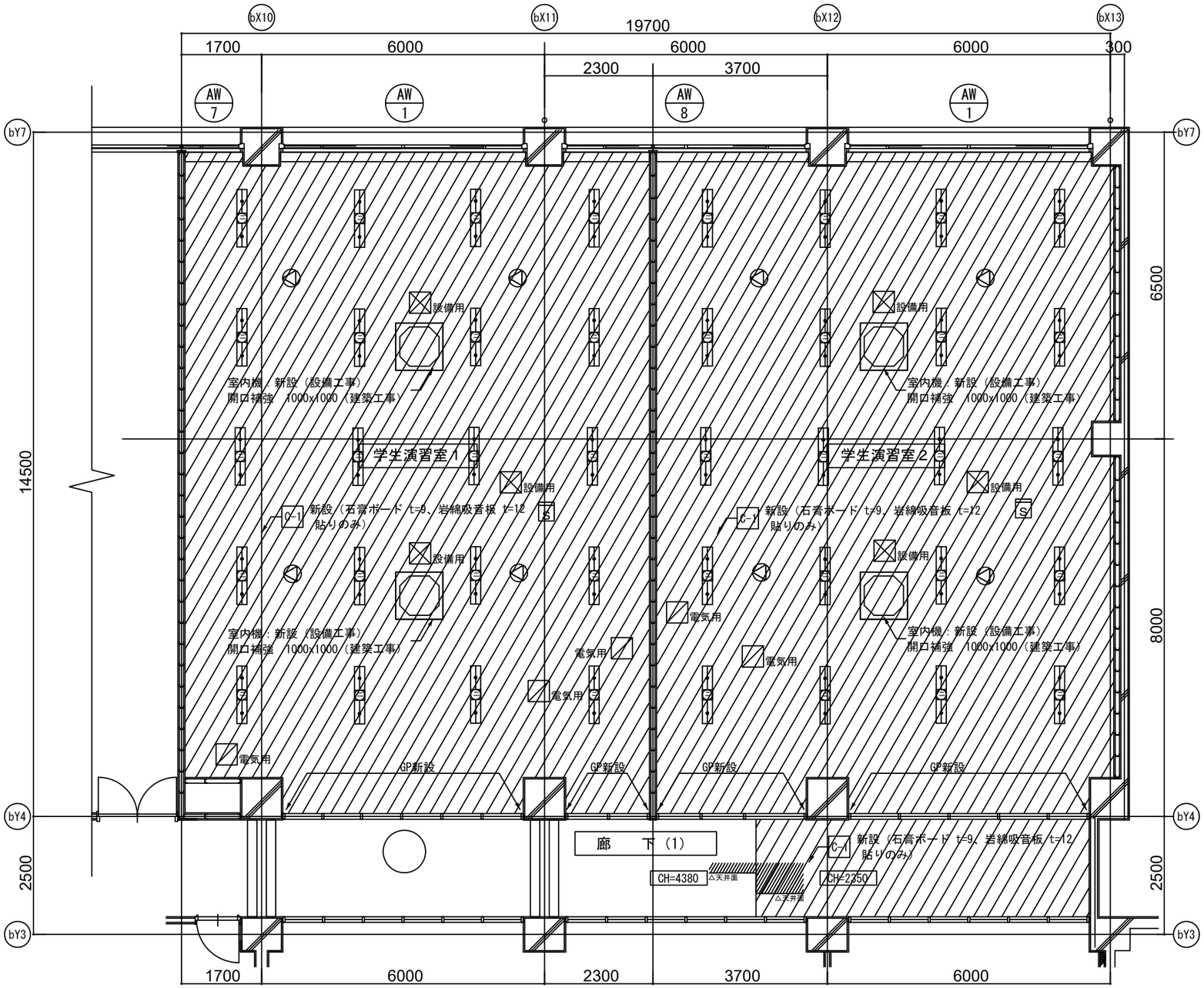
・照明設置における開口補強

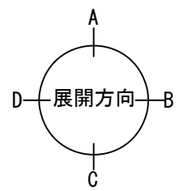
無し

・スピーカー設置における開口補強

計8箇所

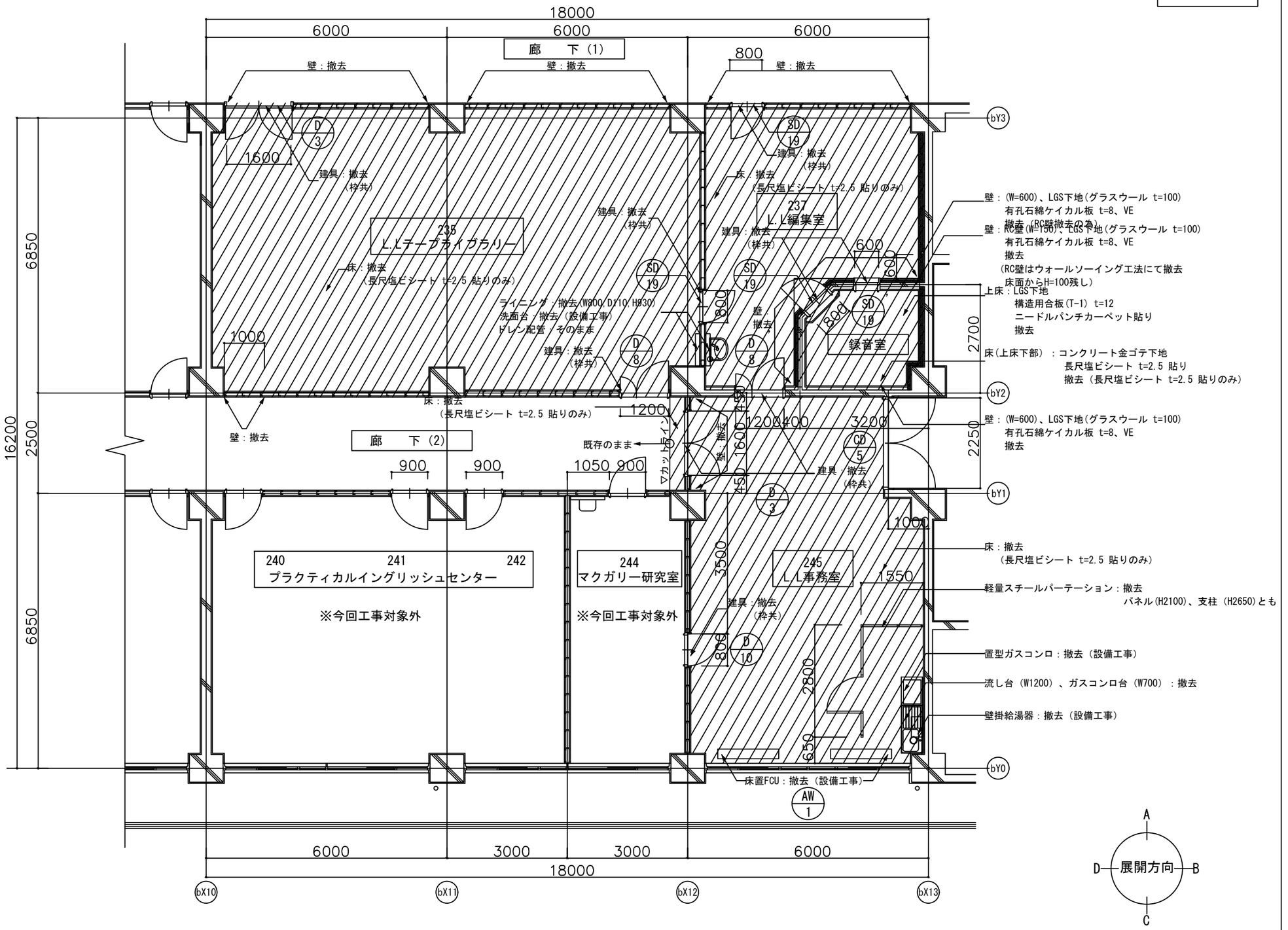
凡例（電気、設備）	
	空調室内機を示す
	照明を示す
	スピーカーを示す
S	感知器を示す





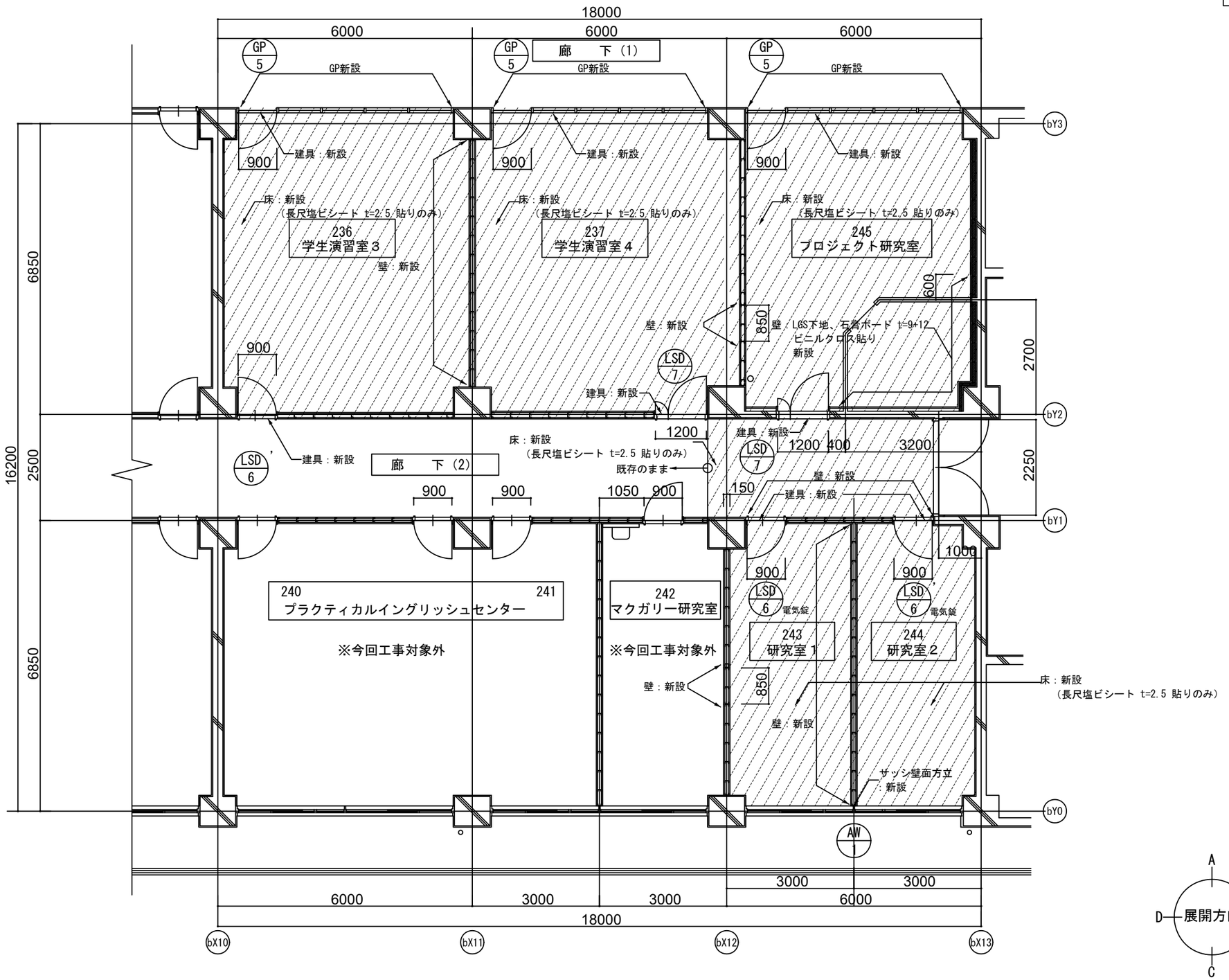
横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	天井伏図 <改修>（1）　学生演習室１，２
設計者			図面番号	A-26
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				

撤去



横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100	図面名称	平面詳細図 <撤去> (2)　LLテーブライブラリー、隣 音室 L.L編集室 L.L事務室、廊下 (2)
設計者					
株式会社一級建築士事務所DEN−A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹				図面番号	A−27

改修



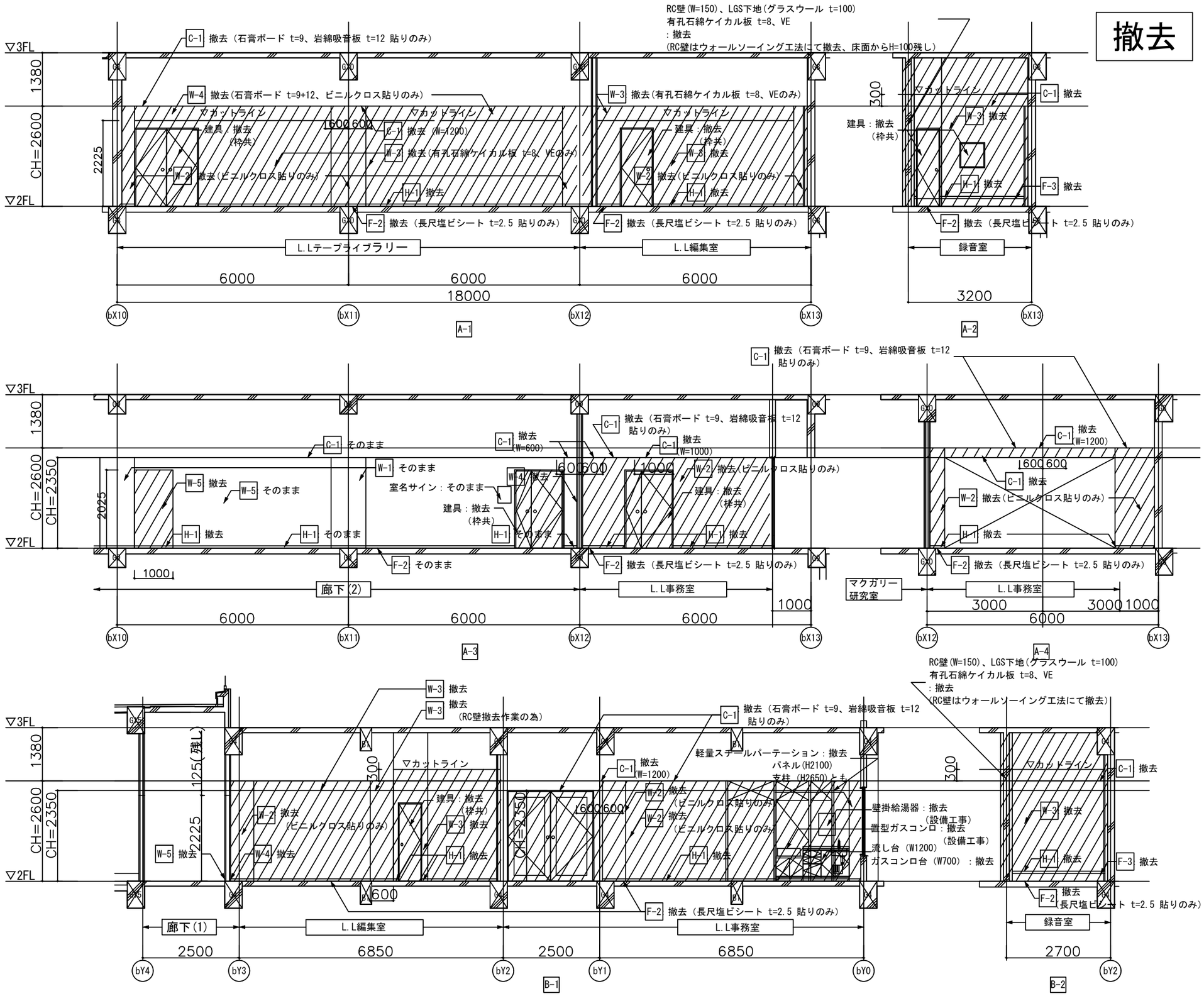
横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100
設　計　者		図面名称	平面詳細図　<改修>（2）　学習演習室3，4、研究室1，2 プロジェクト研究室，廊下（2）
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 亮樹		図面番号	A-28

撤去

L.Lテープライブラリー、録 音室
L.L編集室、L.L事務室、廊下 (2)

部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地 石膏ボード t=9+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地 石膏ボード t=9+12 内部用吹付タイル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例	
	壁面、建具　撤去を示す



横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	展開図 ＜撤去＞（4） L.Lテープライブラリー、録 音室 L.L編集室 L.L事務室、廊下 (2)
設 計 者			図面番号	A-29
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹				

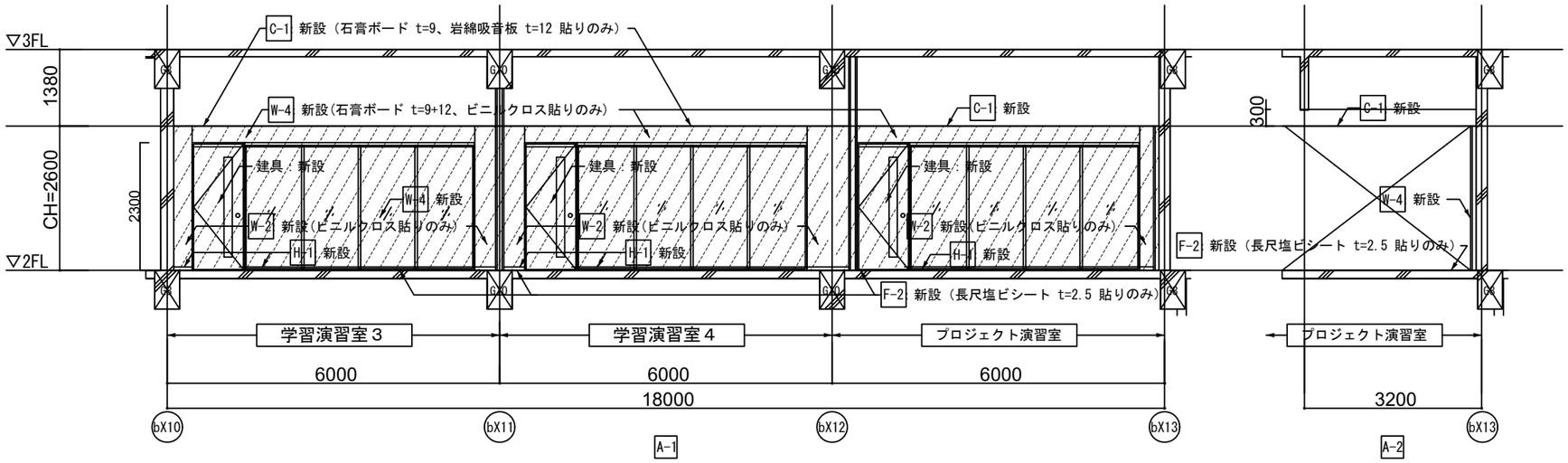
改修

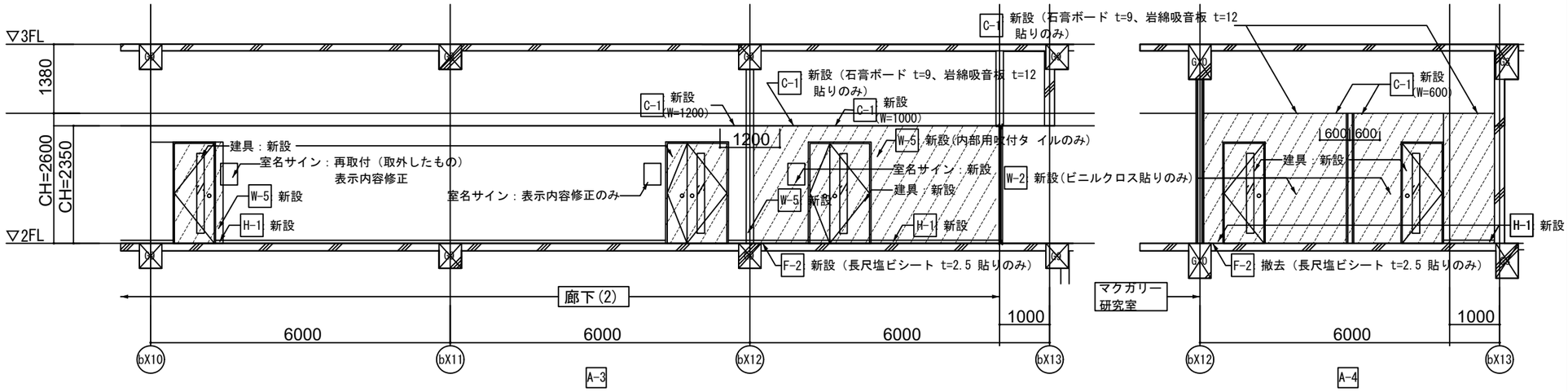
学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（2）

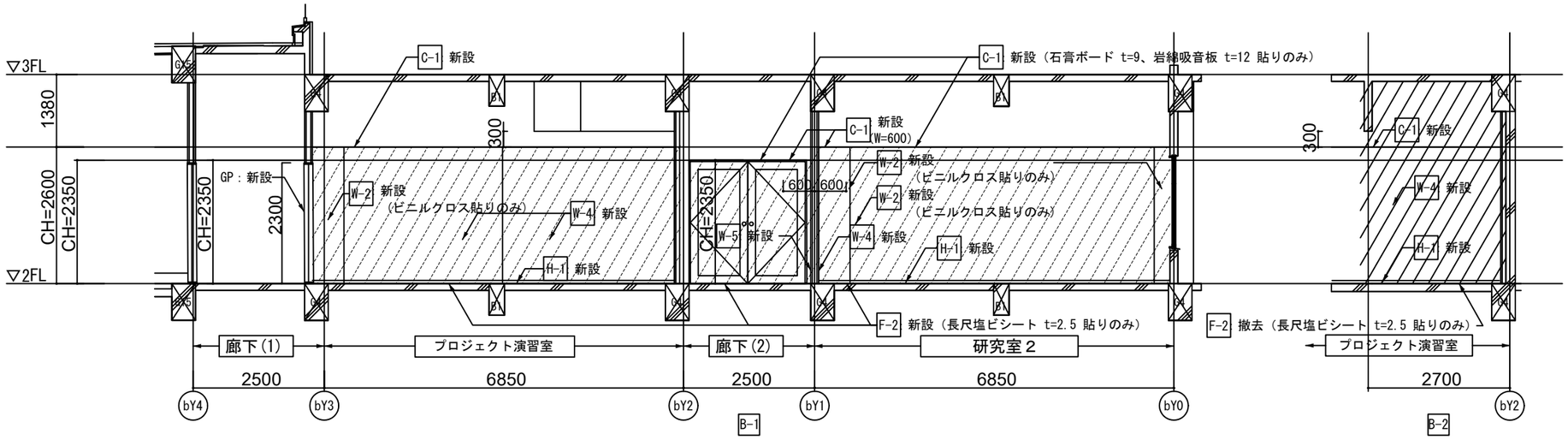
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 内部用吹付タ イル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例

//////	壁面、建具　新設を示す







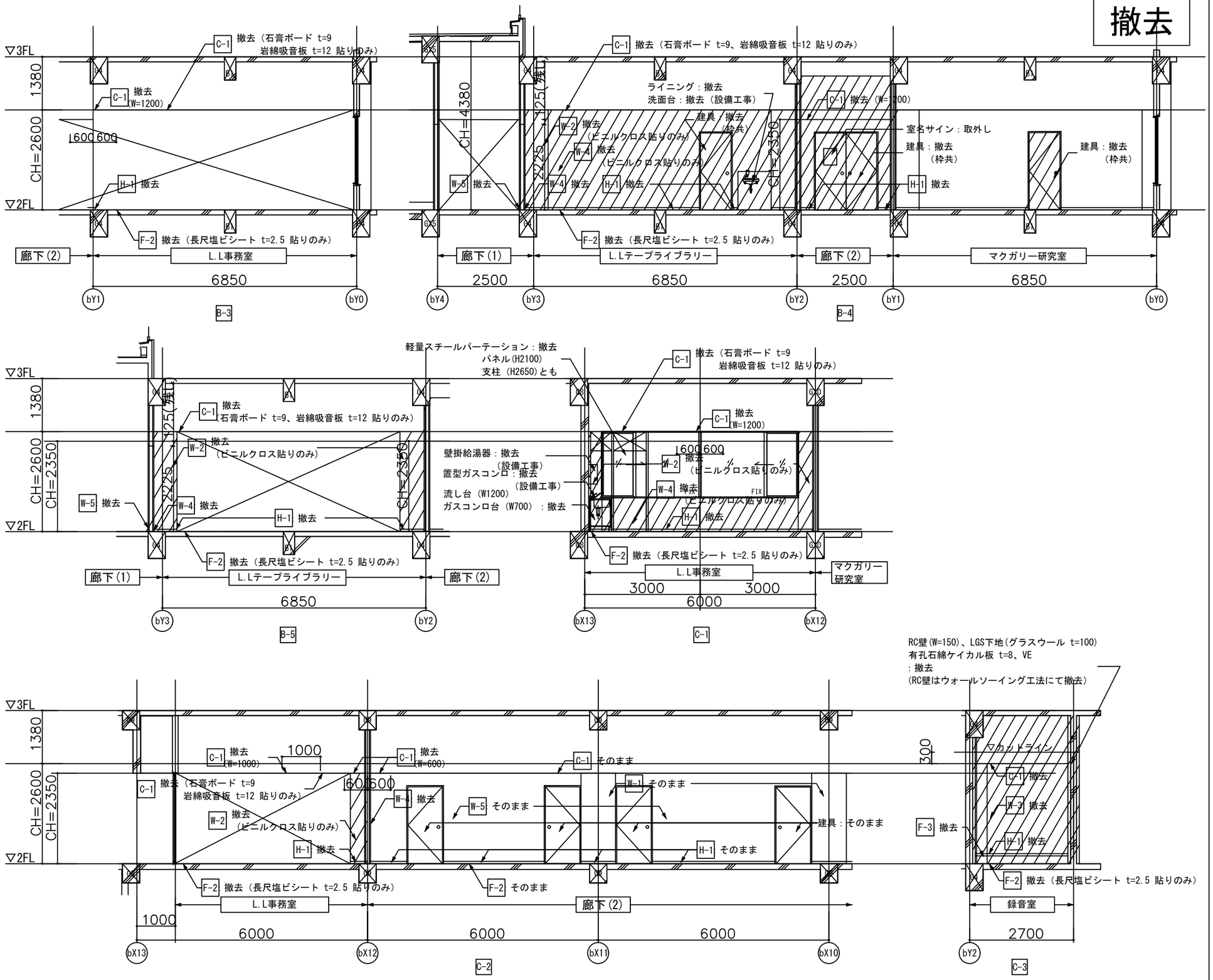
横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	展開図 ＜改修＞（4） 学習演習室3、4、研究室1、2 プロジェクト研究室、廊下（2）
設計者			図面番号	A-30
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 茂樹				

撤去

L.Lテープライブラリー、録 音室
L.L編集室、L.L事務室、廊下 (2)

部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地 石膏ボード t=9+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地 石膏ボード t=9+12 内部用吹付タイル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例	
	壁面、建具　撤去を示す

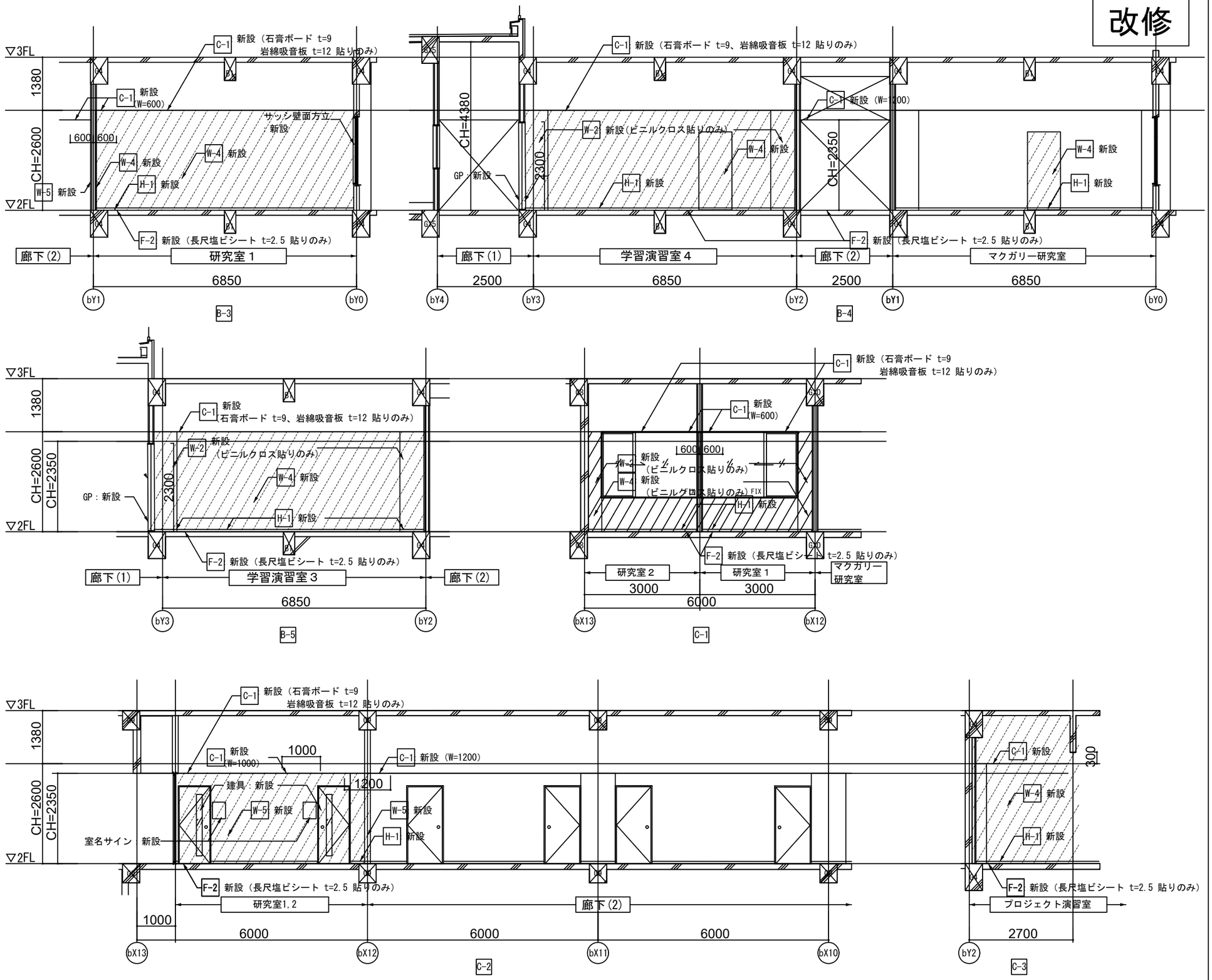


横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	展開図 ＜撤去＞ (5) L.Lテープライブラリー、録 音室 L.L編集室 L.L事務室、廊下 (2)
設計者				
株式会社一級建築士事務所DEN−A 一級建築士登録 第170642号 田中 亮樹			図面番号	A-31

改修

学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（2）		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 内部用吹付タ イル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例	
	壁面、建具　新設を示す



横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	展開図 ＜改修＞（5） 学習演習室3，4、研究室1，2 プロジェクト研究室、廊下（2）
設計者				
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 亮樹			図面番号	A-32

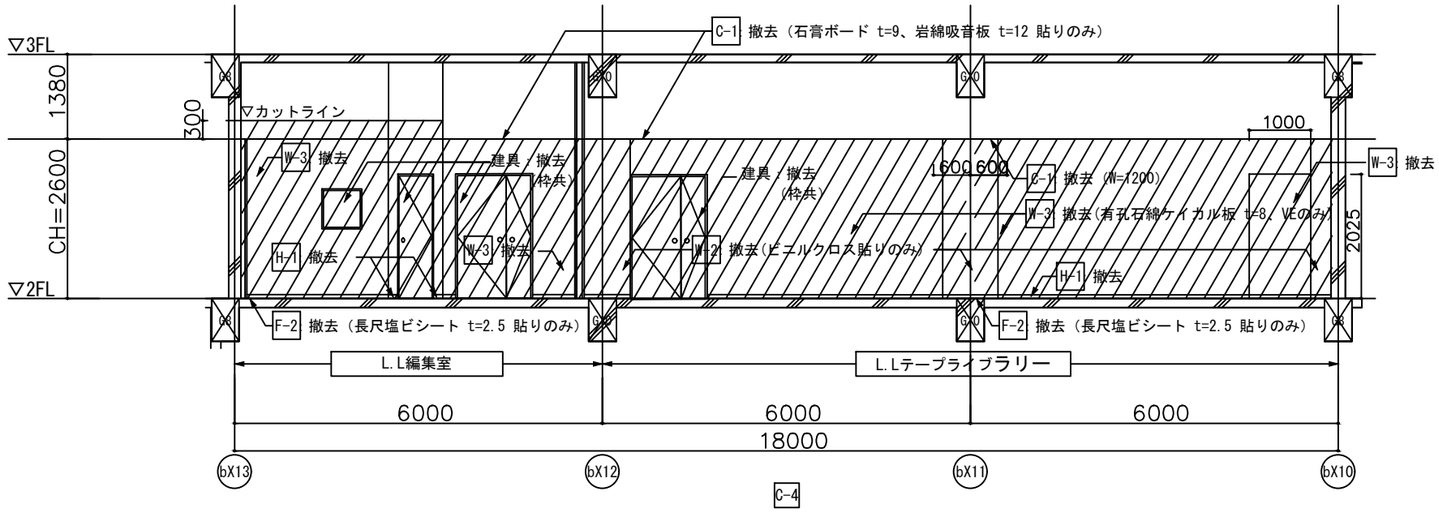
撤去

L.Lテープライブラリー、録 音室
L.L編集室、L.L事務室、廊下 (2)

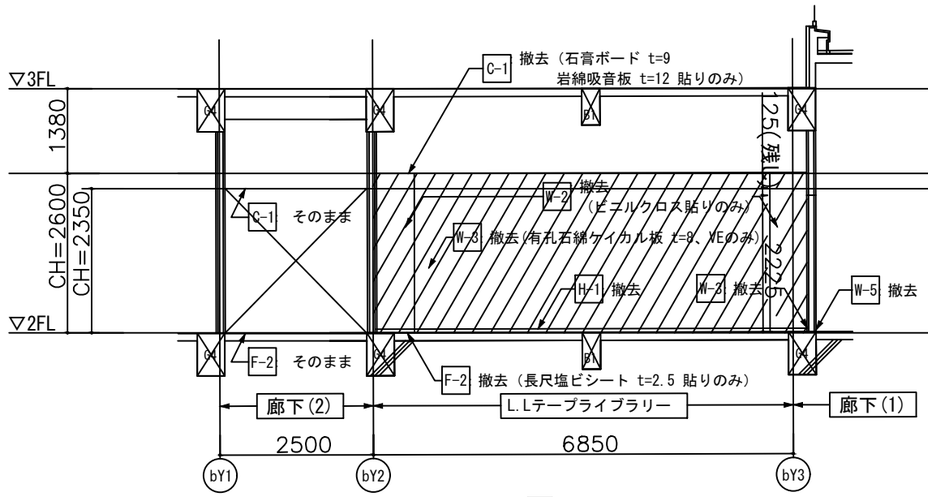
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地 石膏ボード t=9+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地 石膏ボード t=9+12 内部用吹付タイル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例

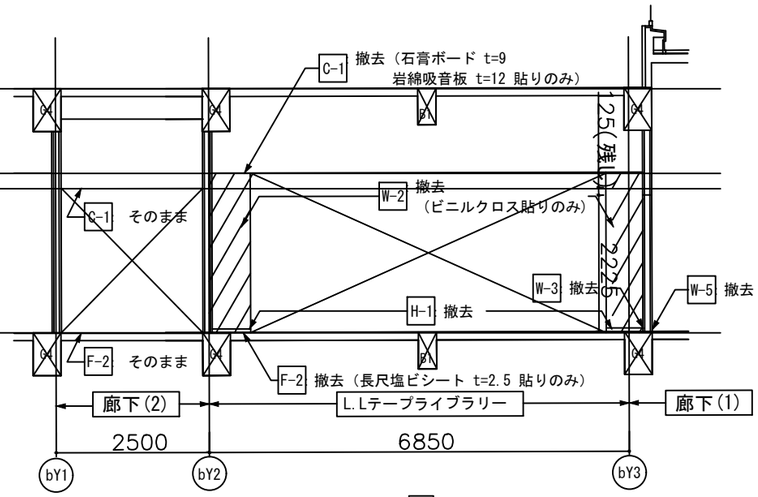
	壁面、建具 撤去を示す



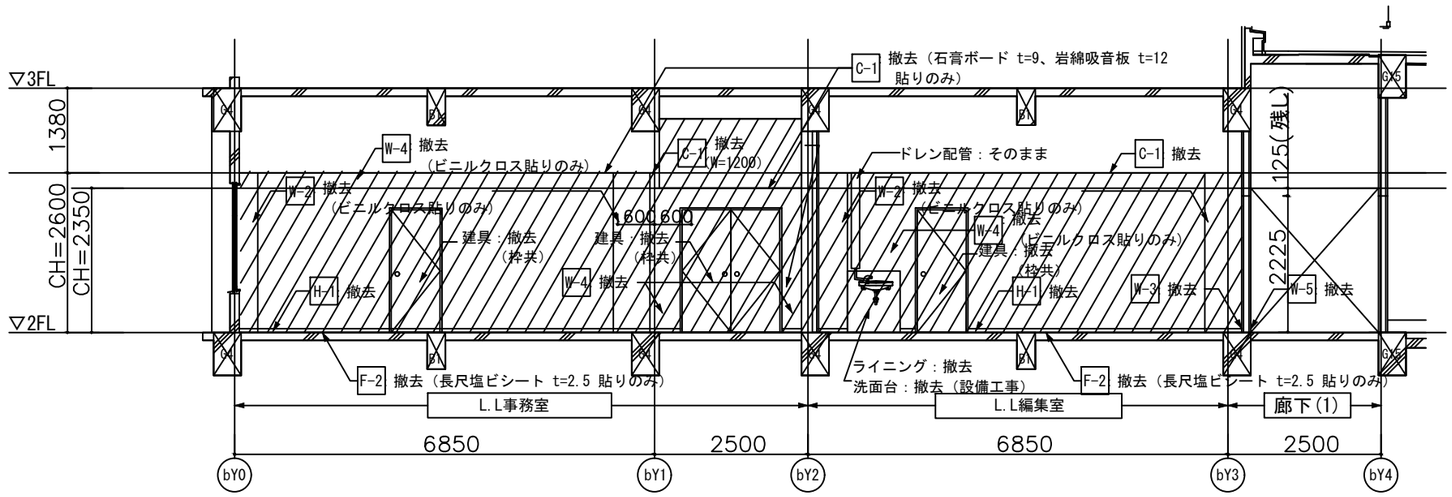
C-4



D-1



D-2



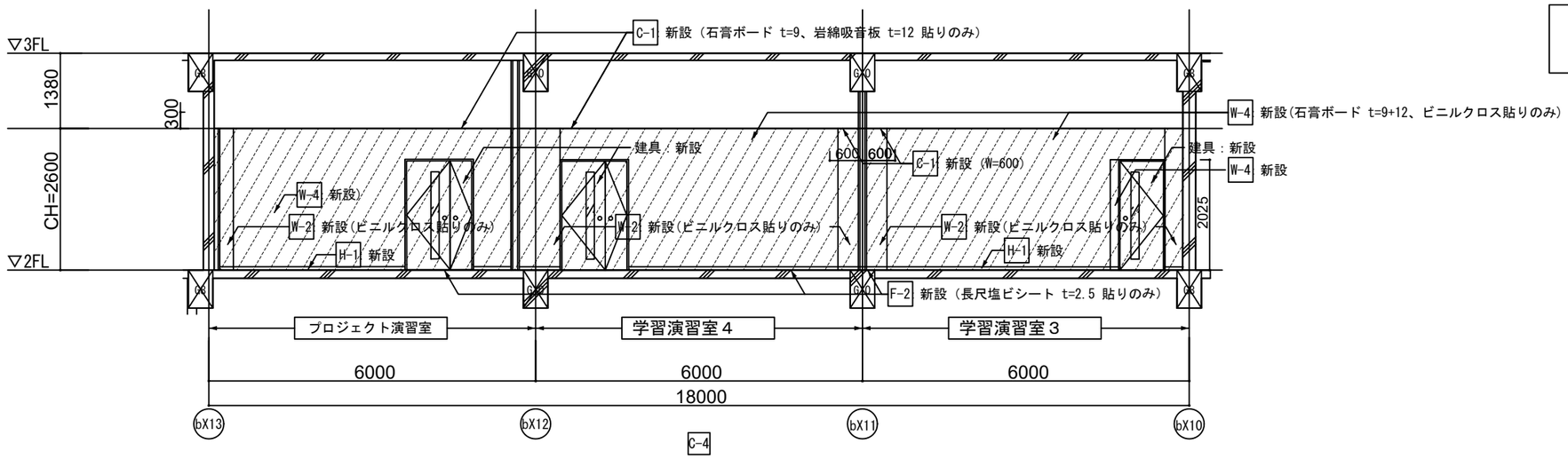
D-3

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100	図面名称	展開図 <撤去> (6) L.Lテープライブラリー、録 音室 L.L編集室 L.L事務室、廊下 (2)
設 計 者					
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克俊				図面番号	A-33

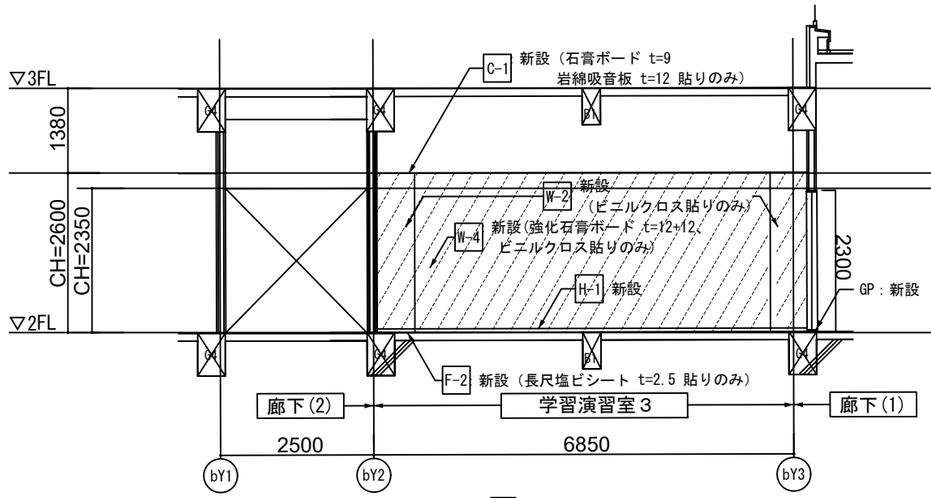
改修

学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（2）		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 内部用吹付タ イル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

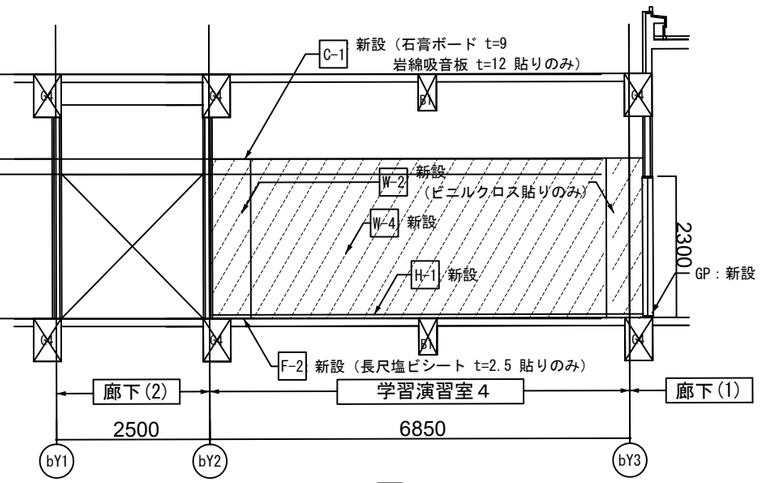
凡例	
	壁面、建具　新設を示す



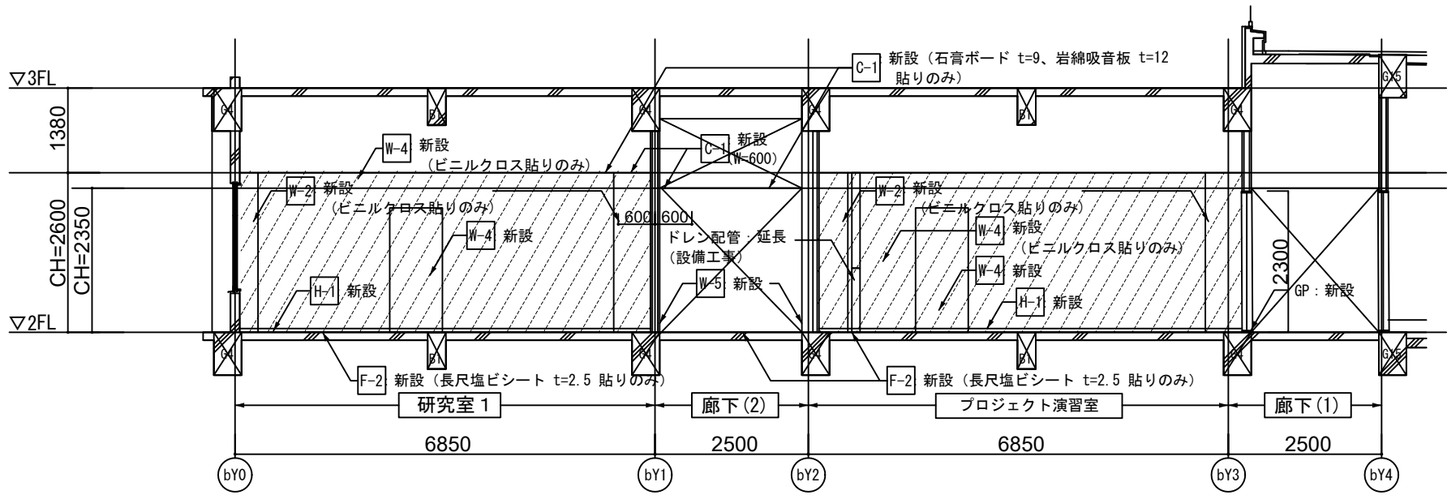
C-4



D-1



D-2



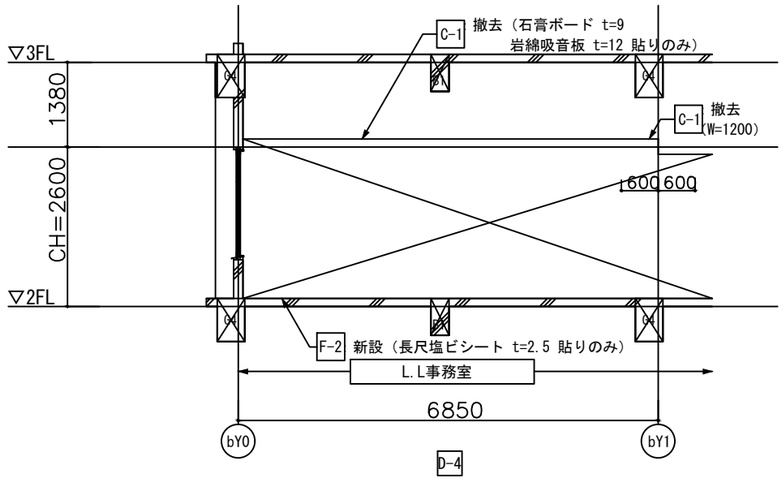
D-3

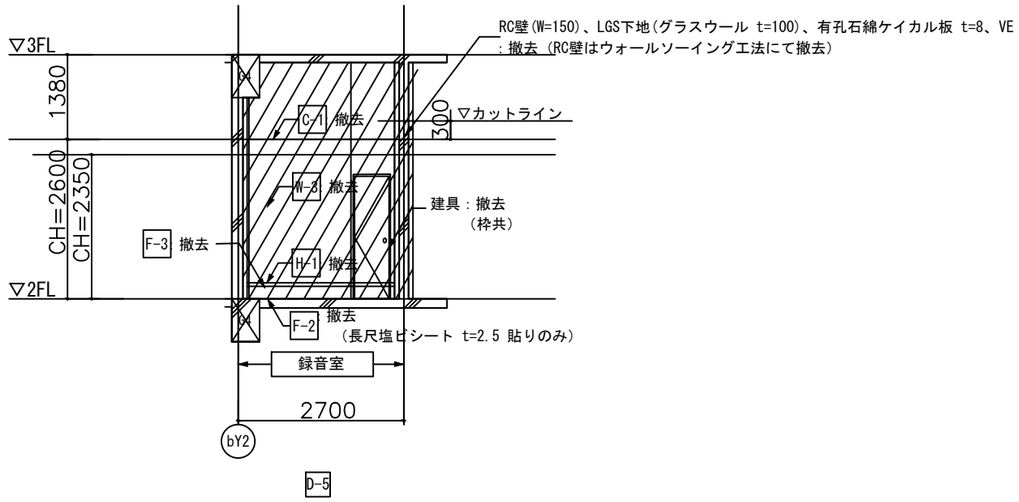
横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100	図面名称	展開図　＜改修＞（6）　学習演習室3、4、研究室1、2 プロジェクト研究室、廊下（2）
設　計　者					
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				図面番号	A-34

撤去

L.Lテープライブラリー、録 音室 L.L編集室、L.L事務室、廊下 (2)		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地 石膏ボード t=9+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地 石膏ボード t=9+12 内部用吹付タイル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例	
	壁面、建具　撤去を示す



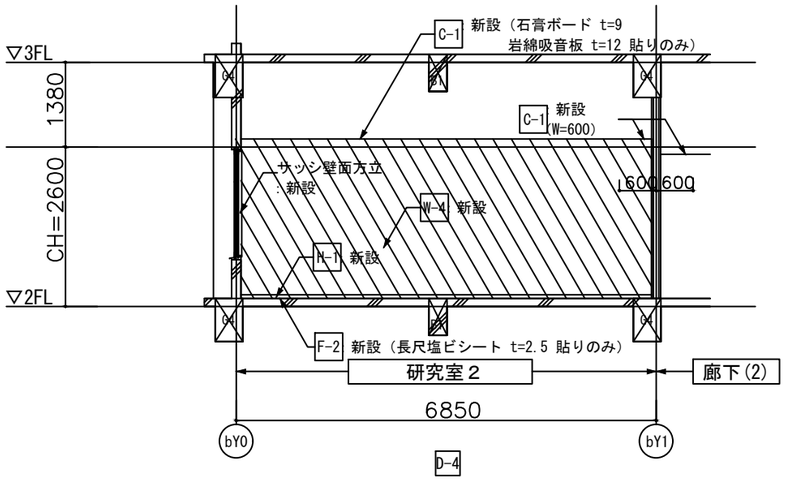


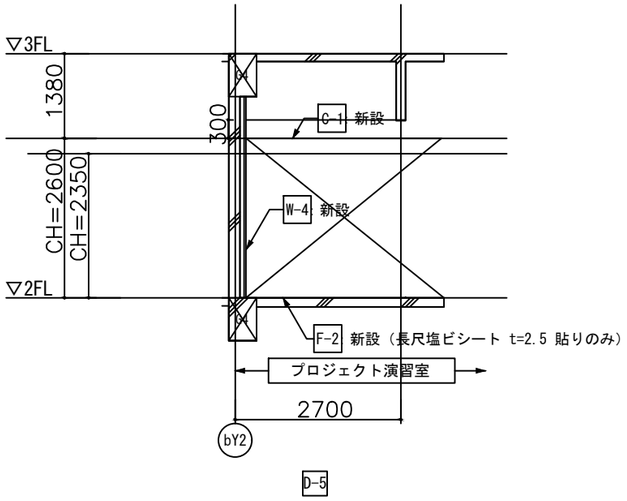
横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	展開図 ＜撤去＞ (7) L.Lテープライブラリー、録 音室 L.L編集室 L.L事務室、廊下 (2)
設 計 者				
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 亮樹			図面番号	A-35

改修

学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（2）		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP
壁	W-1	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 内部用吹付タ イル
	W-2	コンクリート下地 パーライトモルタル金ゴテ t=10 ビニルクロス貼り
	W-3	LGS下地(グラスウール t=100) 有孔石綿ケイカル板 t=8 VE
	W-4	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 ビニルクロス貼り
	W-5	LGS下地(グラスウール t=100) 強化石膏ボード t=12+12 内部用吹付タ イル
巾木	H-1	塩ビ製巾木 H=60
床	F-1	軽量コンクリート t=100 金ゴテ下地 OAフロア h=200 タ イルカーペット t=6.5 貼り
	F-2	コンクリート金ゴテ下地 長尺塩ビシート t=2.5 貼り
	F-3	LGS下地 構造用合板(T-1) t=12 ニードルパンチカーペット貼り

凡例	
	壁面、建具　新設を示す



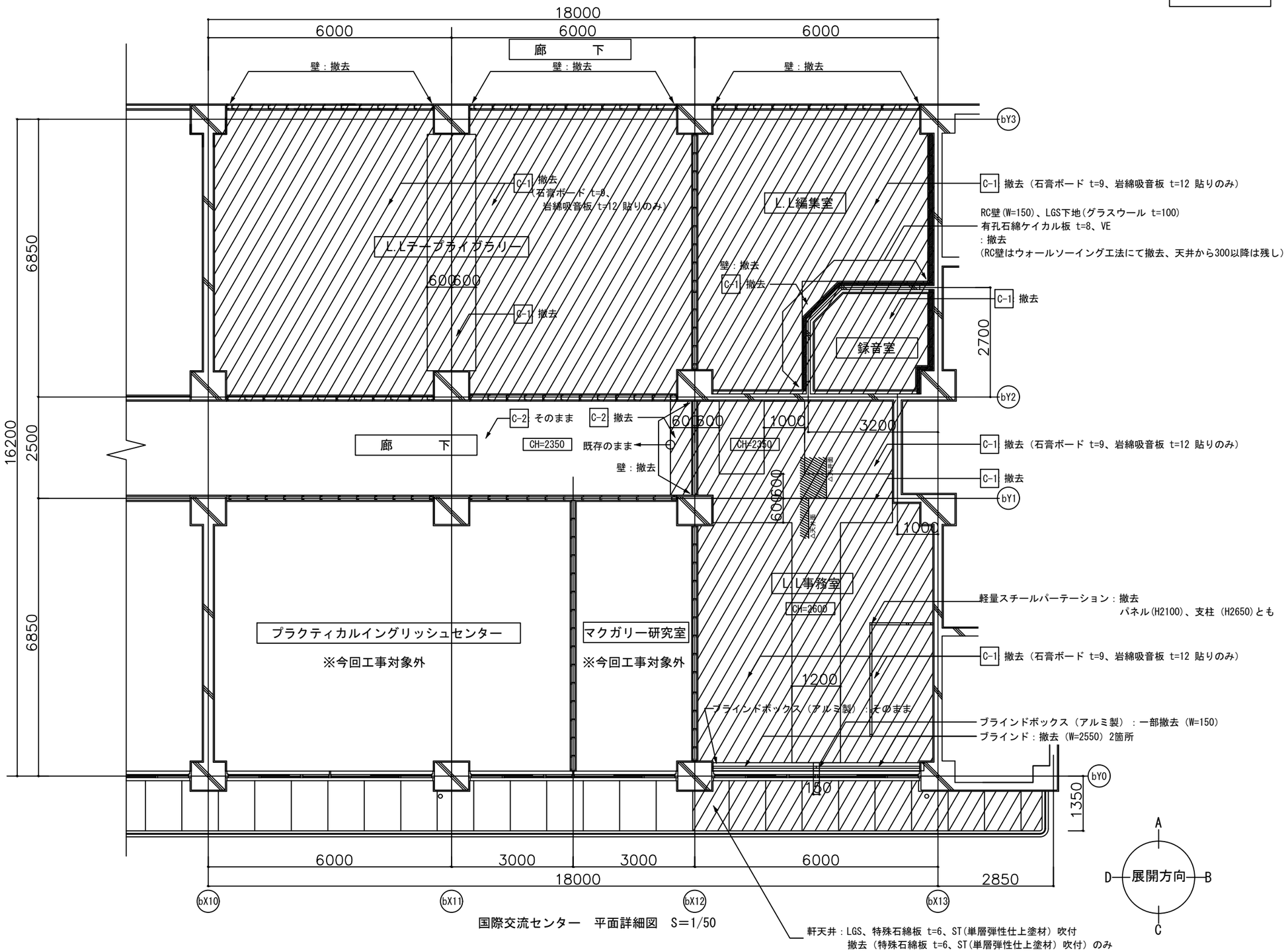


横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	展開図 ＜改修＞（7） 学習演習室3，4，研究室1，2 プロジェクト研究室，廊下（2）
設計者				
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 亮樹			図面番号	A-36

撤去

L.Lテープライブラリー、録 音室 L.L編集室、L.L事務室、廊下 (2)		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP

凡例	
	壁面、建具　撤去を示す



国際交流センター　平面詳細図　S=1/50

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100	図面名称	天井伏図 <撤去>（2） L.Lテープライブラリー、録音室、L.L編集室 L.L事務室、廊下（2）
設計者					
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹				図面番号	A-37

新設

学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（2）		
部位	記号	仕上
天井	C-1	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=12 貼り
	C-2	LGS下地 石膏ボード t=9 岩綿吸音板 t=19 貼り
	C-3	コンクリート下地 パーライト t=4 吹付
	C-4	コンクリート下地 VP

凡例	
	壁面、建具　新設を示す
設備用	天井点検口　新設を示す 450角アルミ製・パネル天井同材 （建築工事）
電気用	同上

図面記載なき、開口補強（建築工事）を以下に示す
※設置個所は、電気設計図書によること

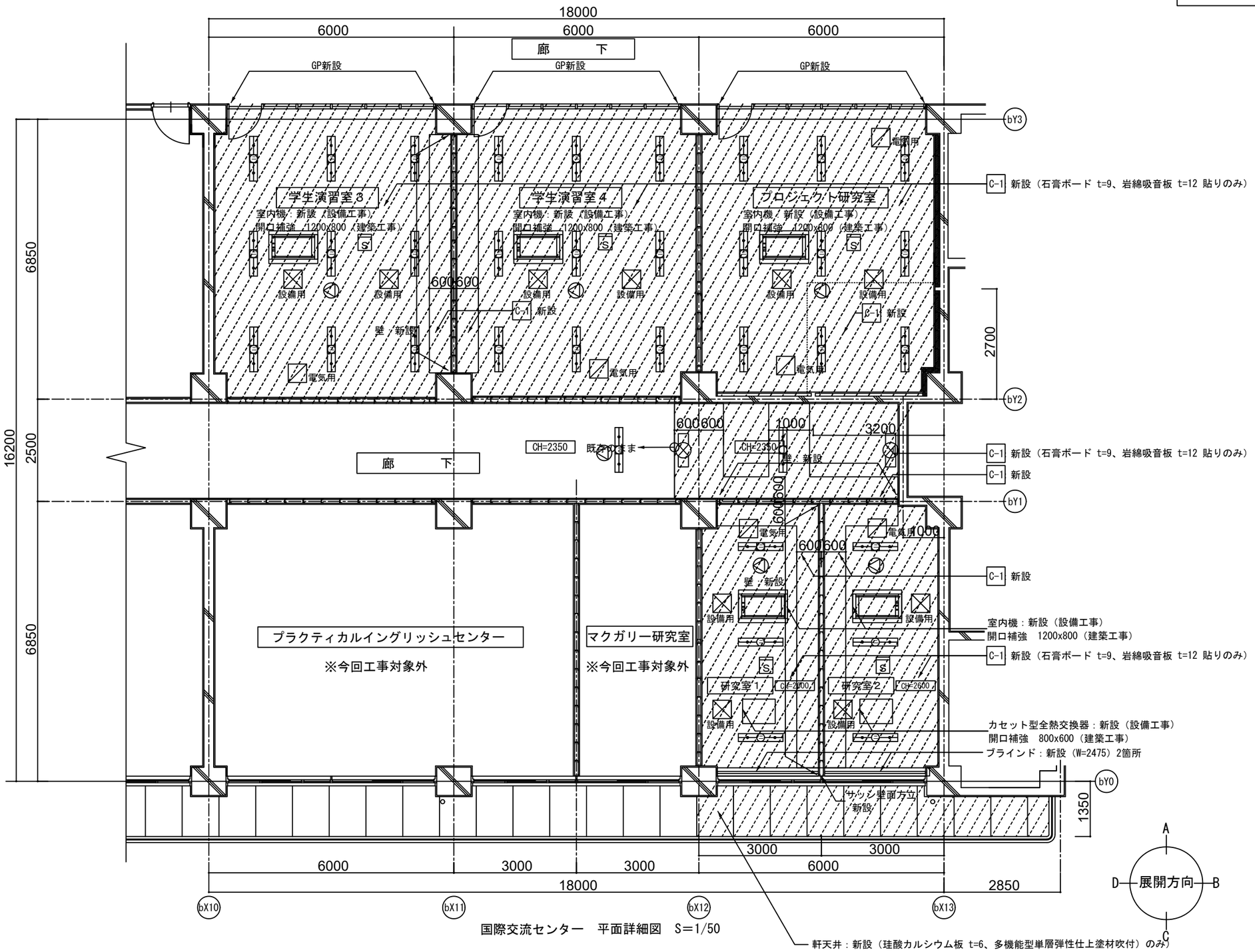
・照明設置における開口補強

無し

・スピーカー設置における開口補強

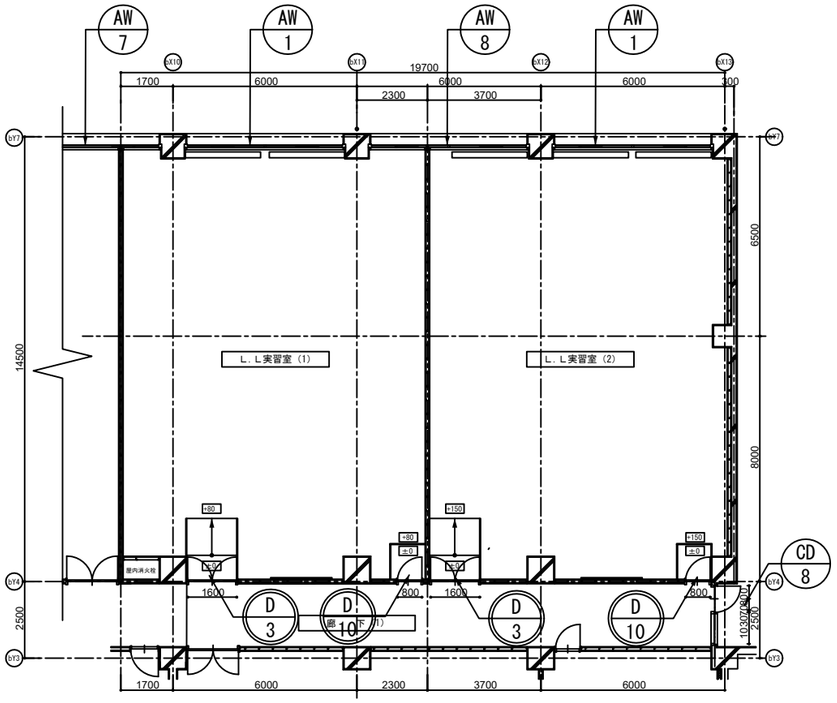
計5箇所

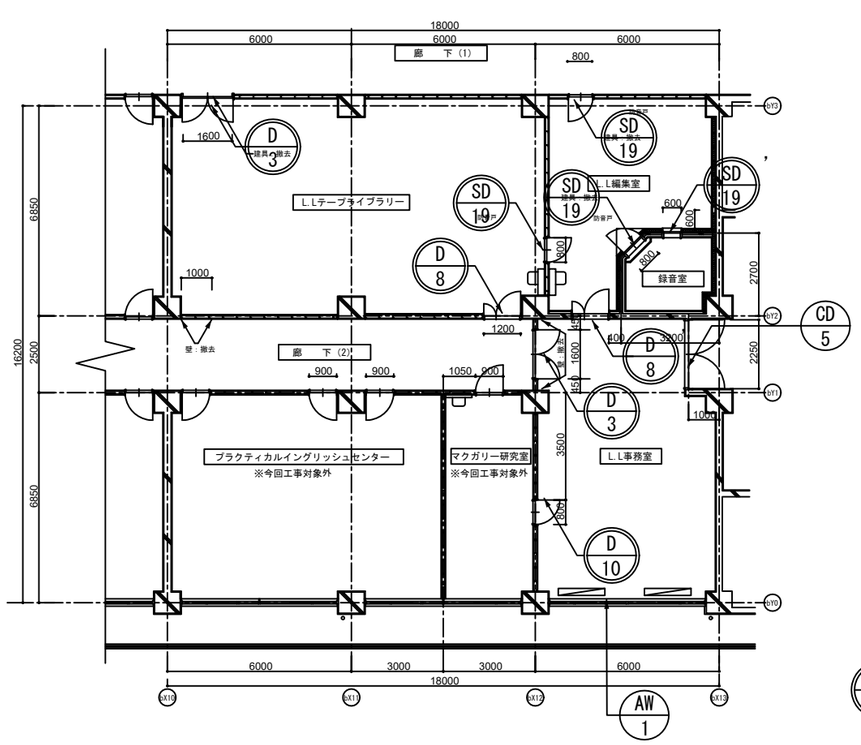
凡例（電気、設備）	
	空調室内機を示す
	照明を示す
	スピーカーを示す
S	感知器を示す

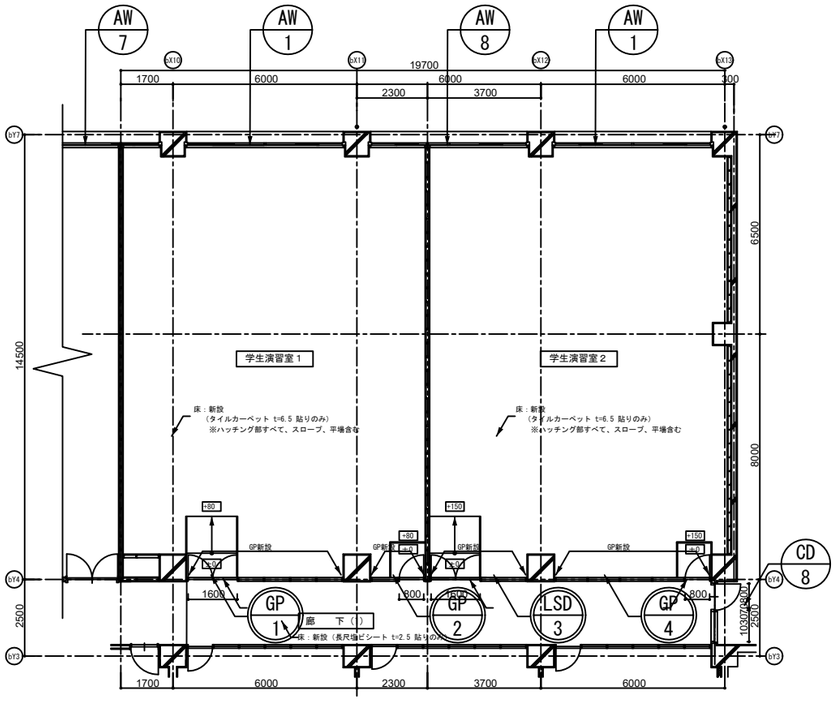


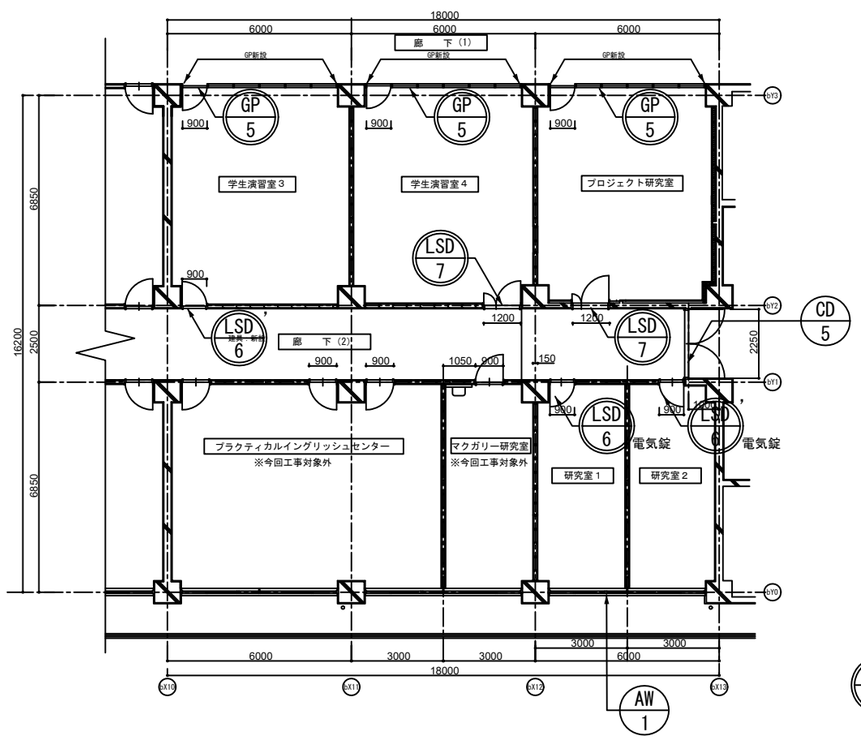
国際交流センター　平面詳細図　S=1/50

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100	図面名称	天井伏図　＜改修＞（２）　学習演習室３，４、研究室１，２ プロジェクト研究室、廊下（２）
設　計　者					
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				図面番号	A-38

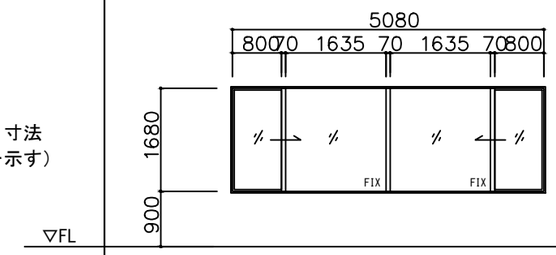
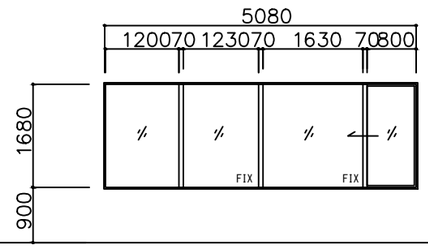
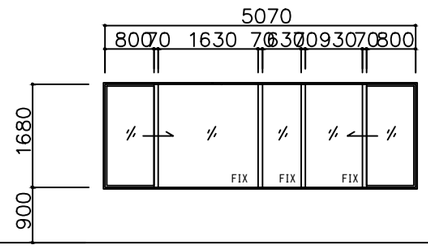
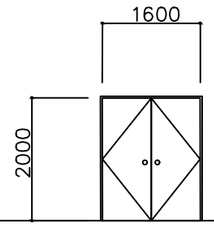


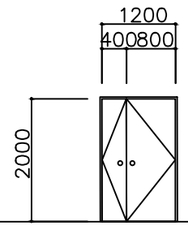
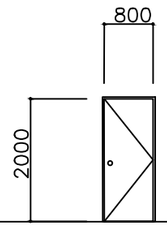
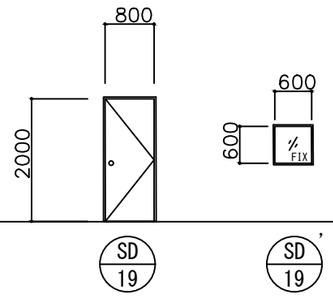
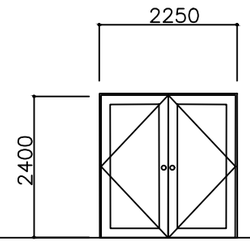




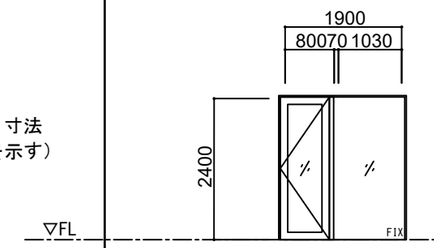
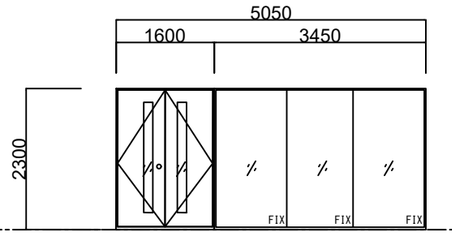
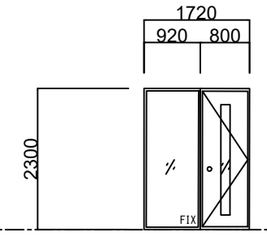
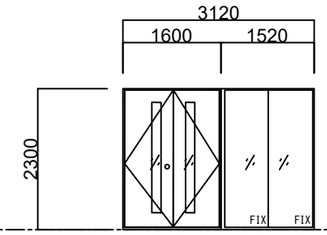


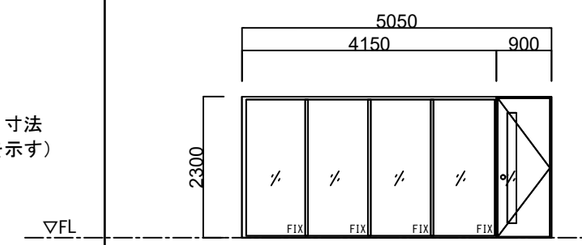
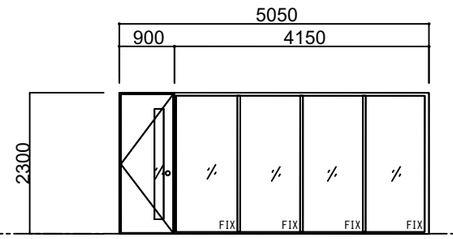
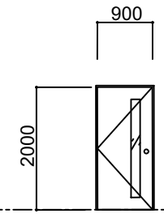
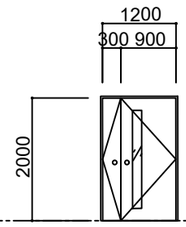
横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/200	図面名称	建具表キープラン　＜撤去＞＜改修＞
設　計　者				
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹			図面番号	A-39

記号・位置・数量	AW 1	L.L実習室（1）（2）、L.L事務室	3	AW 7	L.L実習室（1）	1	AW 8	L.L実習室（1）（2）	1	D 3	L.L実習室（1）（2）、L.L事務室 L.Lテープライブラリー	4
形状・寸法 （内観を示す）												
改修内容 撤去	そのまま			そのまま			そのまま			撤去（枠とも）		
改修内容 改修・新設	-			-			-			-		
種別・方式	片引き・嵌め殺し窓			片引き・嵌め殺し窓			片引き・嵌め殺し窓			両開きベニヤフラッシュドア		
仕上・見込	アルミ		100 mm	アルミ		100 mm	アルミ		100 mm	O.P.		70 mm
硝子	網入り透明ガラス t6.8			網入り透明ガラス t6.8			網入り透明ガラス t6.8					
金物	付属金物一式			付属金物一式			付属金物一式			付属金物一式		
備考												

記号・位置・数量	D 8 / D 8	L.Lテープライブラリー	2	D 10	L.L実習室（1）（2）、L.L事務室	3	SD 19 / SD 19	L.L編集室、録音室	SD19x3 SD19'x1	CD 5	L.L事務室	1
形状・寸法 （内観を示す）												
改修内容 撤去	撤去（枠とも）			撤去（枠とも）			撤去（枠とも）			そのまま		
改修内容 改修・新設	-			-			-			-		
種別・方式	親子開きベニヤフラッシュドア（D8'は気密ドア）			片開きベニヤフラッシュドア			片開きスチールフラッシュドア（気密ドア）、はめ殺し窓			両開きコールテン鋼サッシドア		
仕上・見込	O.P.（D8'はスチール）		70 mm	O.P.		70 mm	スチール		150 mm	コールテン鋼		100 mm
硝子										網入り透明ガラス t10		
金物	付属金物一式			付属金物一式			丁番、ドアチェック、レバーハンドル、付属金物一式			フロアヒンジ、引手、シリンダー本締錠、付属金物一式		
備考												

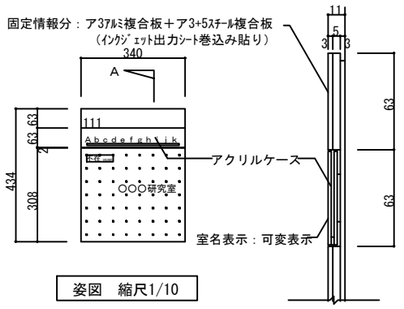
横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	図面名称	建具表（1）　＜撤去＞＜改修＞
縮尺	A3：1/100		
設計者	株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹	図面番号	A-40

記号・位置・数量	CD 8	廊　下（1）	1	GP 1	学生演習室１	1	GP 2	学生演習室１	1	GP 3	学生演習室２	1
形状・寸法（内観を示す）											
改修内容 撤　去	そのまま			－			－			－		
改修内容 改修・新設	－			新設			新設			新設		
種別・方式	片開きコールテン鋼サッシドア			FIXガラスアルミパーティション、亜鉛めっき鋼板両開きフラッシュ遮音ドア			FIXガラスアルミパーティション、亜鉛めっき鋼板方開きフラッシュ遮音ドア			FIXガラスアルミパーティション、亜鉛めっき鋼板両開きフラッシュ遮音ドア		
仕上・見込	コールテン鋼		100 mm	亜鉛めっき鋼板(樹脂焼付塗装仕上げ)		100 mm	同左		同左	同左		同左
硝　　子	網入り透明ガラス t10			透明合わせガラス t5+5（FLから+200までカッティングシート貼り）			同左			同左		
金　　物	フロアヒンジ、引手、シリンダー本締錠、付属金物一式			ドアハンドル、マスターキー対応U9錠、付属金物一式			同左			同左		
備　　考				扉にスリット窓（フロートｔ5+飛散防止フィルム）付き			同左			同左		

記号・位置・数量	GP 4	学生演習室２	1	GP 5	学生演習室３、4 プロジェクト研究室	3	LSD 6 / LSD 6	学生演習室３ プロジェクト研究室	3	LSD 7	学生演習室４ プロジェクト研究室	2
形状・寸法（内観を示す）							※LSD6'は開き勝手が逆 ※曇りフィルム貼り（研究室１、２のみ） ※電気錠（研究室１、２のみ） 				
改修内容 撤　去	－			－			－			－		
改修内容 改修・新設	新設			新設			新設			新設		
種別・方式	FIXガラスアルミパーティション、亜鉛めっき鋼板方開きフラッシュ遮音ドア			FIXガラスアルミパーティション、亜鉛めっき鋼板片開きフラッシュドア			FIX窓付き軽量スチール片開きフラッシュドア			軽量スチール親子扉開きフラッシュドア		
仕上・見込	亜鉛めっき鋼板(樹脂焼付塗装仕上げ)		100 mm	同左		同左	軽量スチール(カラー鋼板)		120 mm	同左		同左
硝　　子	透明合わせガラス t5+5（FLから+200までカッティングシート貼り）			透明合わせガラス t5+5			強化ガラス t5			同左		
金　　物	ドアハンドル、マスターキー対応U9錠、付属金物一式			同左			ドアハンドル、マスターキー対応U9錠、付属金物一式 研究室1,2：レバーハンドル電気錠（外シリンダー・内サムタ ーン）			同左		
備　　考	扉にスリット窓（フロートｔ5+飛散防止フィルム）付き			同左			扉にスリット窓付きとする 付属金物一式曇りフィルム貼り（研究室１、２のみ）			同左		

横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/100	図面名称	建具表（２）　＜撤去＞＜改修＞
設　計　者			図面番号	A-41
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				

D－1　室名サインA　1/2、1/10、1/20

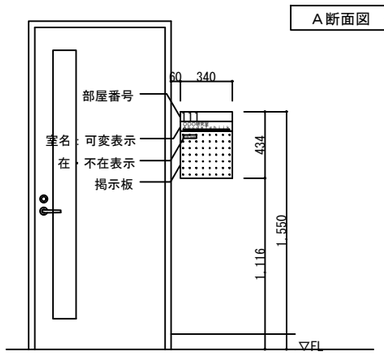


姿図　縮尺1/10

A断面図　縮尺1/2

室名サイン数量表

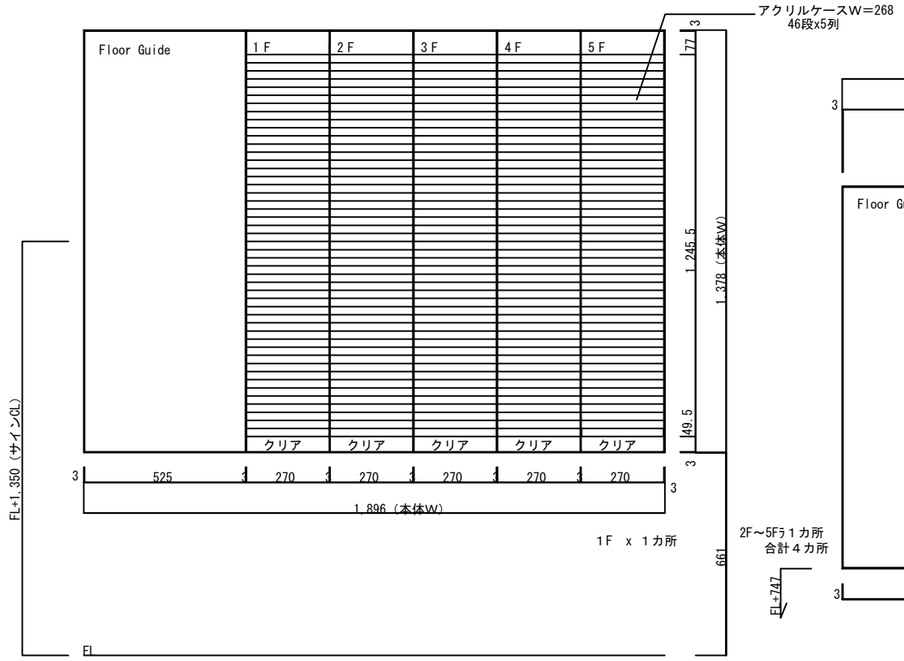
階	数　量
1	6
計	6



姿図　縮尺1/20

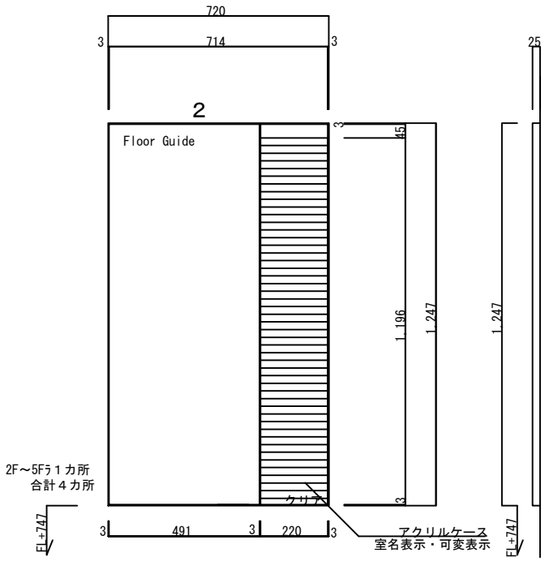
部屋番号、掲示板（固定情報分）：ア3ｱﾙﾐ複合板＋ア3+5ｽﾁｰﾙ複合板
（ｲﾝｸｼﾞｪｯﾄ出力ｼｰﾄ巻込み貼り）
室名（可変表示）：Ｄ－８参照
フロア案内サイン
在・不在表示　　：ﾏｸﾞﾈｯﾄｼｰﾄにｲﾝｸｼﾞｪｯﾄ出力ｼｰﾄ貼り（両面）
表示室名は、監督員の指示による

D－2　総合案内サイン　フロア案内サイン　1/10、1/20



※フロアマップ寸法・・・W520ﾗH1365

総合案内サイン　縮尺1/10



フロア案内サイン　縮尺1/10

D－4　ブラインドリスト

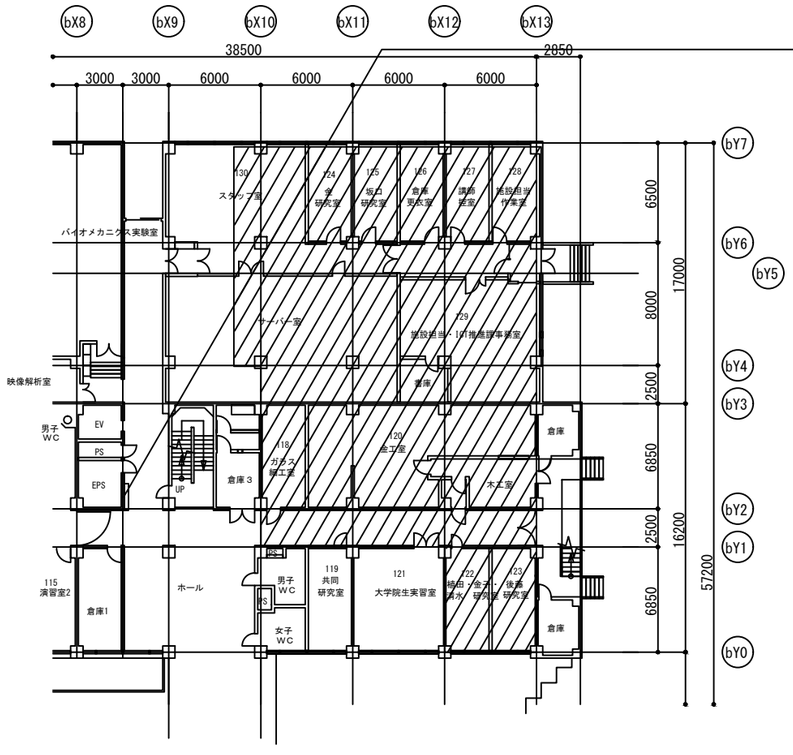
1　既存横型ブラインド取り外し（撤去）

寸　法	設置室名	数　量	備　考
[W2550xH1700程度] アルミスラット25mm	L.L事務室	2	

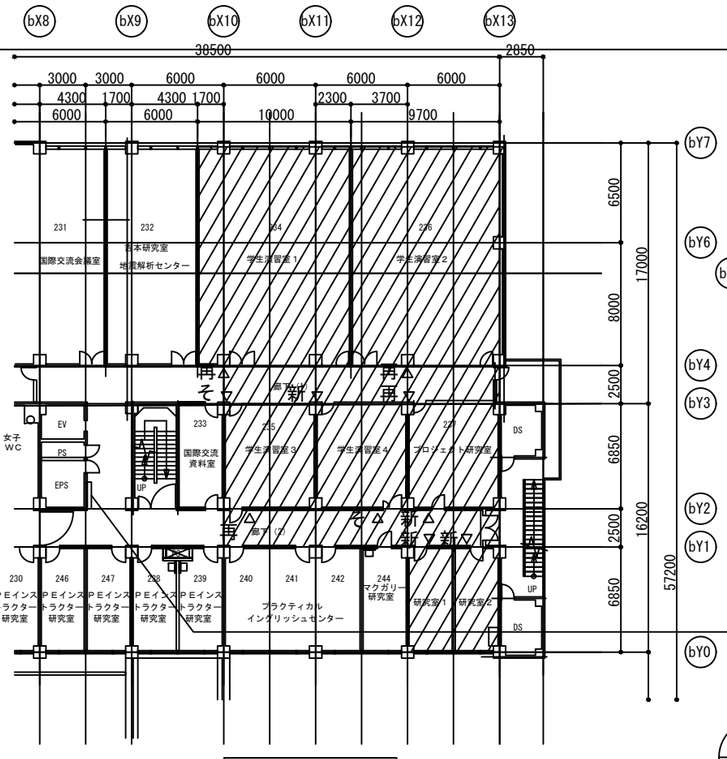
2　新設横型ブラインド

寸　法	設置室名	数　量	備　考
[W2475xH1700] アルミスラット25mm	研究室１ 研究室２	1 1	

D－3　サイン　キープラン　N.S.



1階平面図



2階平面図（改修後）

1階　総合掲示板：図面　修正
・アクリルケース内室名表示　修正
・カッティングシート（パネル同色）、耐水・耐候印刷貼り

再△　室名サインA：取外の上、再取付（取外し箇所は展開図に図示）
・取外後の位置が変わる場合、取り外した箇所の
補修（パテかい）、タ ッチアップ塗装とする
・アクリルケース内室名表示　修正
・カッティングシート（パネル同色）、耐水・耐候印刷貼り

そ△　室名サインA：そのままの位置で、表示内容修正のみ
・アクリルケース内室名表示　修正
・カッティングシート（パネル同色）、耐水・耐候印刷貼り

新△　室名サインA：新設

2階　フロア案内サイン：図面　修正
・アクリルケース内室名表示　修正
・カッティングシート（パネル同色）、耐水・耐候印刷貼り

N

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/20
設　計　者		図面名称	サイン計画図、ブラインドリスト
株式会社一級建築士事務所 DEN－A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹		図面番号	A-42

詳細－１　軽量鉄骨間仕切壁（新設）　1/20

壁符号説明

WOO－00

壁符合

・数字はＬＧＳスタッド寸法を表す。

90　　：LGS90型

数字なし：LGS65型

・高さ方向の施工範囲を表す。

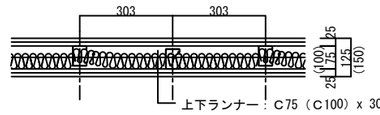
Ｃ：天井まで（詳細については各図面参照）

Ｓ：梁またはスラブ下まで

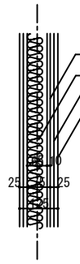
Ｗ１　１時間耐火・遮音(TLD-50)

（　）内寸法は90型スタッドの場合の寸法を示す。

平面図



断面図



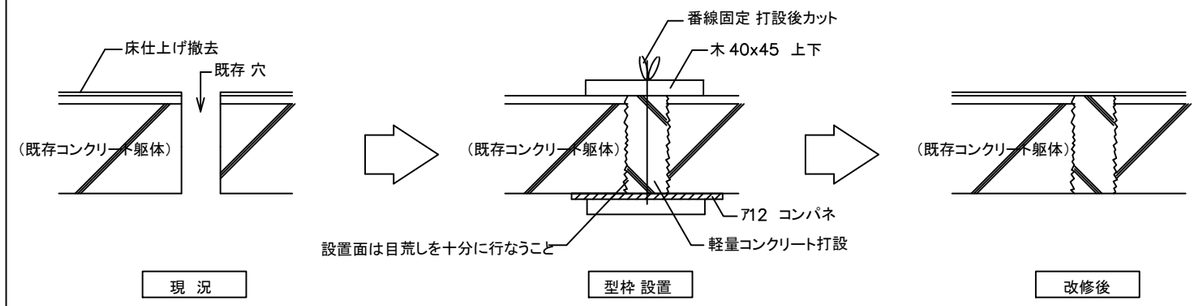
ＬＧＳスタッド：65x 45x 0.8
@303チドリ
ア50グラスウール（24K）充填
ア12.5 強化石膏ボード(両面)
ア12.5 強化石膏ボード(両面)

高さ方向施工範囲
ＬＧＳ、ボードともＳＬ（床下地）～梁またはスラブ下

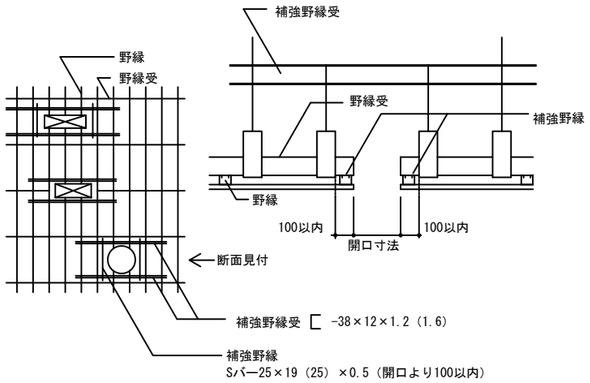
吉野石膏(株)
・ハイパーウォールＳ１２･ＷＩ 同等
耐火構造認定番号：FP060NP-0175
遮音構造認定番号：SOI-0110

スタッド65型：スタッド高さ3.3m以下
スタッド90型：スタッド高さ3.7mを超え4.2m以下

詳細－２　既存配管穴ふさぎ　詳細図（ドライ仕様）　N.S.



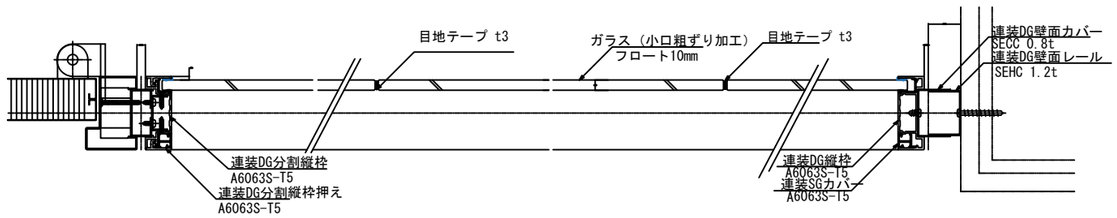
詳細－３　補強野縁受（開口補強）　N.S.



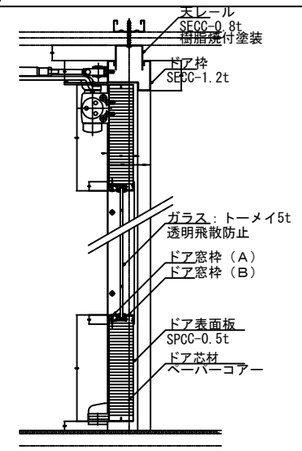
（　　）寸法は屋外仕様

詳細－４　ガラスパーティション（新設（参考））

連装サイドガラス　N.S.

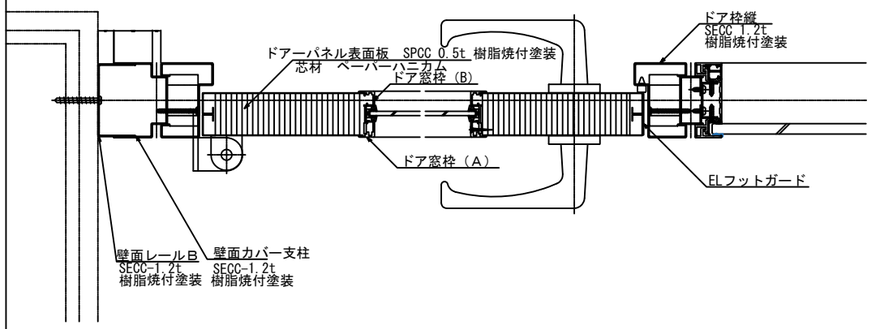


ドアーパネル縦断面図　N.S.

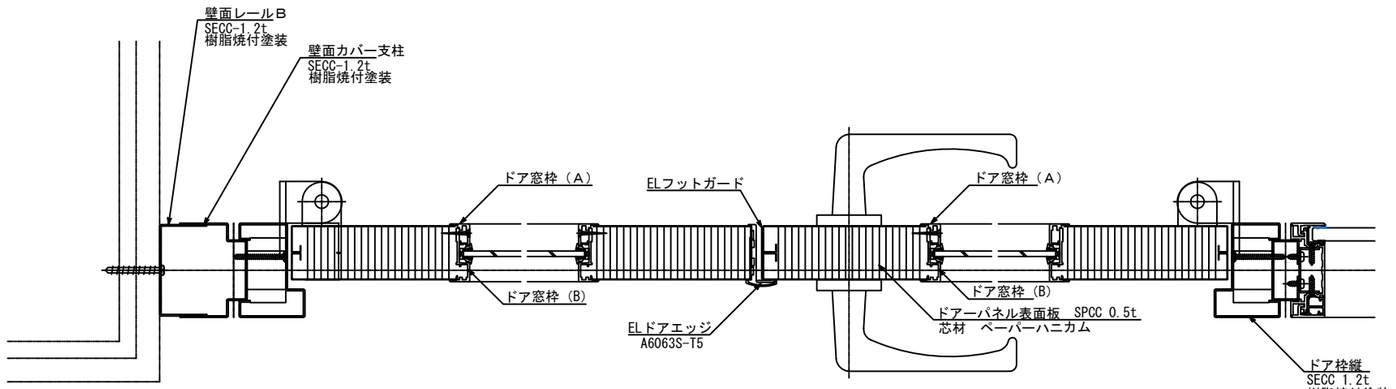


詳細－４　ガラスパーティション（新設（参考））

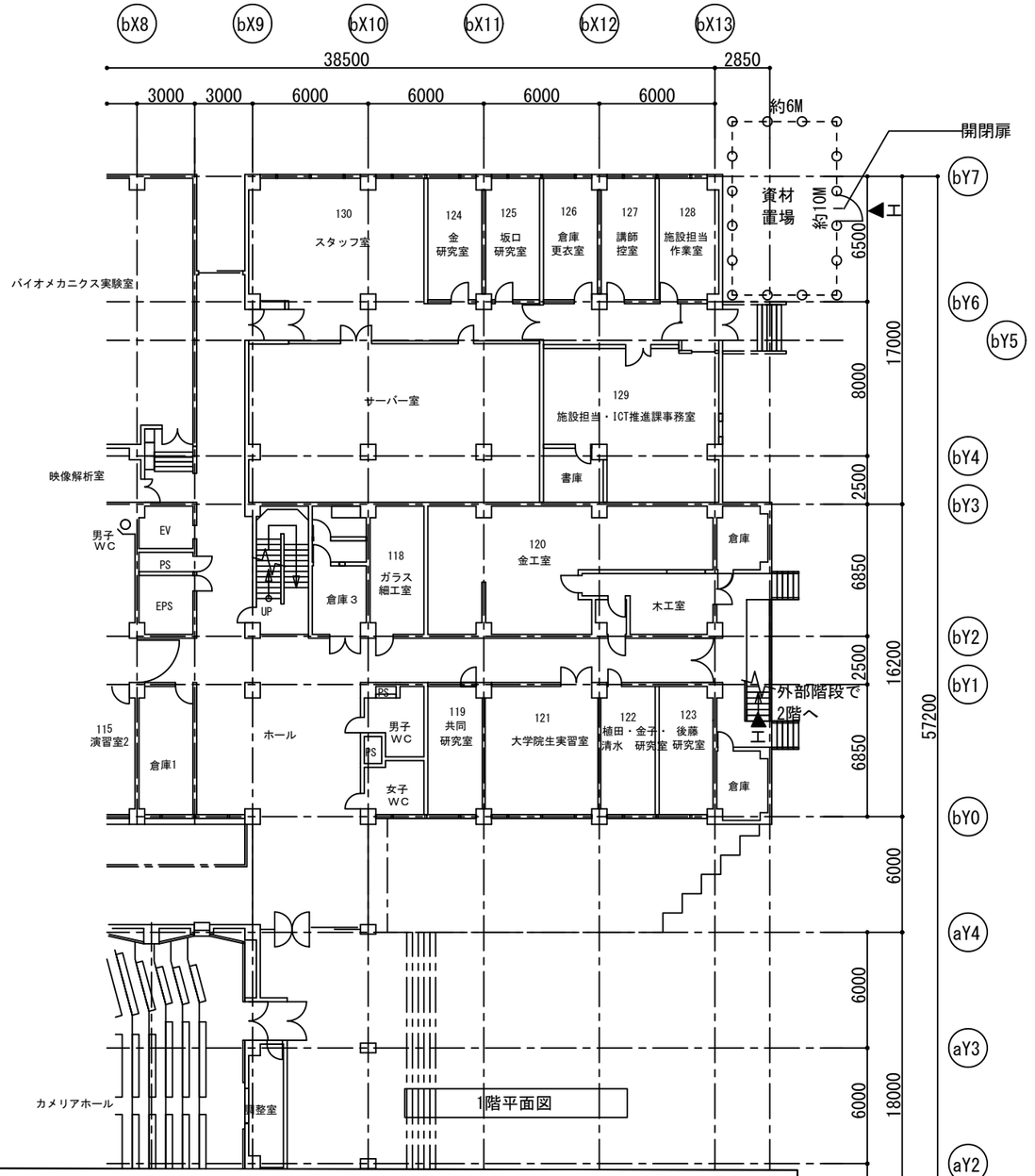
方開き遮音フラットドア平断面図　N.S.



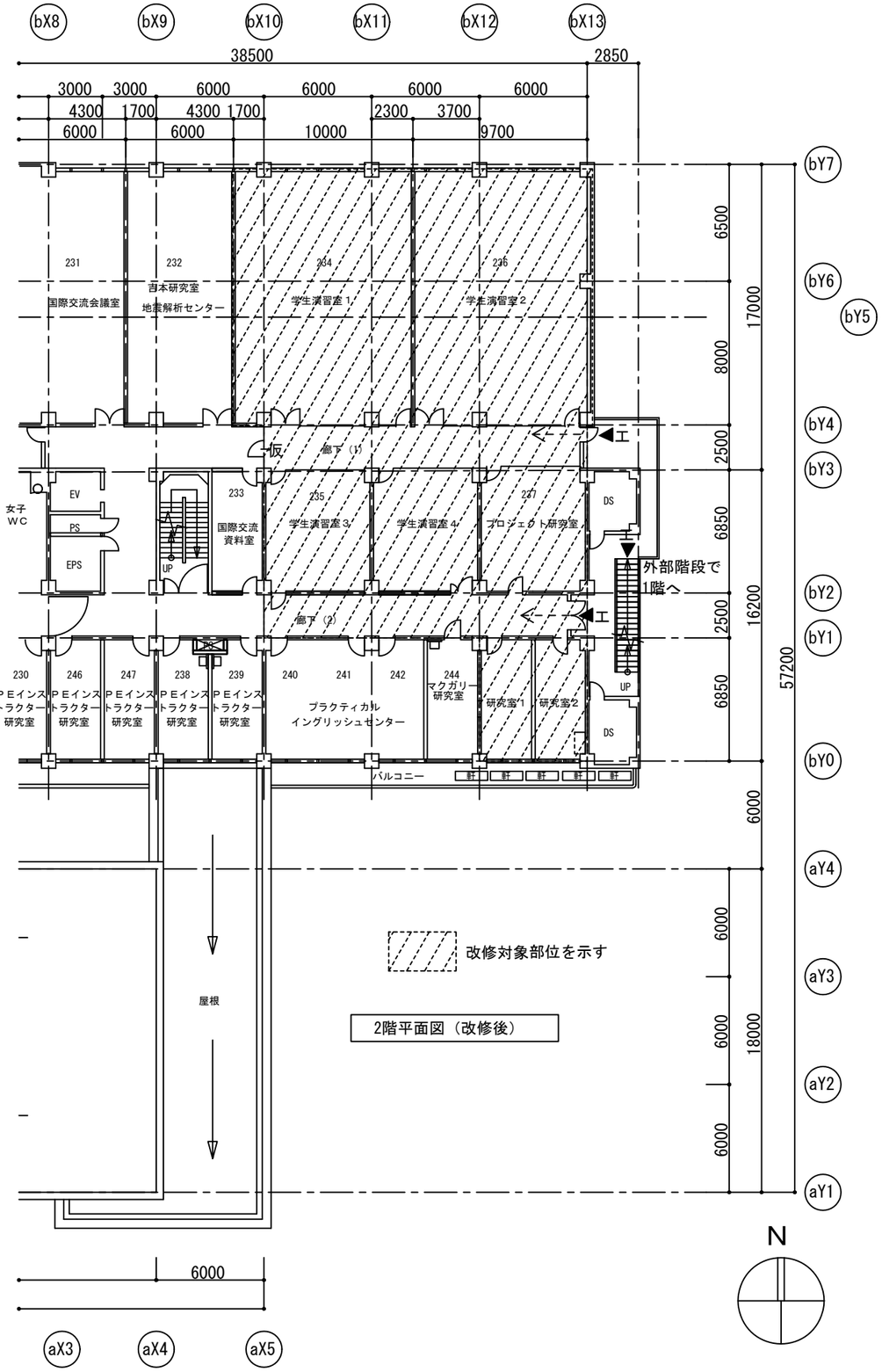
両開き遮音フラットドア平断面図　N.S.



横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月　縮尺　A3：1/20,N.S	図面名称	部分詳細図・凡例
設計者	株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第370642号　田中 克樹	図面番号	A-43



1階平面図



2階平面図（改修後）

<---エ	工事関係者通行（資機材搬入）ルート
←大	大学関係者通行ルート
◀エ	工事関係者出入口
◀大	大学関係者出入口
⊖-⊖-⊖	ガードフェンス（1.8m×1.8m）
誘	誘導員（大型車両入退場時は配置すること）
	床面ア9.0合板養生範囲（壁面養生共）
仮	仮設間仕切り（LGS50+片面ｱ9.5GB-R+木製片開きフラッシュ戸程度）
枠	枠組み本足場（W1200、手すり先行方式）
軒	軒裏用足場（脚立足場）

横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3：1/300	図面名称	仮設計画図（参考）
設計者				
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹			図面番号	A-44

横浜市立大学総合研究教育棟改修工事

記号	図面名
E-01	表紙、図面リスト（電気工事）
E-02	特記仕様書
E-03	3階　動力設備　全体平面図　＜撤去・新設＞
E-04	R階　動力設備　平面詳細図　＜撤去・新設＞　屋上
E-05	2階　電灯設備　全体平面図　＜撤去・新設＞
E-06	2階　電灯設備　平面詳細図　＜撤去＞　Ｌ．Ｌ第１実習室、Ｌ．Ｌ第２実習室
E-07	2階　電灯設備　平面詳細図　＜新設＞　学生演習室１、学生演習室２
E-08	2階　電灯設備　平面詳細図　＜撤去＞　Ｌ．Ｌテープライブラリー　他
E-09	2階　電灯設備　平面詳細図　＜新設＞　プロジェクト研究室　他
E-10	2階　ｺﾝｾﾝﾄ設備　平面詳細図　＜撤去＞　Ｌ．Ｌ第１実習室、Ｌ．Ｌ第２実習室
E-11	2階　ｺﾝｾﾝﾄ設備　平面詳細図　＜新設＞　学生演習室１、学生演習室２
E-12	2階　ｺﾝｾﾝﾄ設備　平面詳細図　＜撤去＞　Ｌ．Ｌテープライブラリー　他
E-13	2階　ｺﾝｾﾝﾄ設備　平面詳細図　＜新設＞　プロジェクト研究室　他
E-14	2階　弱電設備　全体平面図　＜撤去・新設＞
E-15	2階　弱電設備　平面詳細図　＜撤去＞　Ｌ．Ｌ第１実習室、Ｌ．Ｌ第２実習室
E-16	2階　弱電設備　平面詳細図　＜新設＞　学生演習室１、学生演習室２
E-17	2階　弱電設備　平面詳細図　＜撤去＞　Ｌ．Ｌテープライブラリー　他
E-18	2階　弱電設備　平面詳細図　＜新設＞　プロジェクト研究室　他
E-19	2階　機械警備　平面詳細図　＜新設＞　プロジェクト研究室　他

横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:N.S.	図面名称	表紙、図面リスト（電気工事）
設　計　者				図面番号	E-01
株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録　第１７０８４３号　田中　克樹					

横浜市立大学総合研究教育棟改修工事

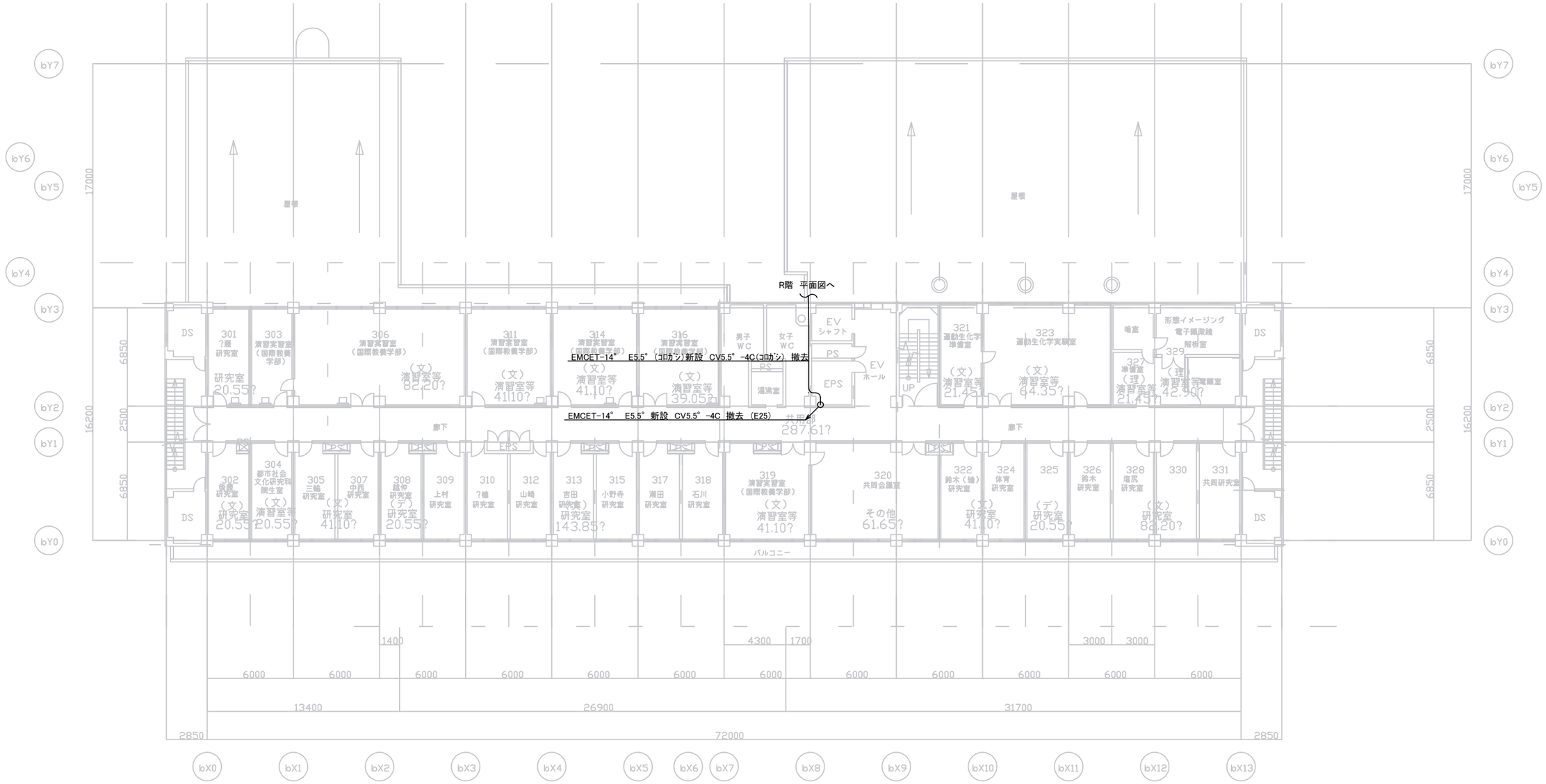
電気設備工事特記仕様書

工事場所　金沢区瀬戸22番2号

1.工事仕様　本工事は本設計図書及び「横浜市建築局電気設備工事特則仕様書」（工事公告時最新版）により施工する。
2.一般事項　（1）工事に際して事前に充分な調査を行い、設計内容を十分に理解、確認の上施工すること。
又、変更事項については、施工前に必ず監督員に連絡し指示を受けて施工すること。
（2）着工にあたって各施工業者、監督員と協議の上、実施工程表を作成し、監督員の承認を受けること。
（3）「機械警備施工業者」など別途発注の各施工業者とは着工にあたって充分な打合せを行い、取合、工事区分等確認を行うこと。
（4）工事に必要な関係官庁への打合わせ、確認及び届出等については遅滞なくこれを行う。
（5）工事中の安全対策は充分に処置すること。
（6）改修に伴い不要になった配管配線は全て撤去する。
（7）図中特記なき配管サイズはPF管とする。
（8）図面上記載なくとも、施工上又は機能上必要と思われるものは、監督員の指示に従い施工すること。
（9）P.BOX、BP等はシール表示とする。
（10）P.BOX、J.BOX内及び点検口付近の電線、ケーブルは線名札にて表示する。
（11）既設再使用機器は点検・清掃の上、再取付とする。
3.工事項目　（1）幹線・動力設備
（2）電灯・コンセント設備
（3）電話設備
（4）情報設備
（5）放送設備
（6）自動火災報知設備

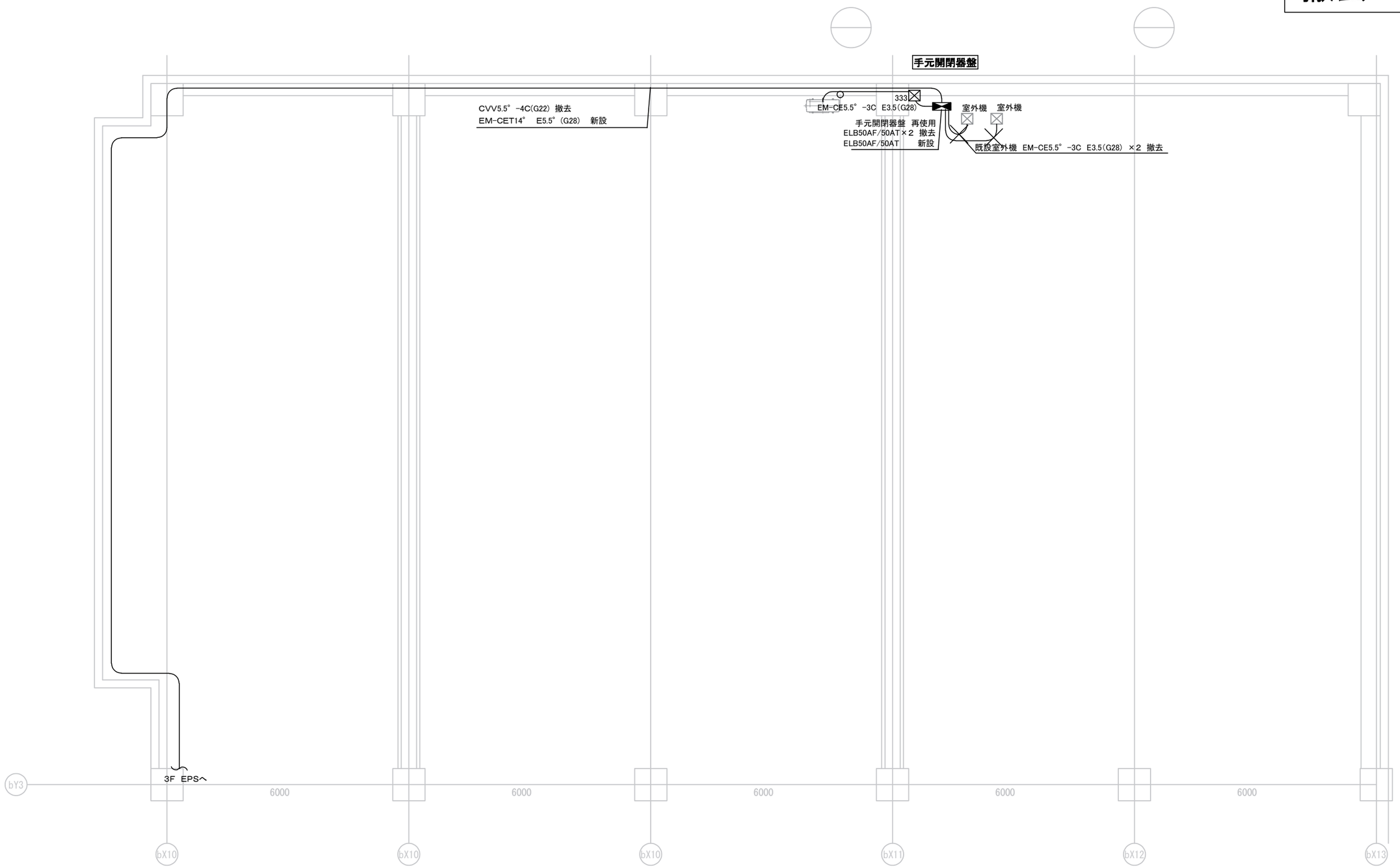
4.工事概要　LL演習室、学生演習室、テープライブラリ室、事務室改修工事に伴う電気設備工事

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	NS	図面名称	特記仕様書
設　計　者				図面番号	E-02
株式会社一級建築士事務所DEN－A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹					



横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日 令和6年3月	縮尺 A3:1/300	図面名称	3階 動力設備 全体平面図 <撤去・新設>
設計者 株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170442号 田中 克樹		図面番号	E-03

撤去・新設



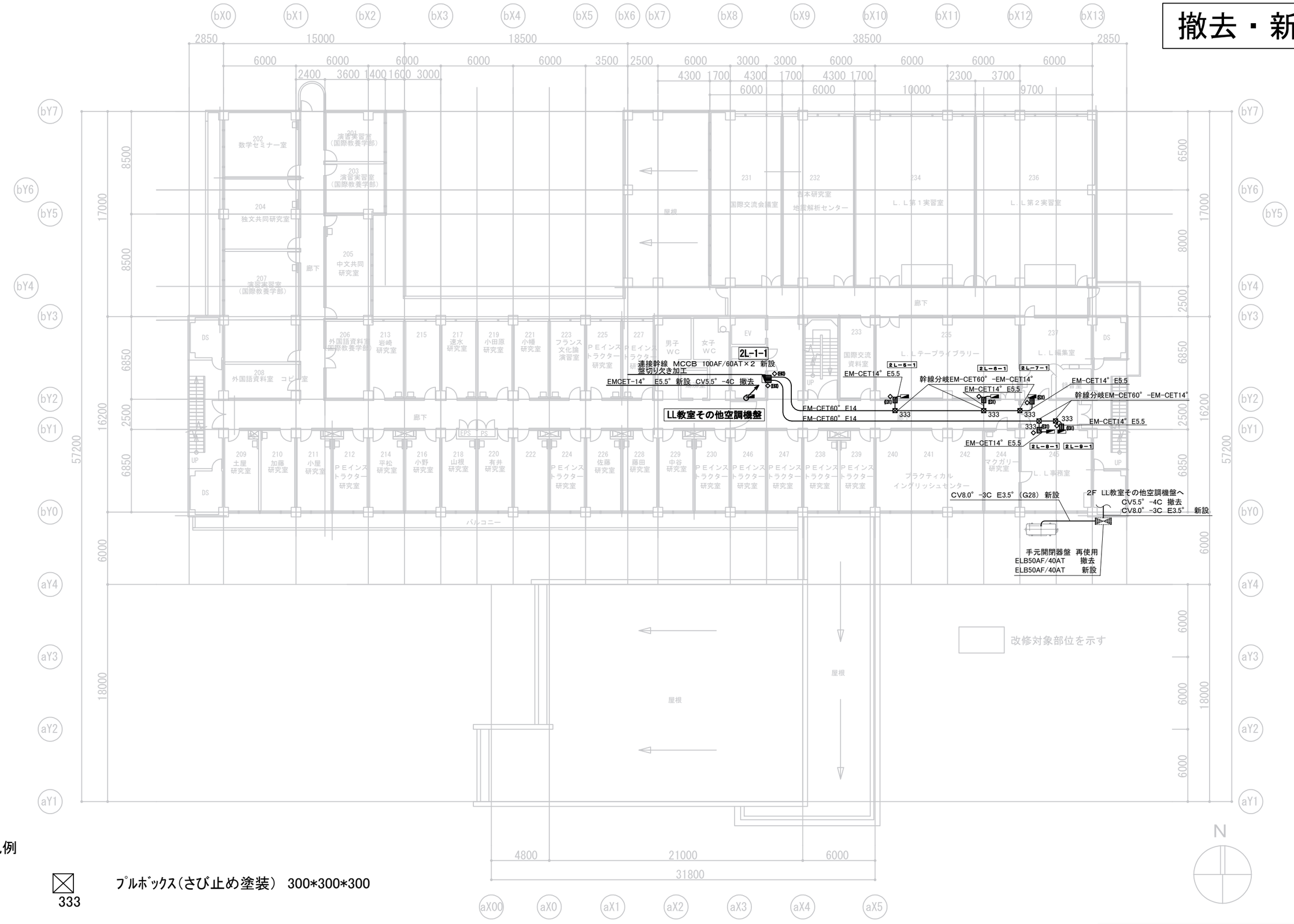
凡例

333 プルボックス(溶融亜鉛メッキ) 300*300*300

室外機 室外機端子盤(空調工事にて撤去)

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日 令和6年3月	縮尺 A3:1/100	図面名称	R階 動力設備 平面詳細図 <撤去・新設> 屋上
設計者 株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 御中 克樹		図面番号	E-04

撤去・新設

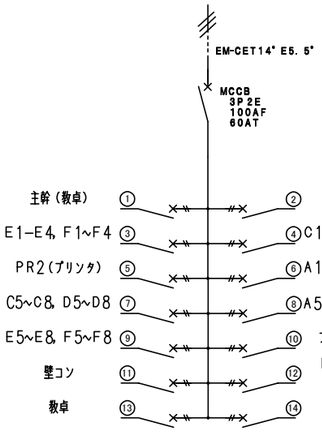


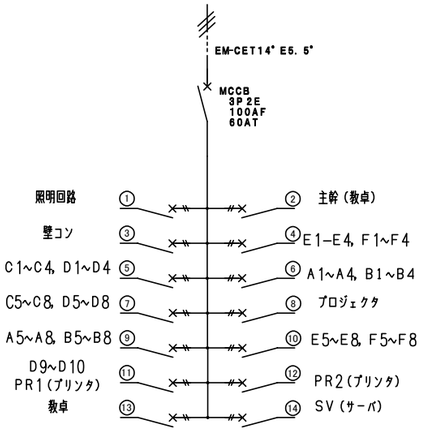
凡例

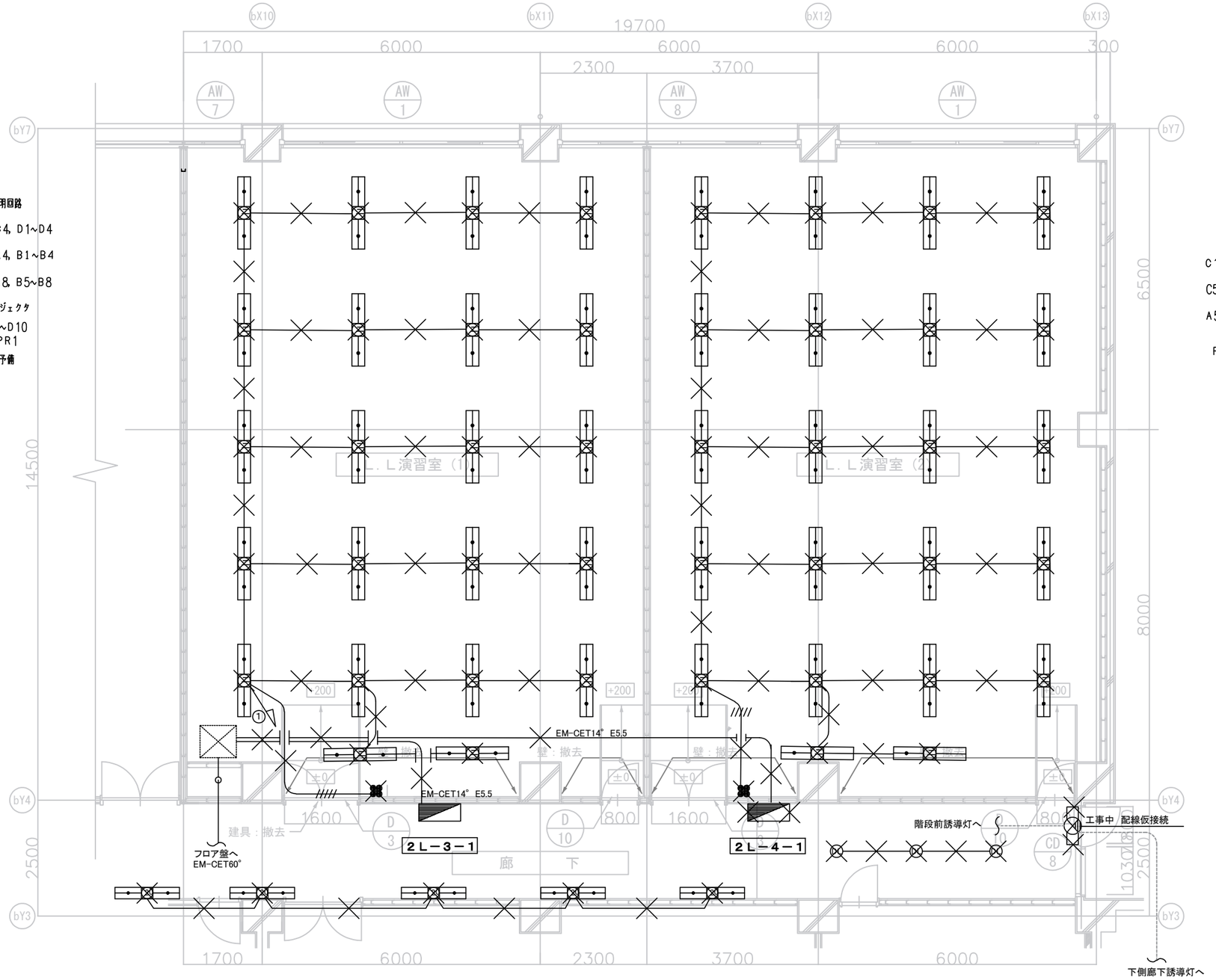
⊠ 333 プルボックス(さび止め塗装) 300*300*300

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	図面名称	2階 電灯設備 全体平面図 <撤去・新設>
縮尺	A3:1/300		
設計者	株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹	図面番号	E-05

撤去







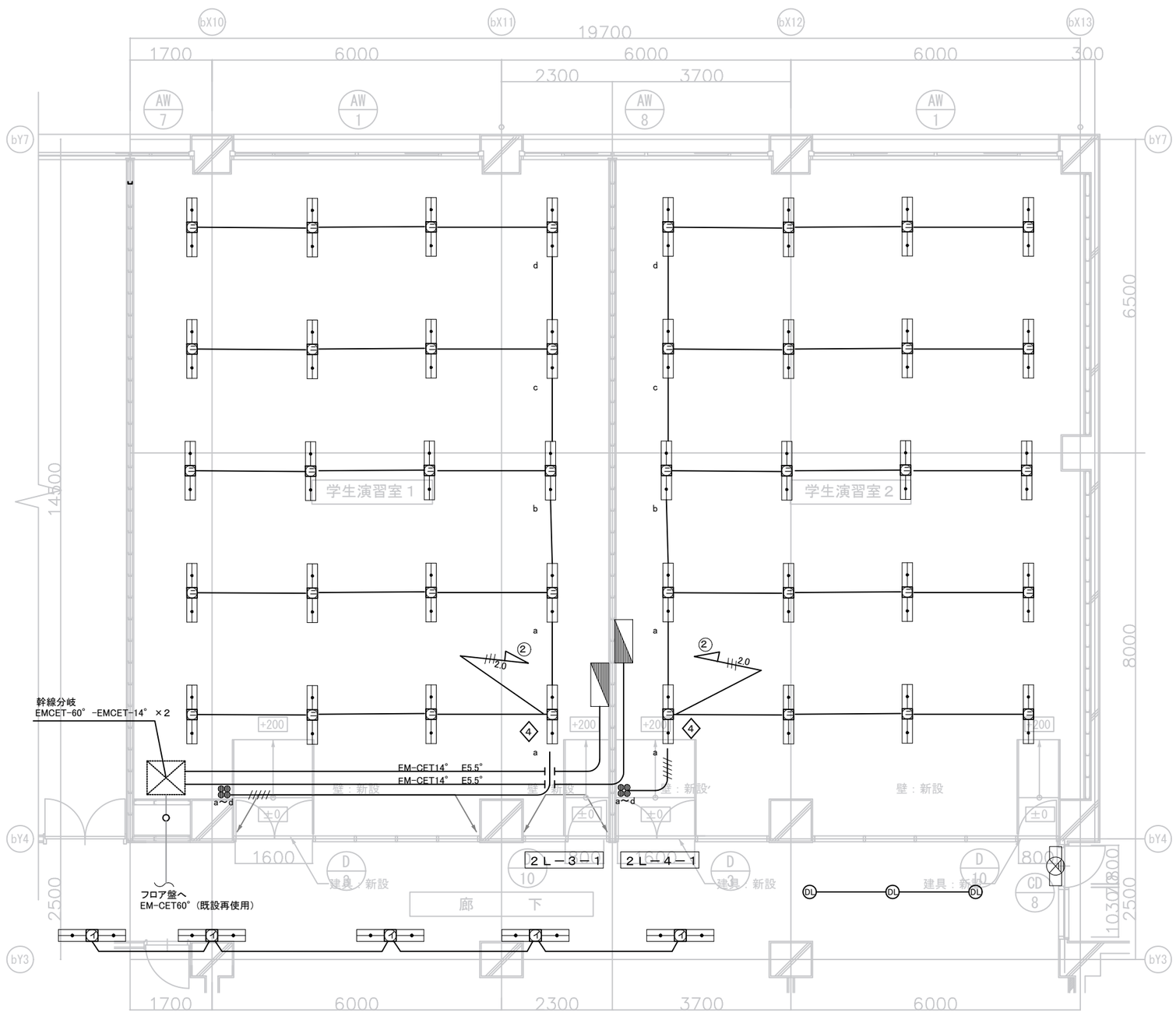
凡例

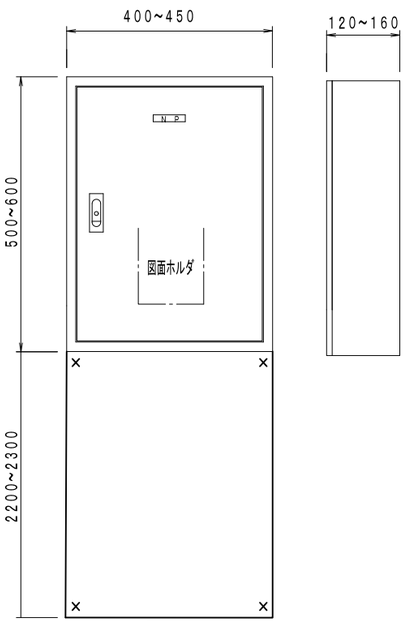
	EM-EEF1.6-3C
2.0	EM-EEF2.0-3C
	FL40W×2
20	FL20W×1
DL	ダウンライト
	避難口誘導灯　壁付け　片面　C級　壁付け　片面

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:1/100
図面名称	2階　電灯設備　平面詳細図　＜撤去＞ L．L第1実習室、L．L第2実習室		
設計者	株式会社一級建築士事務所DEN－A 一級建築士登録　第170642号　御中 克樹	図面番号	E-06

新設

設置場所 / 受電電圧 / 分電盤名称	電気方式 / 幹線番号	幹線サイズ	結線及び主開閉器	回路番号	MCCB 2P 50/20	ELCB 2P 50/20	MCCB 2P 50/20	ELCB 2P 50/20	MCCB 2P 50/30	ELCB 2P 50/30	電圧（V）	負荷名称	負荷容量（VA）電灯	コンセント	その他	OA機器	備考
会計容量 VA					分岐開閉器（JIS規格 標準型 1P+α）												
PL-3-1	AC 1φ3W 200V/100V		MCCB 3P 100AF/60AT	①		○					100	壁コンセント		800			
PL-4-1				②	○						〃	照明器具	862				
鋼板製 室内 壁掛型 (盲ドアサル付) (9,362VA)	CET14° E5.5°		MCCB 3P 50AF/NT	③		○					〃	OA（A1~A8）				800	
			EPB 3φ3W 100V	④		○					〃	OA（B1~B8）				800	
			SPD(クラスⅡ)	⑤		○					〃	OA（C1~C8）				800	
			ED	⑥		○					〃	OA（D1~D8）				800	
				⑦		○					〃	OA（E1~E8）				800	
				⑧		○					〃	OA（F1~F8）				800	
				⑨		○					〃	OA（G1~G8）				800	
				⑩		○					〃	OA（H1~H8）				800	
				⑪		○					〃	壁コンセント		800			
				⑫	○						〃	HEX			500		
				⑬	○						〃	予備					
				⑭	○						〃	予備					
												小計	862	1600	500	6,400	





分電盤参考図

イ	壁付けベースライト　センサー付

LED内蔵、電源ユニット内蔵
人感（熱線）センサ・EEセンサ付（ON/OFF型）
器具光束2980lm
壁直付型

ニ	LSS9-4-65

昼白色（5000K） Ra85
100V~242V共用タイプ

光源寿命：40,000時間
光束：6900lm 消費電力：43.0W 消費効率：160lm/W

凡例

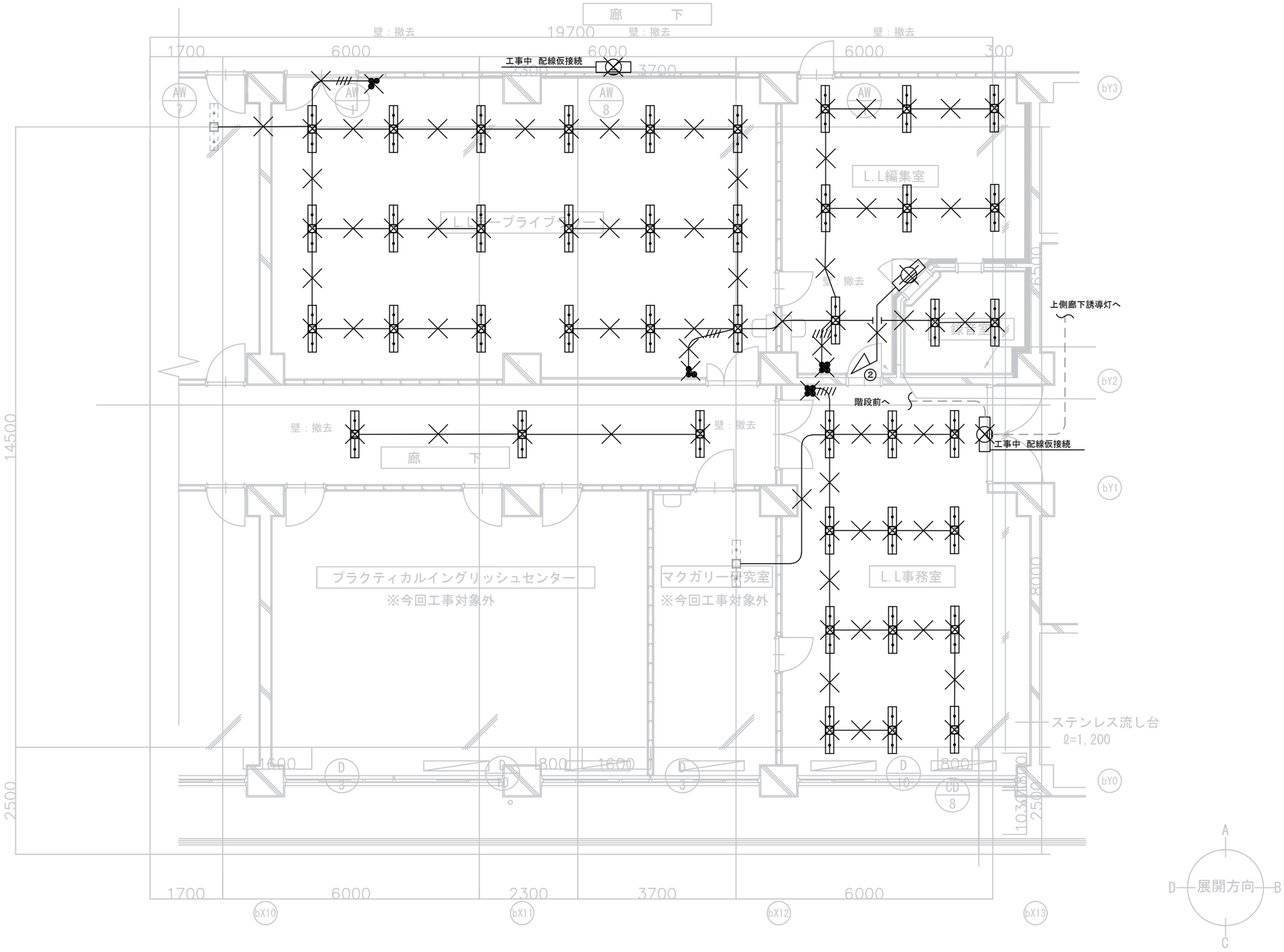
- EM-EEF1.6-3C
- EM-EEF2.0-3C
- LSS9-4-65
- 壁付けベースライト　センサー付
- LDS2-LRS1-13
- SH1-FSF21-C

特記事項

分電盤の下部に配管用のダクトを設けること。

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:1/100	図面名称	2階　電灯設備　平面詳細図　＜新設＞ 学生演習室１、学生演習室２
設計者					
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				図面番号	E-07

撤去



凡例

――――	EM-EEF1.6-3C
―――― 2.0	EM-EEF2.0-3C
	FL40W×2
	避難口誘導灯　壁付け　片面　C級　壁付け　片面

総研棟　LL実習室　◦　国際交流センター　平面詳細図　S=1：50

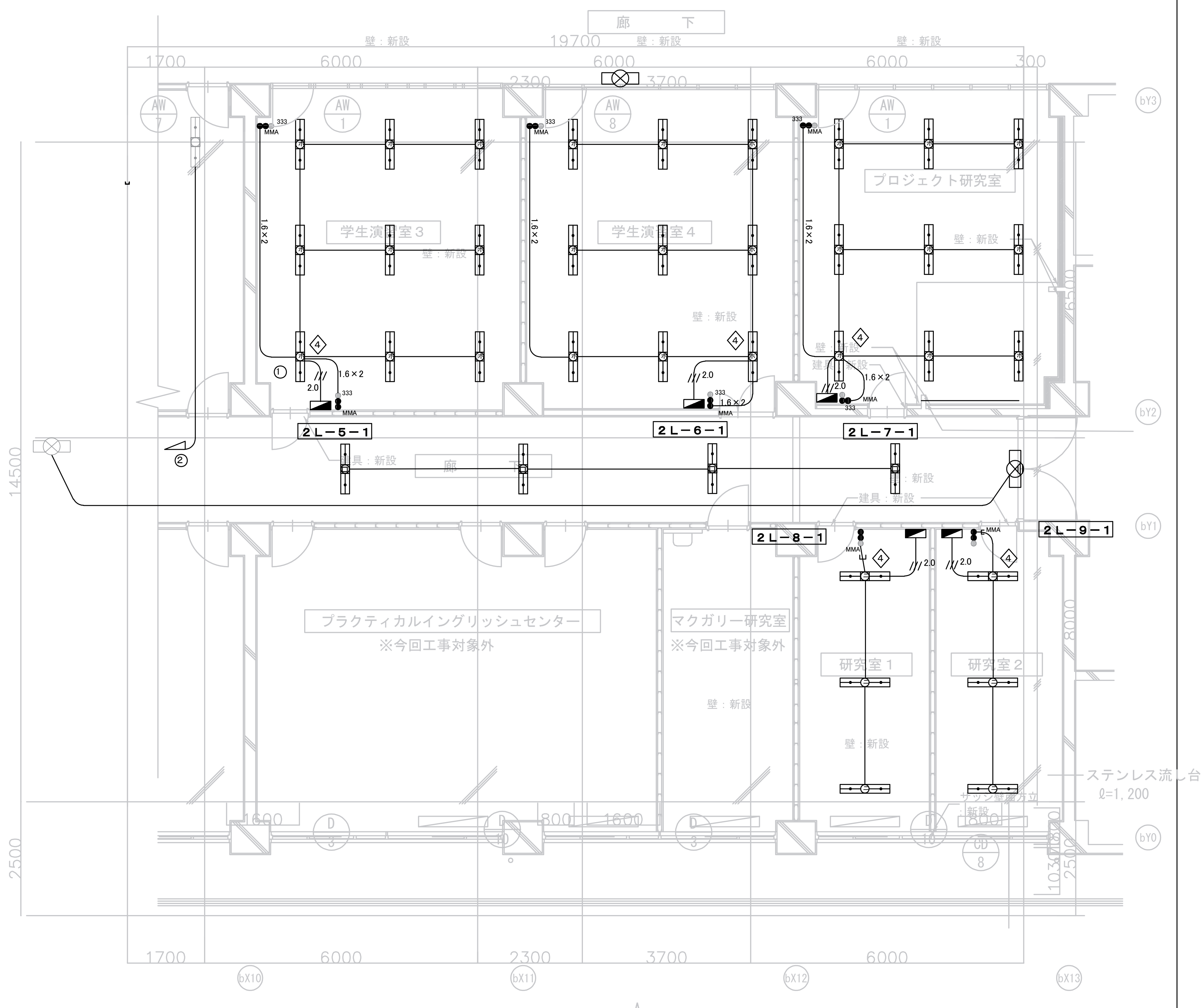
注）　内数値は床仕上り面のレベルを示す。

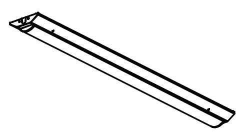
横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:1/100	図面名称	2階　電灯設備　平面詳細図　<撤去> L.Lテーブライブラリー　他
設　計　者				
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				図面番号	E-08

新設

(設置場所) 分電盤名称 / 分電盤仕様 / 合計容量 VA	電気方式 / 幹線番号 / 幹線サイズ	結線及び主開閉器	回路番号	分岐開閉器(JIS規格 協約型 1Pｻｲｽﾞ) MCCB 2P 50/20	ELCB 2P 50/20	ｻﾃｺﾝ MCCB 2P 50/20	ｻﾃｺﾝ ELCB 2P 50/20	MCCB 2P 50/30	ELCB 2P 50/30	電圧 (V)	負荷名称	負荷容量(VA) 電灯	ｺﾝｾﾝﾄ	その他	OA機器	備考
2L-5-1 2L-6-1 2L-7-1	AC 1Φ3W 200V/100V	MCCB 3P 50AF/30AT														
			1	○						100	照明器具	388				
		MCCB 3P 50AF/NT	2		○					〃	壁コンセント		800			
鋼板製 室内 壁掛型	CET14° E5.5°	SPD	3		○					〃	壁コンセント		800			
			4		○					〃	壁コンセント		800			
(3,851VA)			5		○					〃	モニタ用		800			
			6	○						〃	HEX			100		
		SPD(ｸﾗｽⅡ)	7		○					〃	FCU			163		
			8	○						〃	予備					
		ED														
											小計	388	3,200	263		

(設置場所) 分電盤名称 / 分電盤仕様 / 合計容量 VA	電気方式 / 幹線番号 / 幹線サイズ	結線及び主開閉器	回路番号	分岐開閉器(JIS規格 協約型 1Pｻｲｽﾞ) MCCB 2P 50/20	ELCB 2P 50/20	ｻﾃｺﾝ MCCB 2P 50/20	ｻﾃｺﾝ ELCB 2P 50/20	MCCB 2P 50/30	ELCB 2P 50/30	電圧 (V)	負荷名称	負荷容量(VA) 電灯	ｺﾝｾﾝﾄ	その他	OA機器	備考
2L-8-1 2L-9-1	AC 1Φ3W 200V/100V	MCCB 3P 50AF/30AT														
			1		○					200	空調機			880		
		MCCB 3P 50AF/NT	2		○					〃	予備					
鋼板製 室内 壁掛型	CET14° E5.5°	SPD	1	○						100	照明器具	130				
			2	○						〃	HEX			100		
(4,160VA)			3		○					〃	壁コンセント		800			
			4		○					〃	壁コンセント		800			
		SPD(ｸﾗｽⅡ)	5	○						〃	機械警備			50		
			6		○					〃	プリンタ用				1200	
		ED	7		○					〃	PC用				100	
			8		○					〃	PC用				100	
			9	○						〃	予備					
			10	○						〃	予備					
											小計	862	800	600	6,400	



ロ	天井埋込ベースライト　センサー付	ホ	LSS9-4-48
 人感センサ付、5200lmタイプ 定格出力型、電圧100～242V		 昼白色（5000K） Ra85 100V～242V共用タイプ 光源寿命：40,000時間 光束：5200lm 消費電力：31.9W 消費効率：163lm/W	

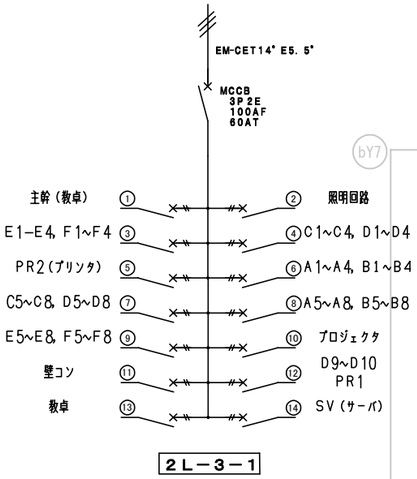
凡例

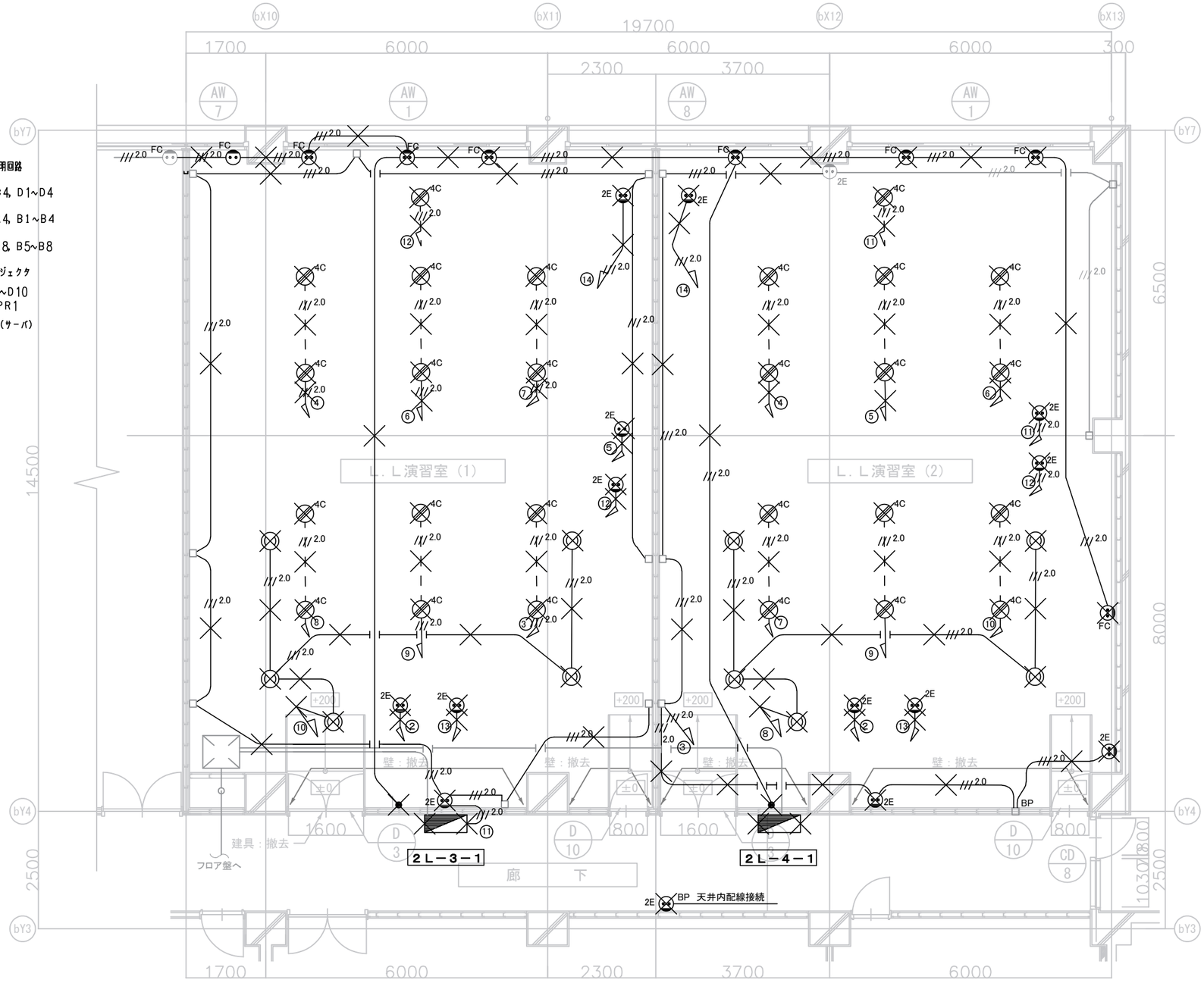
――――	EM-EEF1.6-3C
―― 1.6×2 ――	EM-EEF1.6-3C×2
―― ///2.0 ――	EM-EEF2.0-3C
ロ	ベースライト天井埋込　人感センサー付
ホ	LSS9-4-48
ニ	LSS9-4-65
⊗	SH1-FSF21-C
⊗	ST1-FRF22P-C

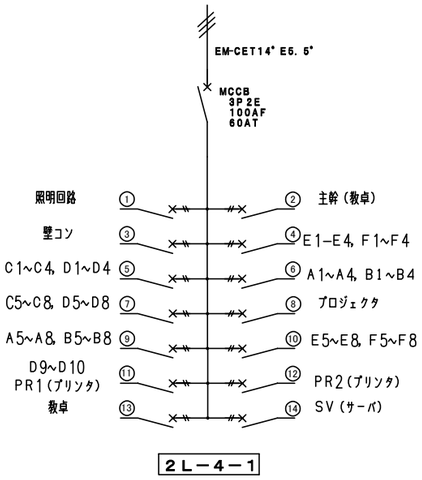
D―展開方向―B (A / C)

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:1/100	図面名称	2階　電灯設備　平面詳細図　<新設> プロジェクト研究室　他
設計者					
株式会社一級建築士事務所DEN－A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				図面番号	E-09

撤去







凡例

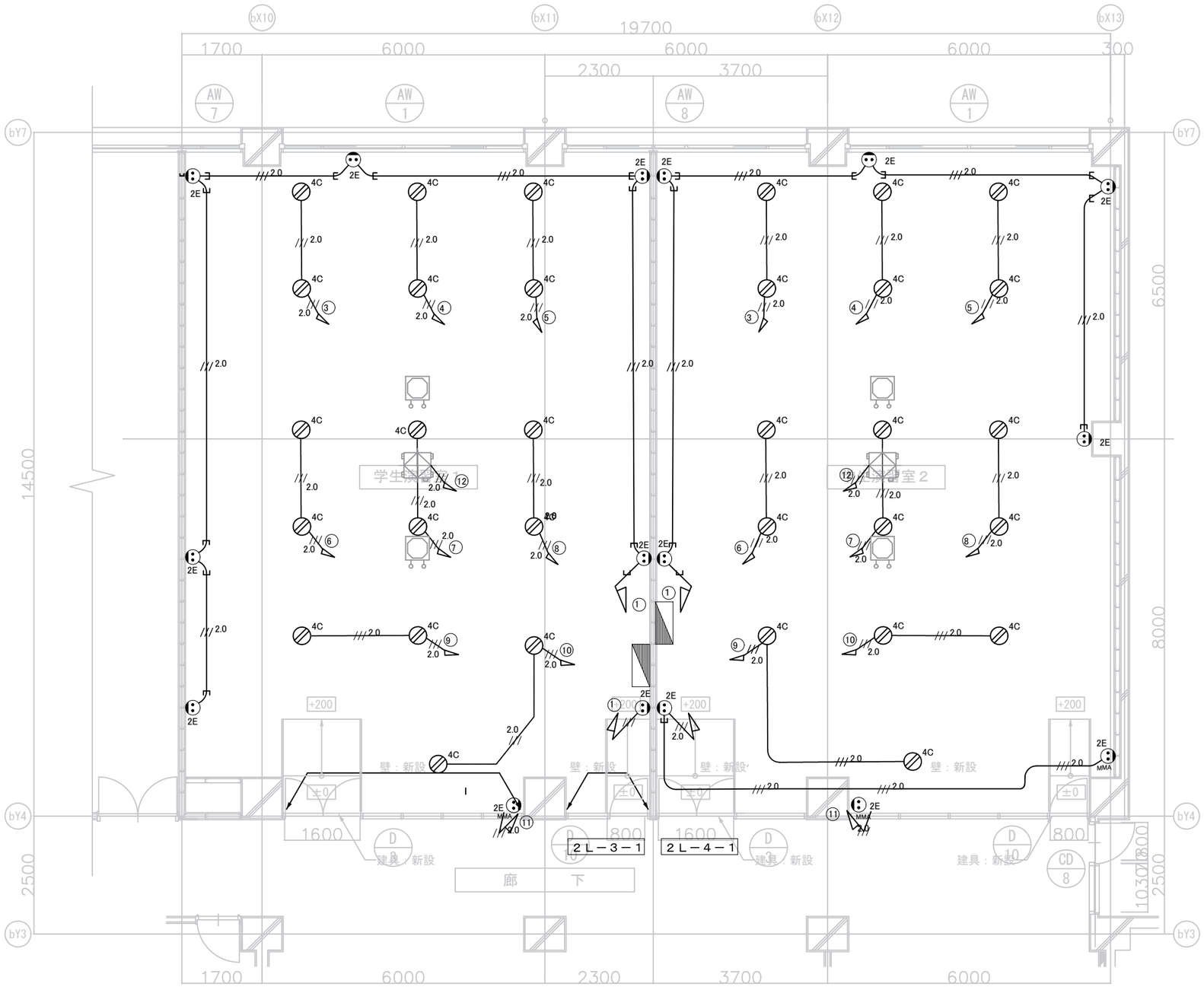
4C　ハーネスジョイントボックス
2P+接地極付　20A×2（電源×1、送り×1、分岐×4）
差し込み口付
2P+接地極付　15A×4（接地プラグ付テーブルタップ用）

2E　コンセント2P15A×2　接地極付

2.0　EM-EEF2.0-3C

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:1/100
設計者		図面名称	2階　コンセント設備　平面詳細図　<撤去> L．L第1実習室、L．L第2実習室
株式会社一級建築士事務所DEN−A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹		図面番号	E−10

新設



凡例

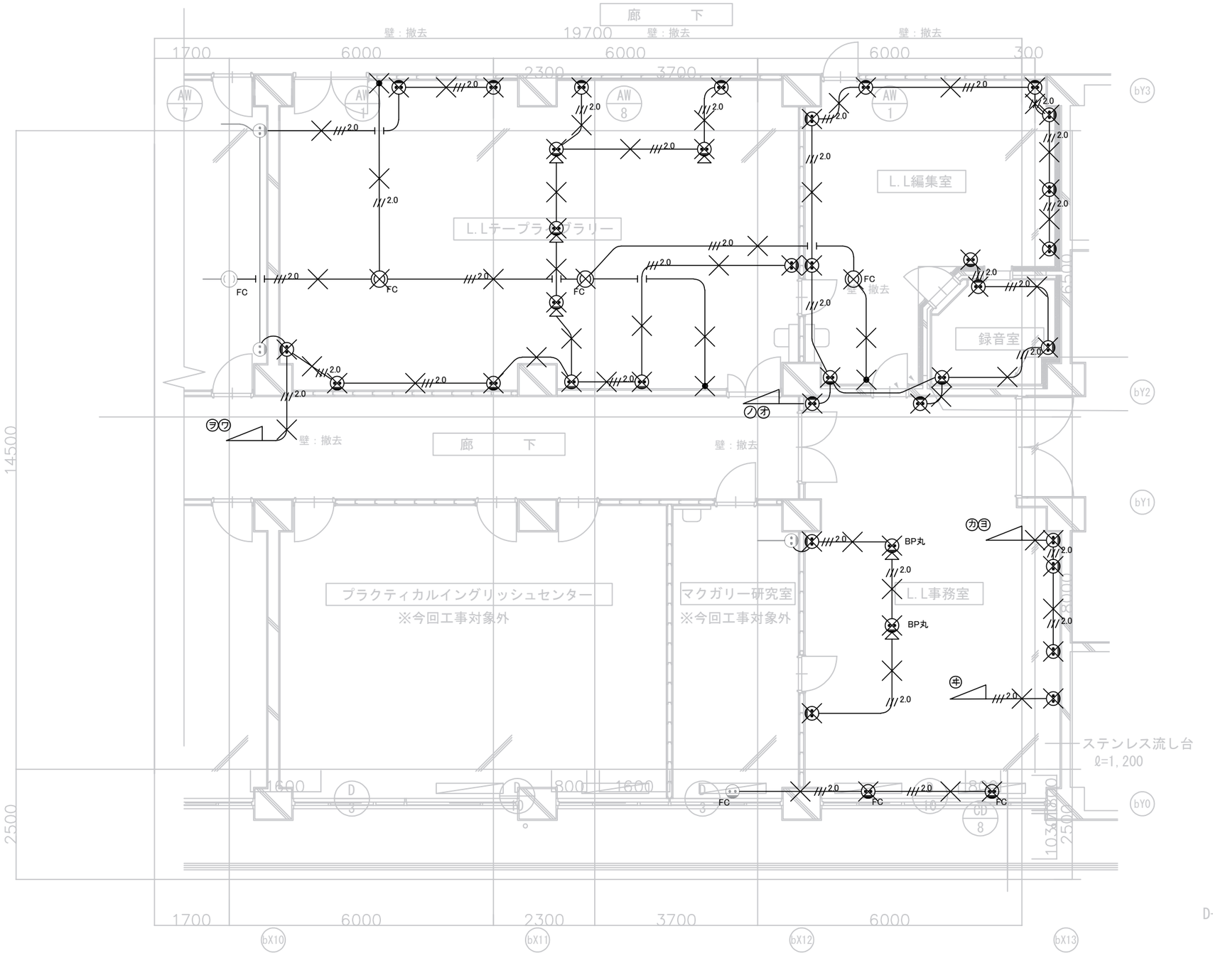
4C　ハーネスジョイントボックス
2P+接地極付　20A×2（電源×1、送り×1、分岐×4）
差し込み口付
2P+接地極付　15A×4（接地プラグ付テーブルタップ用）

2E　コンセント2P15A×2　接地極付

2.0　EM-EEF2.0-3C

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:1/100	図面名称	2階　コンセント設備　平面詳細図　<新設> 学生演習室1、学生演習室2
設計者					
株式会社一級建築士事務所DEN−A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				図面番号	E−11

撤去



凡例

2E　コンセント2P15A×2　接地極付

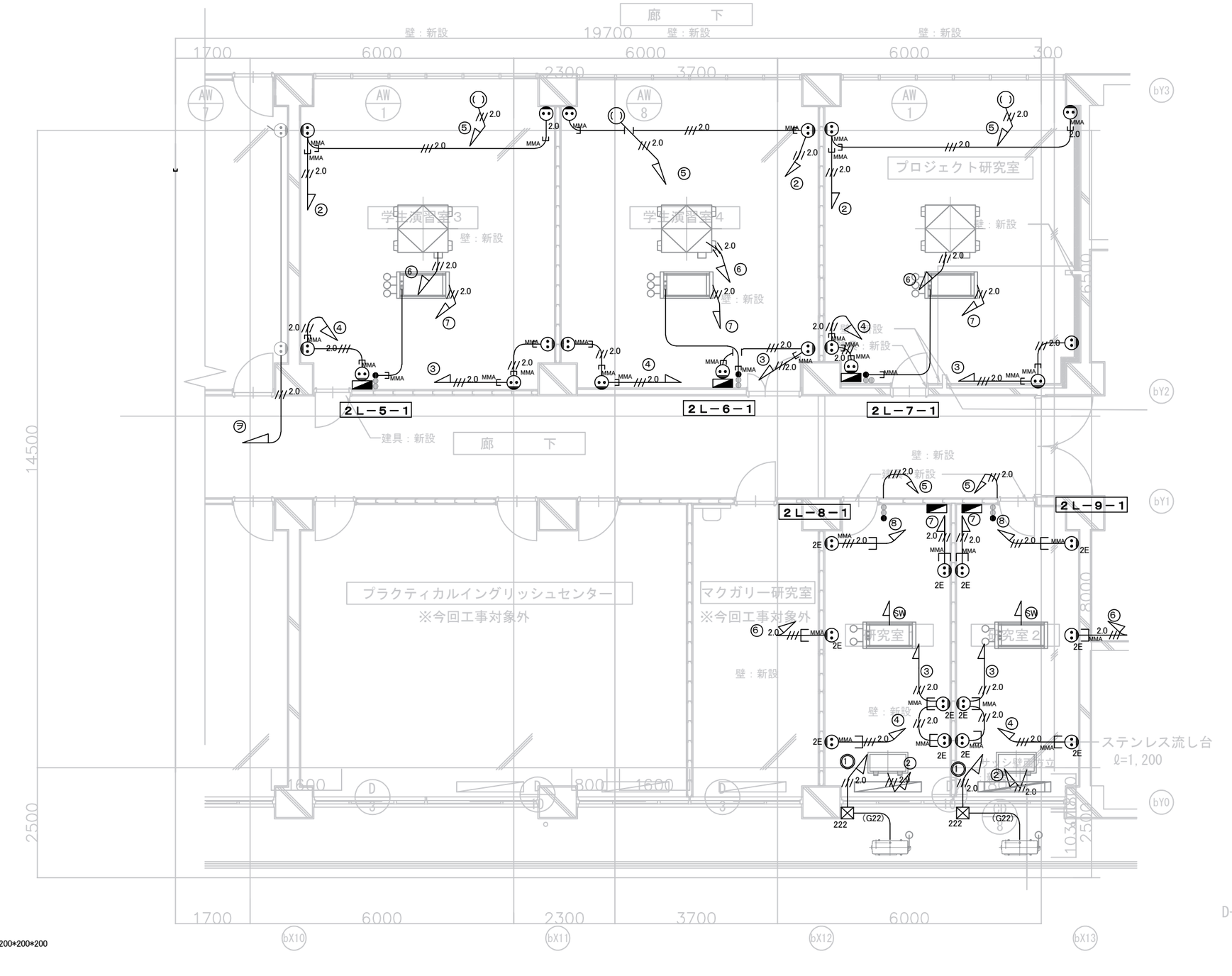
2.0　EM-EEF2.0-3C

総研棟　LL実習室　◦　国際交流センター　平面詳細図　S=1：50

注）　内数値は床仕上り面のレベルを示す。

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月　縮尺　A3:1/100	図面名称	2階　コンセント設備　平面詳細図　<撤去> L.Lテーブラブラリー　他
設計者			
株式会社一級建築士事務所DEN−A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹		図面番号	E−12

新設



凡例

222　ﾌﾞﾙﾎﾞｯｸｽ（溶融亜鉛メッキ）　200*200*200

2E　コンセント2P15A×2　接地極付

2.0　EM-EEF2.0-3C

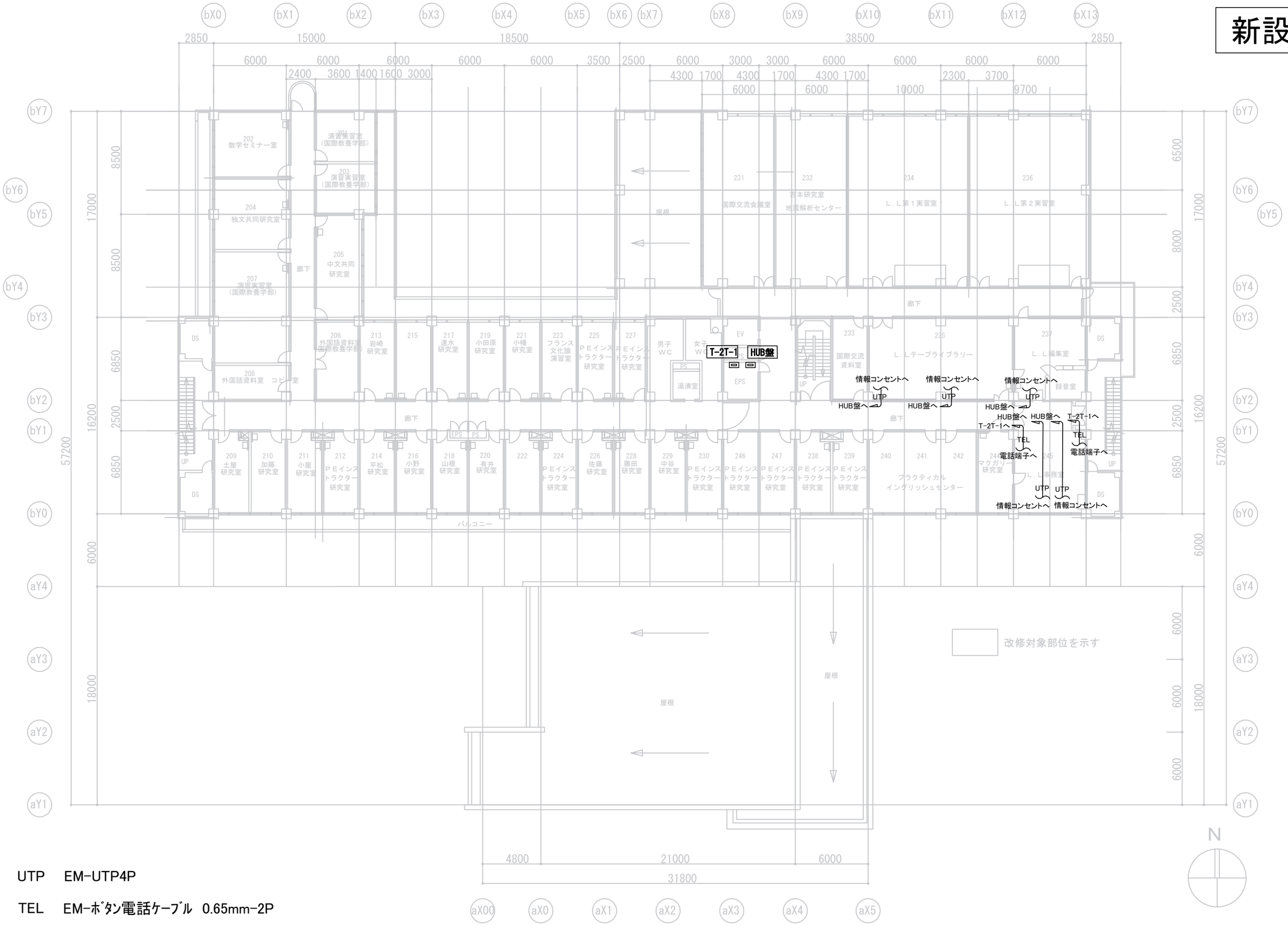
2P15A×2　4A×1

総研棟　LL実習室　◦　国際交流センター　平面詳細図　S=1：50

注）　内数値は床仕上り面のレベルを示す。

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月　縮尺　A3:1/100	図面名称	2階　コンセント設備　平面詳細図　<新設> プロジェクト研究室　他
設計者			
株式会社一級建築士事務所DEN−A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹		図面番号	E−13

新設

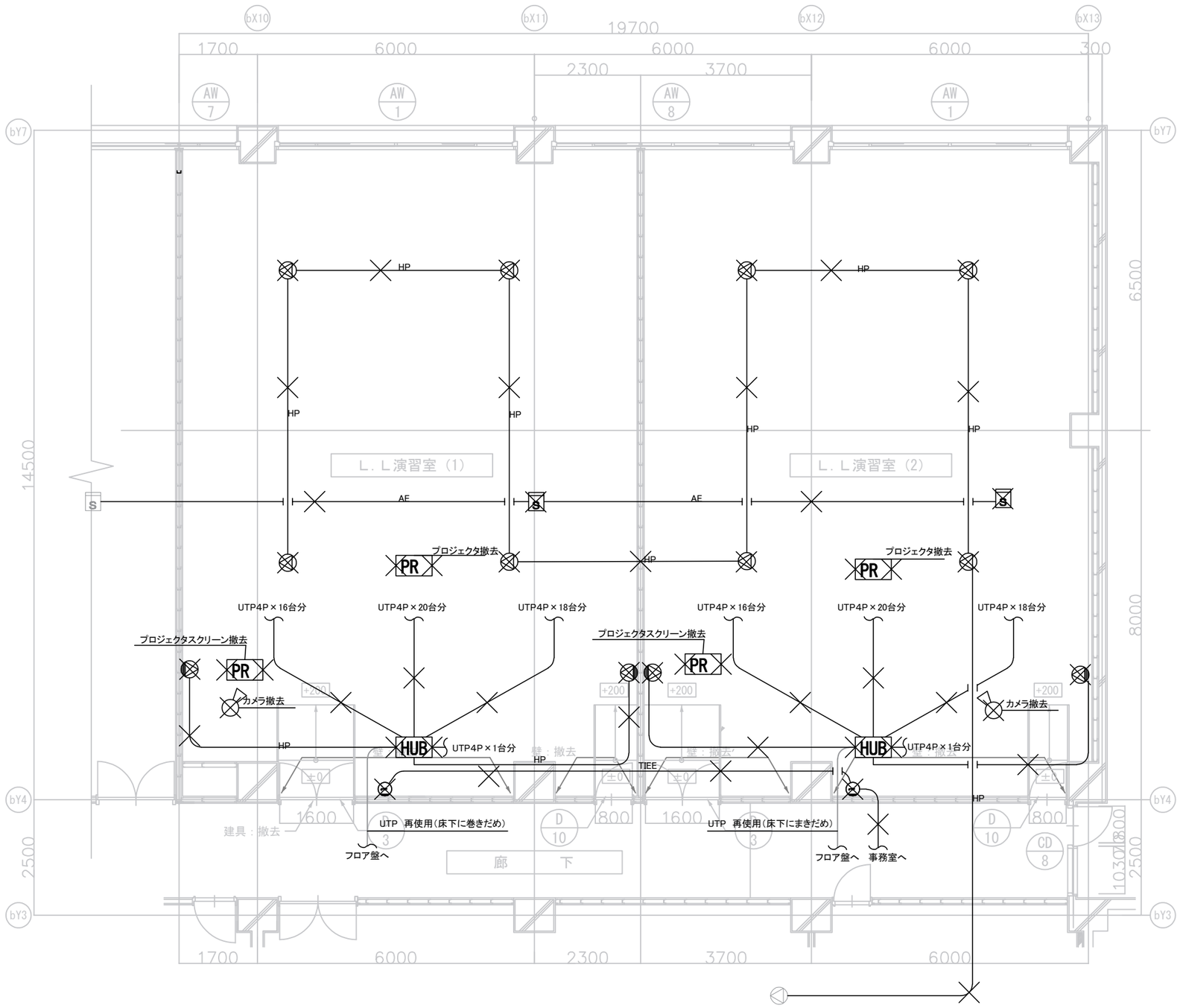


UTP　EM-UTP4P

TEL　EM-ﾎﾞﾀﾝ電話ｹｰﾌﾞﾙ　0.65mm-2P

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:1/300
設計者		図面名称	2階　弱電設備　全体平面図　＜撤去･新設＞
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　御中 克規		図面番号	E-14

撤去



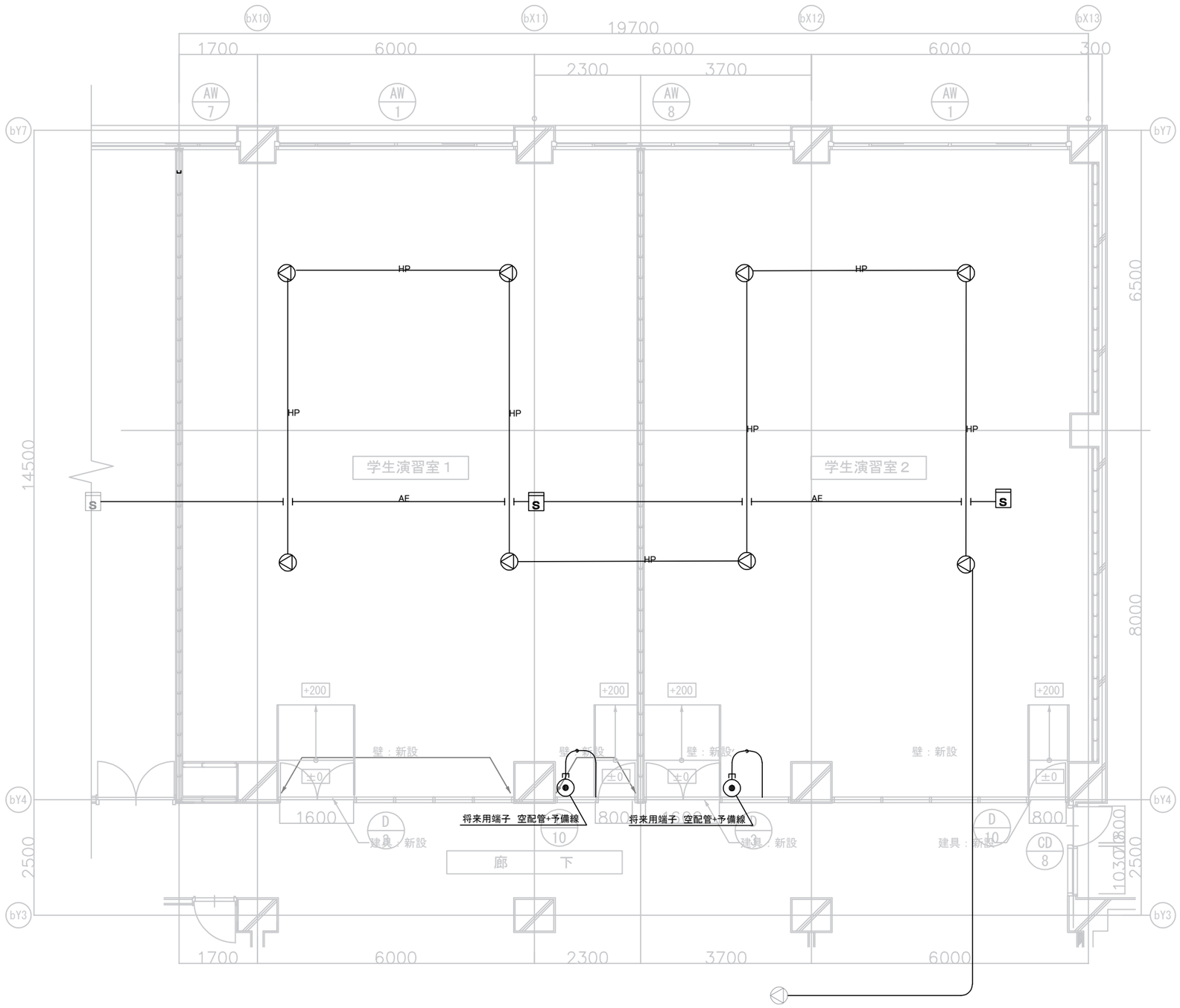
凡例

- 天井埋込スピーカ
- 壁掛けスピーカ
- インターホン
- 煙感知器　2種
- HUB　フロア用HUB48ポート（教卓全体を含む）

HP	EM-HP1.2-3C
AE	EM-AE0.9-2C

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:1/100	図面名称	2階　弱電設備　平面詳細図　＜撤去＞ L．L第１実習室、L．L第２実習室
設　計　者 株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				図面番号	E-15

新設



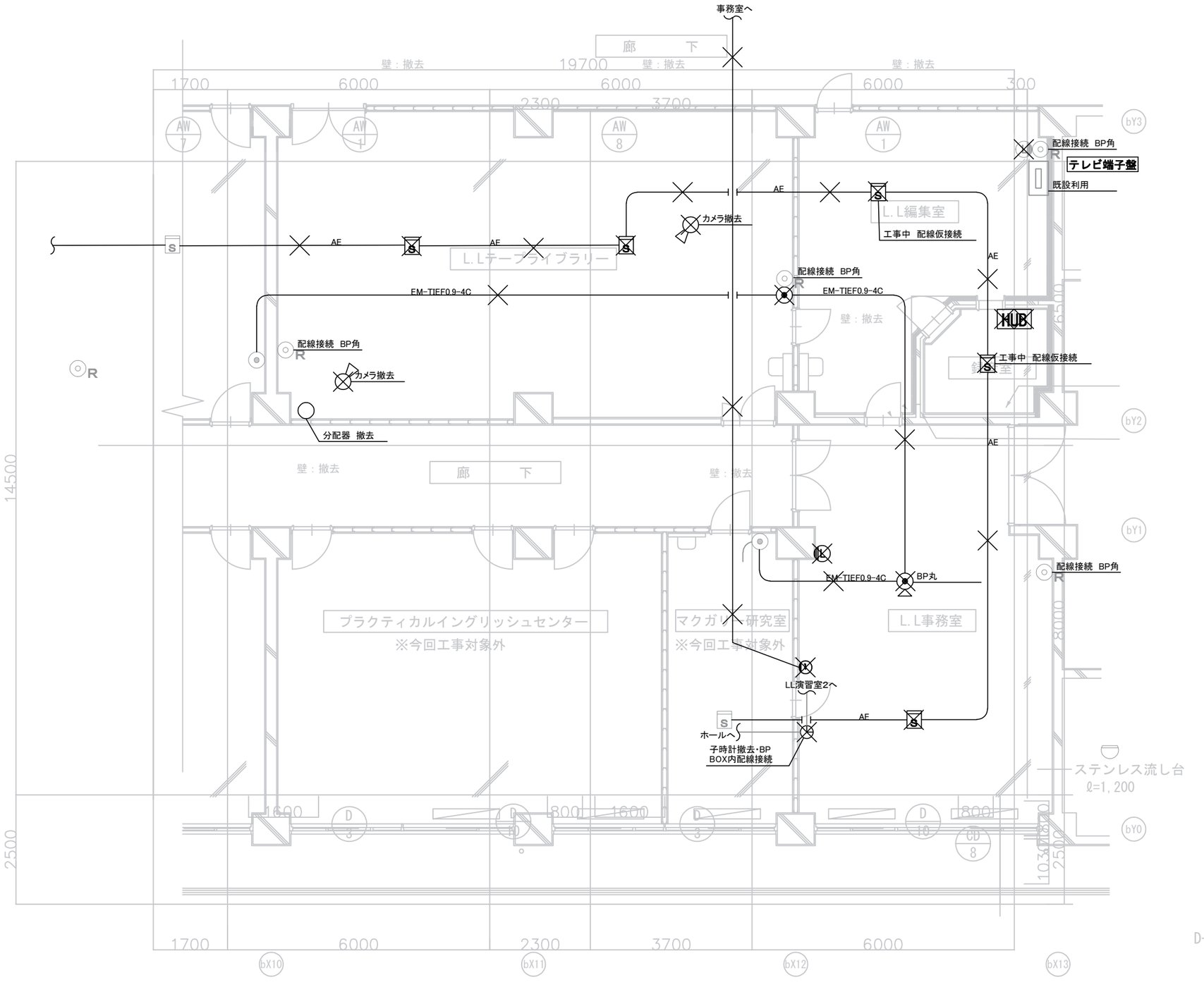
凡例

- 天井埋込スピーカ
- LAN用モジュラジャック
- インターホン
- 煙感知器 2種
- TEL用モジュラジャック

HP	EM-HP1.2-3C
AE	EM-AE0.9-2C

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:1/100	図面名称	2階　弱電設備　平面詳細図　＜新設＞ 学生演習室１、学生演習室２
設計者					
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				図面番号	E-16

撤去



凡例

- 天井埋込スピーカ
- LAN用モジュラジャック
- インターホン
- 煙感知器 2種
- TEL用モジュラジャック
- HUB フロア用HUB24ポート

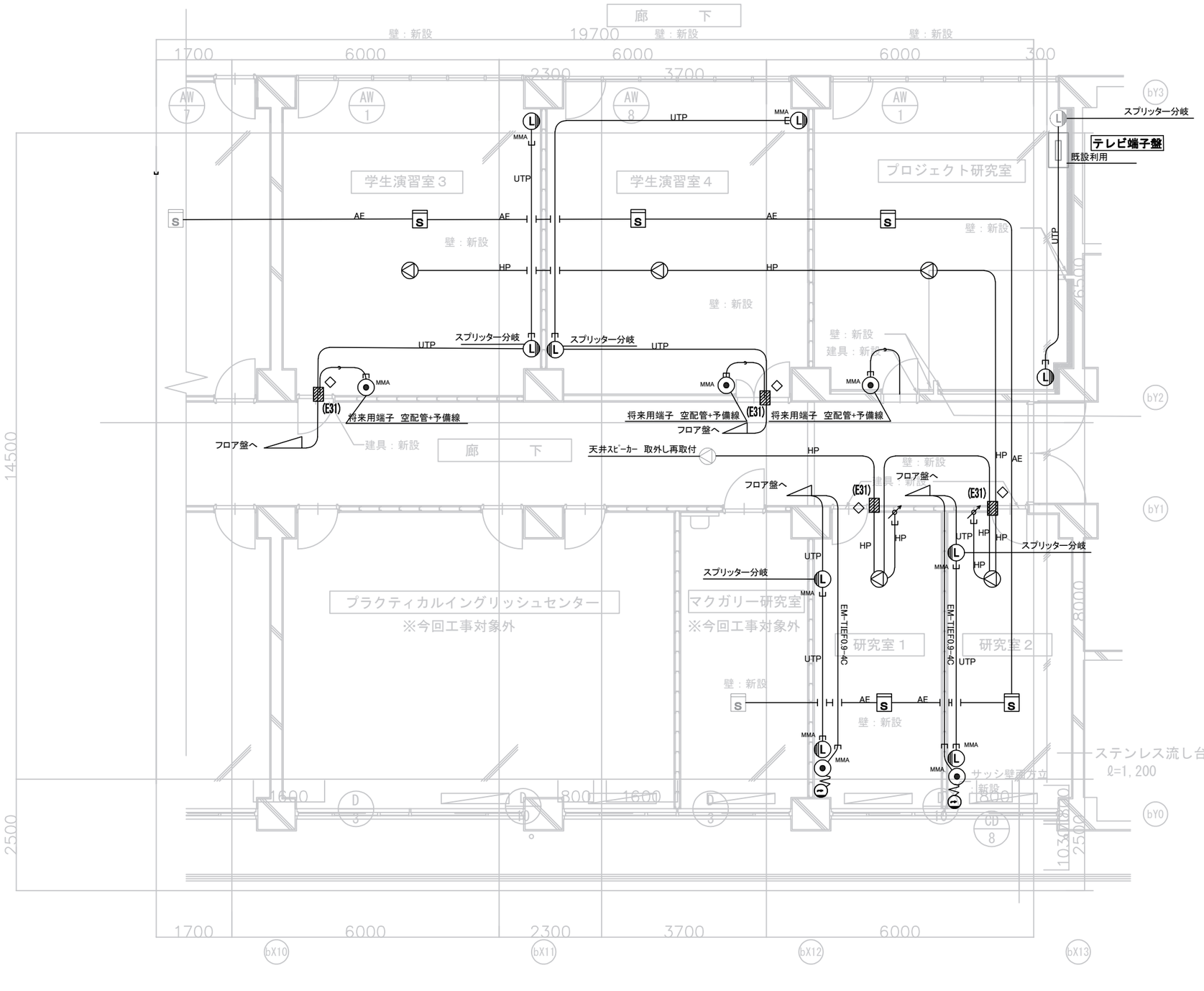
HP	EM-HP1.2-3C
AE	EM-AE0.9-2C

総研棟 LL実習室 ◦ 国際交流センター 平面詳細図 S=1:50

注) ( ) 内数値は床仕上り面のレベルを示す。

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:1/100
設計者		図面名称	2階 弱電設備 平面詳細図 <撤去> L.Lテーブライブラリー 他
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹		図面番号	E-17

新設



凡例

- 天井埋込スピーカ
- LAN用モジュラジャック
- インターホン
- 煙感知器　2種
- TEL用モジュラジャック

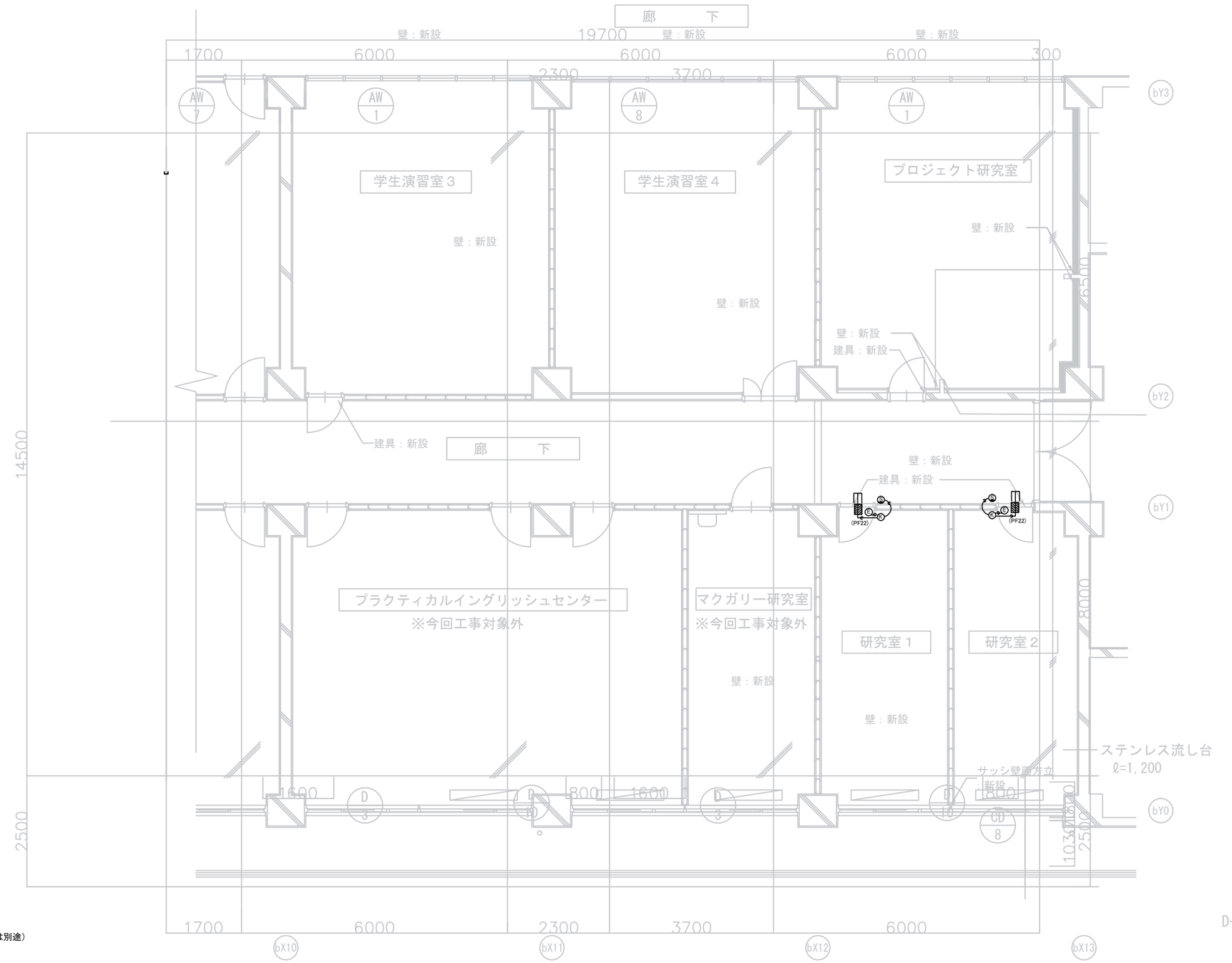
HP	EM-HP1.2-3C
AE	EM-AE0.9-2C
UTP	EM-UTP0.5-4P

総研棟　LL実習室　◦　国際交流センター　平面詳細図　S=1：50

注）　内数値は床仕上り面のレベルを示す。

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3:1/100	図面名称	2階　弱電設備　平面詳細図　<新設> プロジェクト研究室　他
設計者					
株式会社一級建築士事務所DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				図面番号	E-18

撤去・新設



総研棟　LL実習室　＊　国際交流センター　平面詳細図　S=1：50

注）　　内数値は床仕上り面のレベルを示す。

凡例

- Ⓢ 認証センサー用OB（機器は別途）
- Ⓚ 主装置用OB（機器は別途）
- Ⓔ 電気錠（建築工事）
- 空配管（PF16）
- 防火区画貫通処理　PS060WL-0436

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3：1/100	図面名称	2階　機械警備　平面詳細図　＜新設＞ プロジェクト研究室　他
設計者			
株式会社一級建築士事務所DEN－A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹		図面番号	E－19

横浜市立大学総合研究教育棟改修工事

機械設備工事

図面番号	図面名称	縮尺（A3）	図面番号	図面名称	縮尺（A3）
M- 01	表紙・図面リスト	(N／S)			
M- 02	特記仕様書	(N／S)			
M- 03	空調換気設備 機器表（新設）	(N／S)			
M- 04	空調設備 2階配管平面図（新設）	(1／200)			
M- 05	換気設備 2階 ダクト平面図（新設）	(1／200)			
M- 06	空調設備 2階配管平面図（撤去）	(1／300)			
M- 07	換気設備 2階 ダクト平面図（撤去）	(1／200)			

横浜市立大学				工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	NS	図面名称	表紙・図面リスト
設　計　者				図面番号	M-01
株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録　第１７０６４２号　田中　克樹					

空　調　換　気　設　備　特　記　仕　様　書

1．建築概要

工事名称	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
建築場所	建築図による
工事種別	・新築　・増築　・別棟増築　・増改築　●改築　・移転 ・用途変更　・大規模の修繕　・大規模の模様替え
主要用途	横浜市立大学
工期予定	着工：令和 年 月　竣工：令和 年 月
建築面積	建築図による
延べ面積	建築図による
階　数	総合研究教育棟:1階～4階
防火対象物	7 項（二）
構造種別	・S造　・SRC造　●RC造　・木造
法定構造	●耐火　・準耐火　・その他

2．共通事項

1.適用

本工事は本特記仕様書並びに設計図書に準拠し、本特記仕様書に記載されていない事項は、下記の仕様書を準用し施工すること。

1.現場説明に対する質疑応答書
2.現場説明書
3.特記仕様書（図面記載のもの及び別冊を含む）
4.設計図及び図面

2.優先順位

5.「横浜市建築局機械設備工事特則仕様書」（最新版）
6.横浜市建築局・一般社団法人神奈川県空調衛生工業会編集「機械設備工事施工マニュアル」（最新版）
7.国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建設工事標準仕様書（機械設備工事編）」、「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）」及び「国土交通大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修・公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）」（最新版）

3．総則

●材料
- ●材料でJIS・JASの規格があるものはその規格による。
- ●施工業者・製造業者及び商品等は、特記されたもの又は係員が同等と認めたものとする。
- ●施工業者・製造業者及び商品の記載については、順不同とする。
- ●施工上の納まりや取り合いの関係で、機器及び材料取付の位置又は工法について止むを得ず行う軽微な変更は工事監理者の指示によって行う。尚、この場合請負金の増減は行わない。
- ●本工事に伴う関係法規上の申請手続きを関係官公庁及び電力会社等に遅滞なく行う。
- ●材料試験は下記の場合に行う。
  - (1) 本特記仕様書に記載のある場合
  - (2) 試験によらなければ、設計図書に定められた条件に適合することが証明できない場合

●支給機器､材料　・有（　　）　●無

●完成図書　●竣工後、下記書類を作成し監理者の承諾を得て提出する。

完成図書	施　主	建　築 設計者	設　備 設計者	設　備 業　者
a．竣工図	●	●	●	●
b．施工写真一式	-	●	●	●
c．主要機器資料 （図面、取扱説明書、試験成績書）	●	●	●	●
d．主要資材納入業者一覧表 （メーカー、代理店、担当者等）	●	●	●	●
e．官公庁などの許認可書類	●	●	●	●
f．取扱説明書	●	●	●	●
g．非常時連絡先一覧表 （機器メーカー、諸官庁）	●	●	●	●

●竣工図　・竣工図の電子データの提出　●有　・無

4．工事種目

・ 給水設備工事	・
・ 排水通気設備工事	・
・ 給湯設備工事	・
・ 衛生器具設備工事	・
・ ガス設備工事	・
・ 消火設備工事	・
・ 排水処理設備工事	・
● 空調設備工事	・
● 換気設備工事	・
・ 排煙設備工事	・
・ 床暖房設備工事	・
・	・
・	・

5．工事項目・概要

1.給水設備工事

給水方式	・水道直結　●高架水槽　・圧力タンク　・既存接続　・圧送給水方式
	・直結増圧式
水源	●公共水道　・井戸　・簡易水道
受水槽	・本工事（FRP製－　・単板　●複合板）　・その他（　　）
	・別途　・既設
量水器	・貸与　親メーター　50ｍ/ｍ　小メーター　ｍ/ｍ
	・私設　親メーター　ｍ/ｍ　小メーター　ｍ/ｍ
弁類	●直圧部　10ｋｇ/ｃｍ2
	●その他（●5ｋｇ/ｃｍ2、・10ｋｇ/ｃｍ2）
給水引込	・新設（・本工事　・別途）　●既設
引込負担金	・要（・別途　・本工事）　●不要
管の埋設表示	●設置（・明示杭　・明示テープ　●明示シート）　・不要
管の埋設深さ	一般部　●30cm以上　・60cm以上　・100cm以上
	構内道路部　・30cm以上　●60cm以上　・100cm以上
	寒冷地　・30cm以上　・60cm以上　・100cm以上
凍結防止工事	・凍結防止ヒーター　・水抜き栓及び吸気弁　・水道事業者指示による

2.排水通気設備工事

排水方式	雨水排水　●単独　・合流
	屋内　汚水雑排水　●分流　・合流
	屋外　汚水雑排水　・分流　●合流　・浄化槽
雨水排水	・本工事　●建築工事　・別途
放流先	●公共下水道接続　・側溝、水路　・河川　・海　・既存接続　・宅内処理
通気	●伸張通気　●ドルゴ通気弁　●ループ通気
下水接続	・新設（・本工事　・別途）　●既設

3.給湯設備工事

給湯方式	・個別方式　・中央方式
熱源	・電気　・ガス　・油（・灯油、・A重油）　・ソーラー　・蒸気
	その他（　　）
機器類	ガス湯沸器　・単体型：メーカー標準　・その他（　　）
	電気ヒートポンプ給湯器　・メーカー標準　・その他（　　）
	膨張タンク　・ダイアフラム式　・ブラダ式
	電気温水器　・貯湯式（・床置き、・壁掛）　・瞬間式
配管附属品	弁類　水道直結部分　JIS（・1．0MPa、・0．5MPa）
	一般部分　JIS（・1．0MPa、・0．5MPa）

4.衛生器具設備工事

方式	●水洗　・非水洗　・寒冷地用
器具類	衛生陶器　色彩その他　●白色　・指定色（　　）
	自動水栓　●センサー式　・その他
	電源　●AC100V　・発電式　・電池式
	方式　●センサー式　・タッチスイッチ式
	手動スイッチ　・有　●無
	電源　・AC100V　・発電式　・電池式
	自動洗浄弁　電源　●AC100V式　・電池式
	方式　●センサー式　・タッチスイッチ式
	温水洗浄暖房便座　●温水洗浄暖房便座　・暖房便座　●普通便座
	その他器具　・浄水器（　　）　・エアータオル（　　）

5.ガス設備工事

種類	・都市ガス　・プロパンガス　・低圧　・中圧
メーター	・ガスメーター　・含む　親メーター1ケ　小メーター　ケ　・含まない
ガス漏れ感知器	・本工事（表示器共）

6.消火設備工事

方式	・屋内消火栓（・1号　・2号　・易操作性）　・屋外消火栓
	・泡消火　・粉末消火（・固定式　・移動式）
	・スプリンクラー　・水道直結型スプリンクラー（・乾式　・湿式）
	・パッケージ型消火器（・1号　・2号）
	・不活性ガス（・炭酸ガス　・窒素）　・ハロゲン化物　・（　　）
	その他　・連結送水　・連結散水　・水噴霧

7.排水処理設備工事

方式	・合併処理　・単独処理
処理人員	人　（JISA3302-69に依る）
処理水量	ｍ3/日
流入水質	BOD　mg/L以下
放流水質	BOD　mg/L以下　ss　%以下

8.空調設備工事

設　計　条　件

系　統		外　気	室　内　条　件
夏期	一般系統	DB 34.0℃，RH 69.6％	DB 26℃内外，RH 50.0％
冬期	一般系統	DB 2.0℃，RH 44.9％	DB 22℃内外，RH 40.0％

※ 外気設計条件は各地域の気象データを適用すること。
※ 各室用途・空気清浄度・寒冷地・エネルギー供給事情・騒音・振動を考慮すること。

熱源	・電気　・ガス　・灯油　・重油　・蒸気　・地域冷暖房熱源　・廃熱
熱源機器	・ヒートポンプ（●空気熱源　●水熱源）　・冷却塔　・冷凍機
	・パッケージ　・吸収式冷温水発生　・ボイラー
空調機方式	●セントラル　・各階セントラル　・個別　・局所

8.空調設備工事	空調機種類　●エアコン（・壁掛　・床置　・天吊　●天カセ　・天埋ダクト）
	・パッケージ　・ファンコイル　・パネルヒーター　・集中コントローラー
	空調配管　・冷水　・温水　●冷温水　・冷却水　・冷却水温水　●冷媒　●ドレン
9.換気設備工事	方式　・セントラル　・各階セントラル　●局所　・各階水平
	種別　●第1種　・第2種　・第3種
	機器　・壁換気扇　・天井扇　・ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ　・ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾌｧﾝ　・ﾊﾞｲﾌｧﾝ　●ロスナイ
10.排煙設備工事	起動方式　・煙感知器連動　・手動
	非常予備電源　・発電機　・附属エンジン
	排煙口　ヶ所
11.床暖房設備工事	方式　・電気式　・都市ガス温水式　・プロパンガス温水式　・その他（　　）
	温水式　・床上敷設式（・パネル式　・マット式）　・床下敷設式
	電気式　・非蓄熱式　・蓄熱式　・発熱線ユニット　・発熱線シート
	制御　・室温検出　・床温　・外気温　・タイマー

6．共通工事

使用配管材

管　種	規格	屋内給水管	屋外給水管	屋内排水管	屋外排水管	通気管	給湯管	ガス管	消火管	冷媒管	ドレン管	加湿給水管	冷温水管	冷却水管	雨水管	換気ダクト	厨房排気
硬質塩化ビニル管*	VP　JISK-6741			○	○	○					○						
〃	VU　JISK-6741																
耐火二層管	VU			○							○						
排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	SGP-DVAJWWA-K118																
耐衝撃性ビニル管(透明接手)	HIVP　JWWA-K118	○	○														
水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	SGP-VB　JWWA K-116																
水道用内外面硬質塩化ビニルライニング鋼管	SGP-VD　JWWA K-116																
水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管	SGP-PB　JWWA K-132																
〃	SGP-PD　JWWA K-132																
ポリブデン管	PB　JIS K6778																
水道用ポリエチレン二層管	PP　JIS K6761																
架橋ポリエチレン管	PE　JIS K6769																
配管用炭素鋼鋼管	(黒)　JIS G3452																
〃	(白)　JIS G3452								○			○					
消火用塩ビ外面被覆鋼管	SGP-VS　WSP-041								○								
銅継目無管	M　JIS H-3300																
被覆断熱銅管	JIS H-3300																
耐熱性硬質塩化ビニル管	HTVP　JIS K-6776						○										
水道用耐熱性硬質塩化ビニル鋼管	SGP-HVAJWWA K-140																
ステンレス鋼鋼管　SUS304	JIS G-3448																
〃　SUS316	JIS G-3448																
冷媒用被覆銅管　10mm	JIS H-3603																
冷媒用被覆銅管　20mm	CU　JIS H-3603																
冷媒用被覆銅管　ペアコイル(10mm)	CU									○							
空調ドレン用結露防止層付硬質塩化ビニル管																	
スパイラルダクト	SPD　JIS G-3302															○	
フルミフレキダクト																○	
保温付きフレキダクト																	○
ガルバリウム鋼板																○	
供給事業者指定による								○									

＊ VP管は区画貫通から1ｍ以降とする

保温防露工事仕様

- a．ポリエチレンフォーム保温筒（塩ビシート外被付）
- b．ポリエチレンフォーム保温筒（塩ビシート外被付）＋ステンレス鋼板
- c．ポリエチレンフォーム保温筒（塩ビシート外被付）＋カラー亜鉛鋼板
- d．ポリエチレンフォーム保温筒耐熱タイプ（塩ビシート外被付）
- e．ポリエチレンフォーム保温筒耐熱タイプ（塩ビシート外被付）＋ステンレス鋼板
- f．ポリエチレンフォーム保温筒耐熱タイプ（塩ビシート外被付）＋カラー亜鉛鋼板
- g．ポリエチレンフォーム保温筒＋合成樹脂製カバー
- h．ポリエチレンフォーム保温筒耐熱タイプ＋合成樹脂製カバー
- I．ALGCグラスウール保温帯（板）＋ALGCテープ巻き
- J．被覆銅管＋樹脂製スリムダクト
- k．グラスウールアルミガラスクロス化粧保温帯25?＋アルミガラスクロス粘着テープ
- m．ロックウールアルミガラスクロス化粧保温帯50?＋アルミガラスクロス粘着テープ(火気使用)

※ 排気ダクトは外壁から1ｍまで保温を行う。
※ 給気ダクトに保温付きフレキダクトを用いた場合は保温を行わない。
※ 給湯、冷媒管について被覆銅管を使用した場合は保温を行わない。
※ 排水配管は保温を行わない。

	屋外露出	屋内隠蔽	屋内露出	床下暗渠	土中埋設
1 給水管	c	a	g	-	-
2 給湯管	f	d	h	-	-
3 排水管	-	-	-	-	-
4 冷媒管	j	-	-	-	-
5 空調ドレン管	-	a	a	-	-
6 ダクト	-	k、m	-	-	-

7．総則

設計用耐震震度（Ks）
- ・耐震クラスB　上層階･屋上搭屋 1.0　中間階 0.6　地階･1階 0.4（0.6）
- ・耐震クラスA　上層階･屋上搭屋 1.5　中間階 1.0　地階･1階 0.6（1.0）
- ・耐震クラスS　上層階･屋上搭屋 2.0　中間階 1.5　地階･1階 1.0（1.5）

（　　）内は、地階及び1階（地表）に設置する水槽の場合に適用

8．補足事項

- ●空調ドレン隠蔽部接続については、専用の接続部品を使用して、接着し漏れ等の無いことを確認すること。
- ●地盤沈下が想定される場合は、フレキ管の使用及び基礎へのブラケット支持など適切な対策を行うこと。
- ●土間下配管は躯体等から堅固に支持し沈下防止対策を行うこと。
- ●防火区画を貫通する配管配線類は、貫通部分及び壁面から両側1ｍ以内の部分を不燃材で造りまたは覆うか、区画壁の仕様に合った国土交通大臣認定工法により燃え抜けや煙の漏れを防ぐ構造とする。
- ●冷媒管の防火区画の貫通部は、区画壁の仕様に合った国土交通大臣認定工法とする。
- ●換気、暖房又は冷房の設備の風道が防火区画を貫通する部分に近接する部分に防火設備を設ける場合にあっては当該防火設備と当該防火区画との間の風道は、厚さ1.5ｍｍ以上の鉄板でつくり、又は鉄網モルタル塗その他の不燃材料で被覆すること。防火設備の開閉及び作動状態を確認できる点検口を設けること。
- ●省エネ適判に該当する建物で設備機器の台数や性能の変更を行う場合は適合性判定を受けた計画の変更申請又は軽微な変更申請かを確認して現場監督員に申し出ること。

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	NS
設　計　者		図面名称	特記仕様書
株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 文樹		図面番号	M-02

新設

換気機器表

機器番号	機器名称（系統名）	設置階	台数	機器仕様 型式	消音ボックス	据付床	番手	風量 m³/h	静圧 Pa	電動機（50Hz） 消費電力 W	相 φ	電圧 V	極数 P	起動方式	保安電源	インターロック・連動	遠方 発停	運転故障表示	警報	コンクリート基礎（建築工事）	防振装置 G：ゴム S：スプリング P：ゴムパット	24時間換気	備考
HEX-2-1	全熱交換器	2F	1	天井埋込形	–	天	200φ	700	120	325	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	P	○	LGH-N65RXW2（三菱）
	（学生演習室1）																						
HEX-2-2	全熱交換器	2F	1	天井埋込形	–	天	200φ	700	100	325	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	P	○	LGH-N65RXW2（三菱）
	（学生演習室2）																						
HEX-2-3	全熱交換器	2F	1	天井埋込形	–	天	150φ	260	110	90	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	P	○	LGH-N25RXW2（三菱）
	（学生演習室3）																						
HEX-2-4	全熱交換器	2F	1	天井埋込形	–	天	150φ	260	100	90	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	P	○	LGH-N25RXW2（三菱）
	（学生演習室4）																						
HEX-2-5	全熱交換器	2F	1	天井埋込形	–	天	100φ	180	110	70	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	P	○	LGH-N15RXW2（三菱）
	（プロジェクト研究室）																						
HEX-2-6	全熱交換器	2F	1	天井カセット形	–	天	100φ	80	50	69	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	P	○	LGH-N15CX3（三菱）
	（研究室1）																						
HEX-2-7	全熱交換器	2F	1	天井カセット形	–	天	100φ	80	50	69	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	P	○	LGH-N15CX3（三菱）
	（研究室2）																						

※24時間換気スイッチは強弱運転対応とする。
※機器製品は同等品とする

空調機器表

機器番号	機器名称（系統名）	設置階	台数	機器仕様	電動機（50HZ） 動力 W	相 φ	電圧 V	極数 P	起動方式	非常電源	インターロック・連動	遠方 発停操作	運転状態表示	故障表示	コンクリート基礎	防振装置 G：ゴム S：スプリング P：ゴムパット	備考
FCU-7	ファンコイルユニット	2F	1	天井埋込カセット2方向型　シングルコイル	122	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	G	コントロールスイッチ
	（プロジェクト研究室）			風量　960 m3/h													KCS6600-GZ074
				冷房能力（顕熱）　4.03 kW　（全熱）　5.05 kW													
				暖房能力　9.93 kW													
				冷温水量　6.8 L/min													
FCU-8	ファンコイルユニット	2F	2	天井埋込カセット2方向型　シングルコイル	163	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	G	コントロールスイッチ
	（学生演習室3）		（1）	風量　1,280 m3/h													KCS6800-GZ074
	（学生演習室4）		（1）	冷房能力（顕熱）　5.49 kW　（全熱）　7.05 kW													
				暖房能力　13.03 kW													
				冷温水量　9.2 L/min													

<ファンコイルに関する特記事項>

（1）電動2方弁本体は自動制御設備とする
（2）自動定流量弁は本体付属品とする
（3）スイッチ本体はメーカー付属品とする
（4）スイッチと本体との渡り配線工事は自動制御設備工事とする
（5）フィルターは中性能フィルター（NBS65%）とし、フィルターの予備は　50%とする
（6）冷水入口温度は　7℃、温水入口温度は　60℃とする
（7）ファンコイルユニットの運転条件は、吸込み空気条件は下記とする
夏期　26.0 DB℃、50%RH、冬期　22.0 DB℃　40%RH
（8）ファンコイル本体はコンセントプラグ付きとする
（9）（　）内流量は暖房時の温水量を表す。

※機器製品は同等品とする

空調機器表

機器番号	機器名称（系統名）	型式	室外機 設置階	台数	呼称能力 HP	冷房能力 kW	暖房能力 kW	消費電力（50Hz） kW	ガス消費量 kW	電源 相 φ	電圧 V	起動方式	室内機 設置階	台数	呼称能力 HP	冷房能力 kW	暖房能力 kW	送風機 送風量 m³/h	機外静圧 Pa	消費電力（50Hz） W	電源 相 φ	電圧 V	起動方式	自然蒸発式加湿量 kg/h	フィルター	コンクリート基礎	防振装置 G:ゴム S:スプリング P:防振用ゴム	備考
PAC-1	空冷ヒートポンプ式エアコン	天井埋込カセット型（4方向吹出）	3F	1	7.1	20.0	22.4	5.55	–	3	200	直入	2F	2	3.6	10.0	11.2	1590	–	–	–	–	–	–	標準	150H	G	室外機送り
	（学生演習室1）																											SSRC224CD
PAC-2	空冷ヒートポンプ式エアコン	天井埋込カセット型（4方向吹出）	2F	1	7.1	20.0	22.4	5.55	–	3	200	直入	2F	2	3.6	10.0	11.2	1590	–	–	–	–	–	–	標準	150H	G	室外機送り
	（学生演習室2）																											SSRC224CD
PAC-3	空冷ヒートポンプ式エアコン	天井埋込カセット型（2方向吹出）	2F	1	1.3	3.6	4.0	0.88	–	1	200	直入	2F	1	1.3	3.6	4.0	630	–	–	–	–	–	–	標準	150H	G	室外機送り
	（研究室1）																											SSRG40CV
PAC-4	空冷ヒートポンプ式エアコン	天井埋込カセット型（2方向吹出）	2F	1	1.3	3.6	4.0	0.88	–	1	200	直入	2F	1	1.3	3.6	4.0	630	–	–	–	–	–	–	標準	150H	G	室外機送り
	（研究室2）																											SSRG40CV

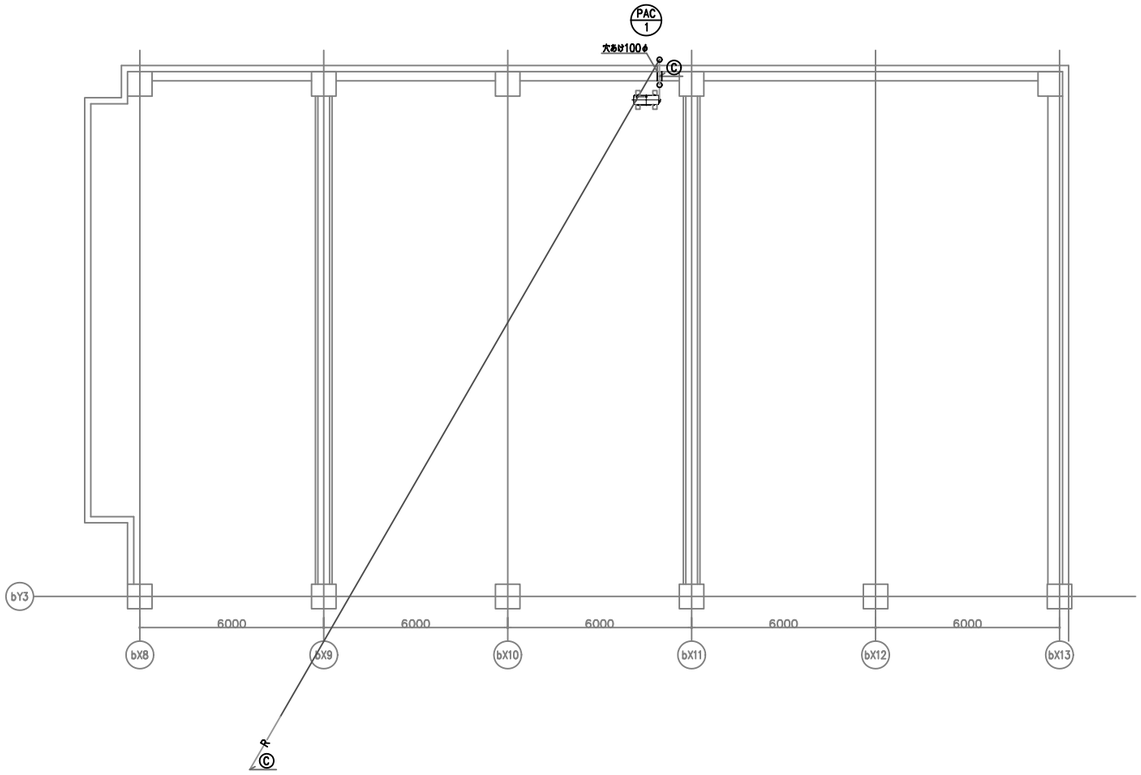
<空冷ヒートポンプエアコン、ガスヒートポンプエアコンに関する特記事項>

（1）冷房能力は及び暖房能力は標準条件時
(JIS B 8616,JIS B 8627)の能力を示す。
（2）室内機と室外機との渡り配線工事は冷媒配管共巻きとする。
（3）室外機は高効率形とする。
（4）設計外気温度条件
夏期（冷房時）　34.8℃　DB、58.0%　冬期（暖房時）　1.7℃　DB、41.7%
（5）設計室内温度条件
夏期（冷房時）　26.0℃　DB、19.5　WB　冬期（暖房時）　22.0℃　DB、14.5　WB
（6）機器の動力等は参考値とする
（7）冷媒はR32とする。
（8）室内機1台に対しリモコンスイッチ1個設置とする。
（9）リモコン（個別）は　固定とする
（10）ドレンアップメカ付属とする。
（11）EHP及びACは高効率型とする。
（12）室外機用フェンスは建築工事とする。
（13）コンクリートブロックは転倒防止金具付とする。

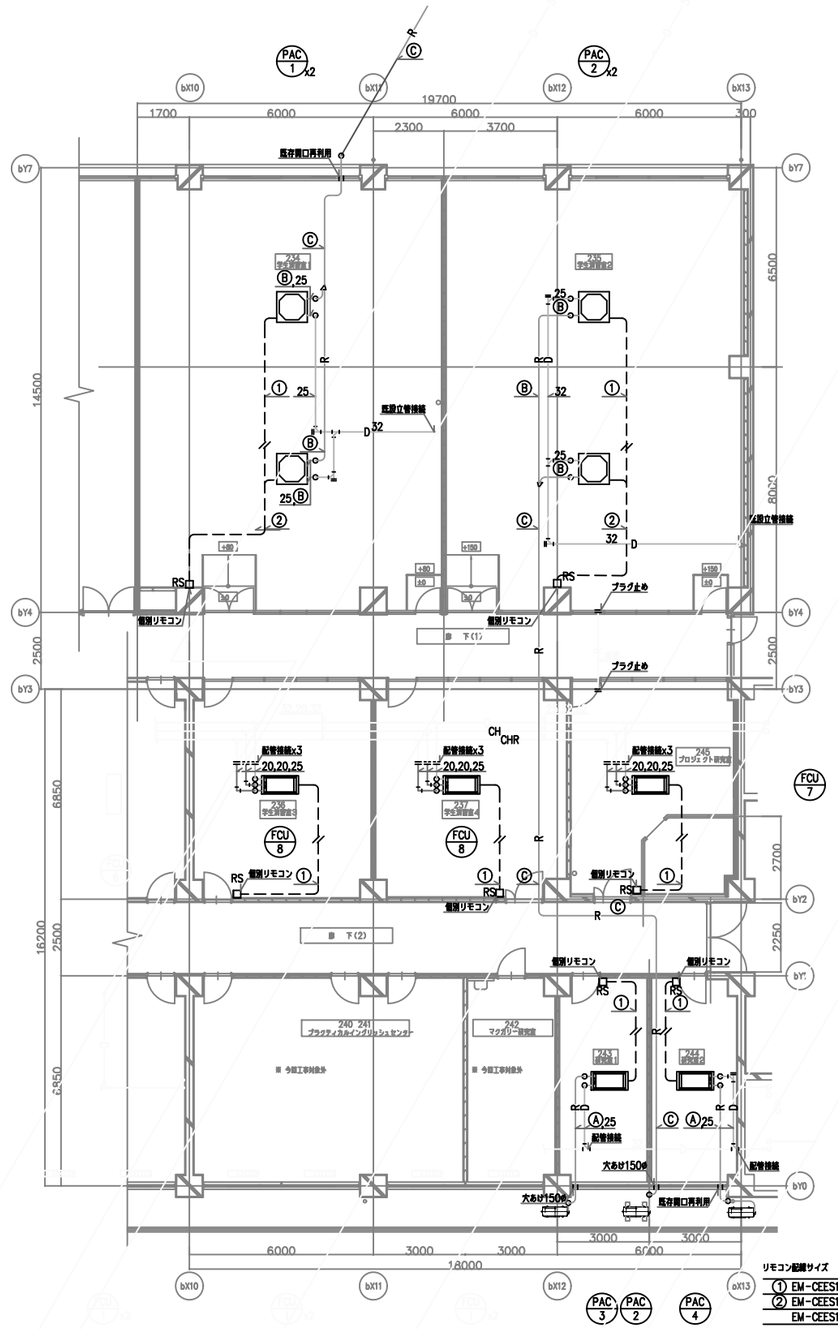
※機器製品は同等品とする

横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 NS	図面名称	空調換気設備 機器表（新設）
設計者			図面番号	M-03
株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録　第170642号　田中 克樹				

新設



2階 屋根



2階 平面図

冷媒用断熱被覆銅管サイズ表

記号	液管	ガス管
Ⓐ	6.4φ	12.7φ
Ⓑ	9.5φ	15.9φ
Ⓒ	9.5φ	19.1φ

リモコン配線サイズ

① EM-CEES1.25ロ-2C (PF)	リモコン配線
② EM-CEES1.25ロ-2C×2 (PF)	リモコン配線
EM-CEES1.25ロ-2C	渡り配線

<注記>

1） 特記無き配管はすべて床下とする
2） ●印は防火区画貫通部を示し冷媒管は国土交通大臣認定工法とする
3） 室内機・室外機の渡り配線は冷媒管共巻きとする
4） 区画貫通部は不燃材料で埋めること
5） 冷媒管の防火区画貫通部には450□の点検口を設ける
6） ――― 部は新設を示す。
7） 部は既存を示す。

凡 例

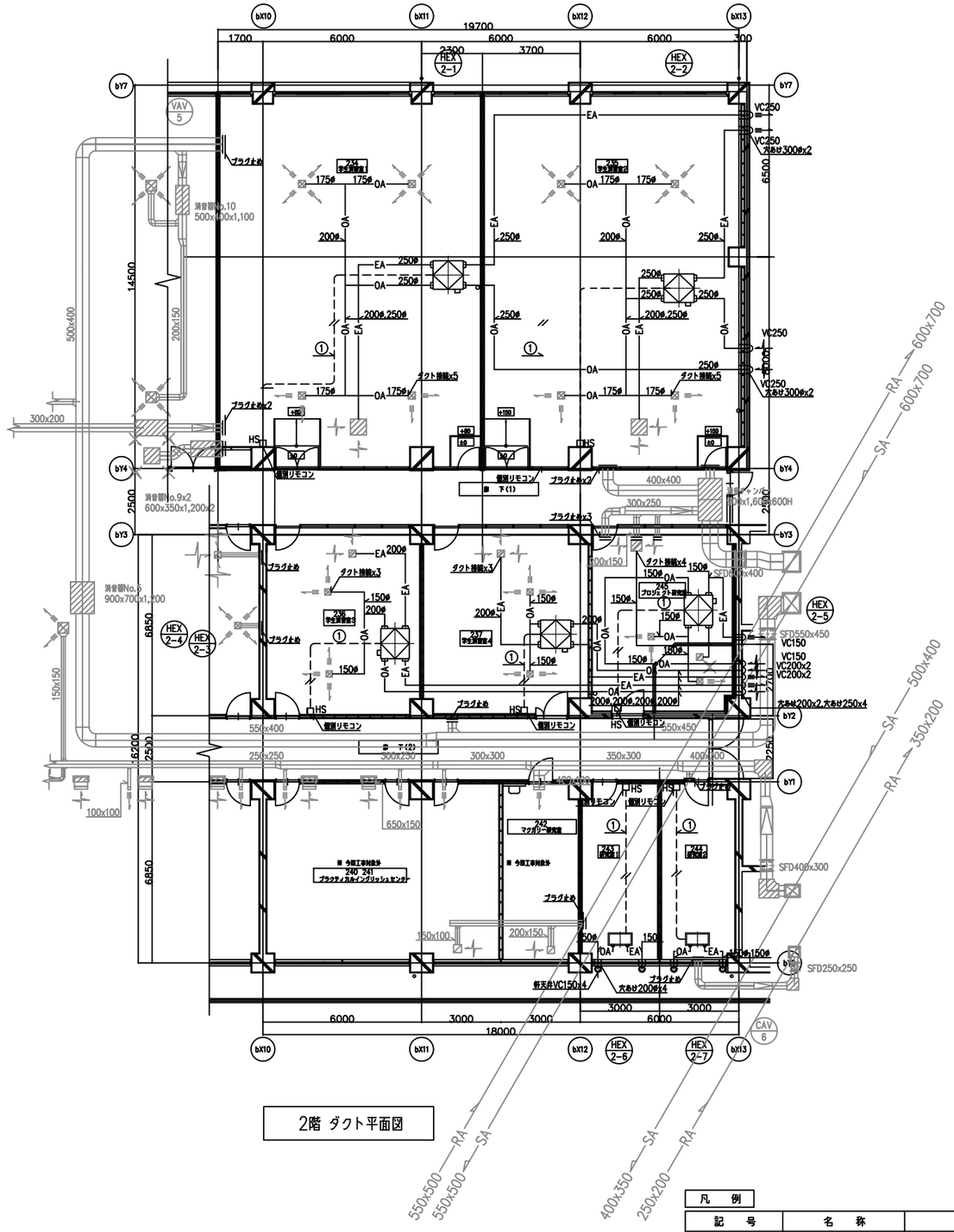
記 号	名 称	配 線 種
□	空調リモコン（機器付属）	EM-CEES1.25ロ-2C
ー ー//ー ー	制御配線 天井ころがし	EM-CEES1.25ロ-2C

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日 令和6年3月	縮尺 A3 1:200	図面名称	空調設備 2階配管平面図（新設）
設 計 者		図面番号	M-04
株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録 第170642号 田中 克樹			

新設

【制気口リスト】

学生演習室1				学生演習室1			
OA	Q:175CMH アネモ:C-2 #20 BOX:400x400x300H 内貼:GW25t	4		EA	Q:700CMH スリット:500x500 BOX:700x700x450H 内貼:GW25t	1	
学生演習室2				学生演習室2			
OA	Q:175CMH アネモ:C-2 #20 BOX:400x400x300H 内貼:GW25t	4		EA	Q:700CMH スリット:500x500 BOX:700x700x450H 内貼:GW25t	1	
学生演習室3				学生演習室3			
OA	Q:130CMH アネモ:C-2 #15 BOX:400x400x300H 内貼:GW25t	2		EA	Q:130CMH スリット:250x250 BOX:400x400x300H 内貼:GW25t	1	
学生演習室4				学生演習室4			
OA	Q:130CMH アネモ:C-2 #15 BOX:400x400x300H 内貼:GW25t	2		EA	Q:130CMH スリット:250x250 BOX:400x400x300H 内貼:GW25t	1	
プロジェクト研究室				プロジェクト研究室			
OA	Q:90CMH アネモ:C-2 #15 BOX:400x400x300H 内貼:GW25t	1		EA	Q:90CMH スリット:200x200 BOX:350x350x300H 内貼:GW25t	1	
プロジェクト研究室				プロジェクト研究室			
OA	Q:90CMH VHS:100x100 BOX:300x300x300H 内貼:GW25t	1		EA	Q:90CMH スリット:100x150 BOX:300x300x300H 内貼:GW25t	1	
プラクティカルイングリッシュ センター				プラクティカルイングリッシュ センター			
OA	Q:110CMH VHS:100x150 BOX:300x350x300H 内貼:−−	3		EA	Q:110CMH スリット:150x150 BOX:350x350x300H 内貼:−−	3	
研究室1				研究室1			
OA	Q:110CMH アネモ:C-2 #15 BOX:400x400x300H 内貼:−−	1		EA	Q:110CMH スリット:250x200 BOX:400x350x300H 内貼:−−	1	
研究室2				研究室2			
OA	Q:110CMH アネモ:C-2 #15 BOX:400x400x300H 内貼:−−	1		EA	Q:110CMH スリット:250x200 BOX:400x350x300H 内貼:−−	1	
EVホール				ホール			
OA	Q:250CMH アネモ:C-2 #15 BOX:450x450x300H 内貼:−−	1		EA	Q:110CMH スリット:150x150 BOX:350x350x300H 内貼:−−	1	
国際交流資料室				国際交流資料室			
OA	Q:120CMH アネモ:C-2 #15 BOX:300x300x300 内貼:GW25t	1		EA	Q:120CMH スリット:150x150 BOX:300x300x300 内貼:GW25t	1	
国際交流演習室				国際交流演習室			
OA	Q:380CMH アネモ:C-2 #20 BOX:400x400x300 内貼:GW25t	2		EA	Q:760CMH スリット:350x350 BOX:550x550x400 内貼:GW25t	1	
マクガリー研究室				プラクティカルイングリッシュ センター			
OA	Q:430CMH VHS:100x400 BOX:200x600x350H 内貼:−−	1		EA	Q:110CMH スリット:350x200 BOX:650x350x300H 内貼:−−	1	



2階 ダクト平面図

リモコン配線サイズ

① EM-CEES1.25ロ-2C(PF) リモコン配線

<注記>

1） 屋外で使用する配管用ブラケット及び点検歩廊等は全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
2） 区画貫通ダクトは、FD設置の上、貫通部分を不燃材で埋め、1.6t 鋼板とする。
3） ドアガラリは建築工事とする。
4） 特記無きダンパーØ はVDØ はFDとする。
5） ベンドキャップはステンレス製フード形（防虫網付）とする。
6） ———— 部は新設を示す。
7） ———— 部は既存を示す。

凡 例

記 号	名 称	配 線 種
□HS	全熱交換器リモコン（機器付属）	EM-CEES1.25ロ-2C
——//——	制御配線 天井ころがし	EM-CEES1.25ロ-2C

横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺	A3 1:200
図面名称	換気設備 2階 ダクト平面図(新設)		
設 計 者	株式会社一級建築士事務所 DEN-A 一級建築士登録 第17044号 田中 文樹	図面番号	M-05

撤去機器表

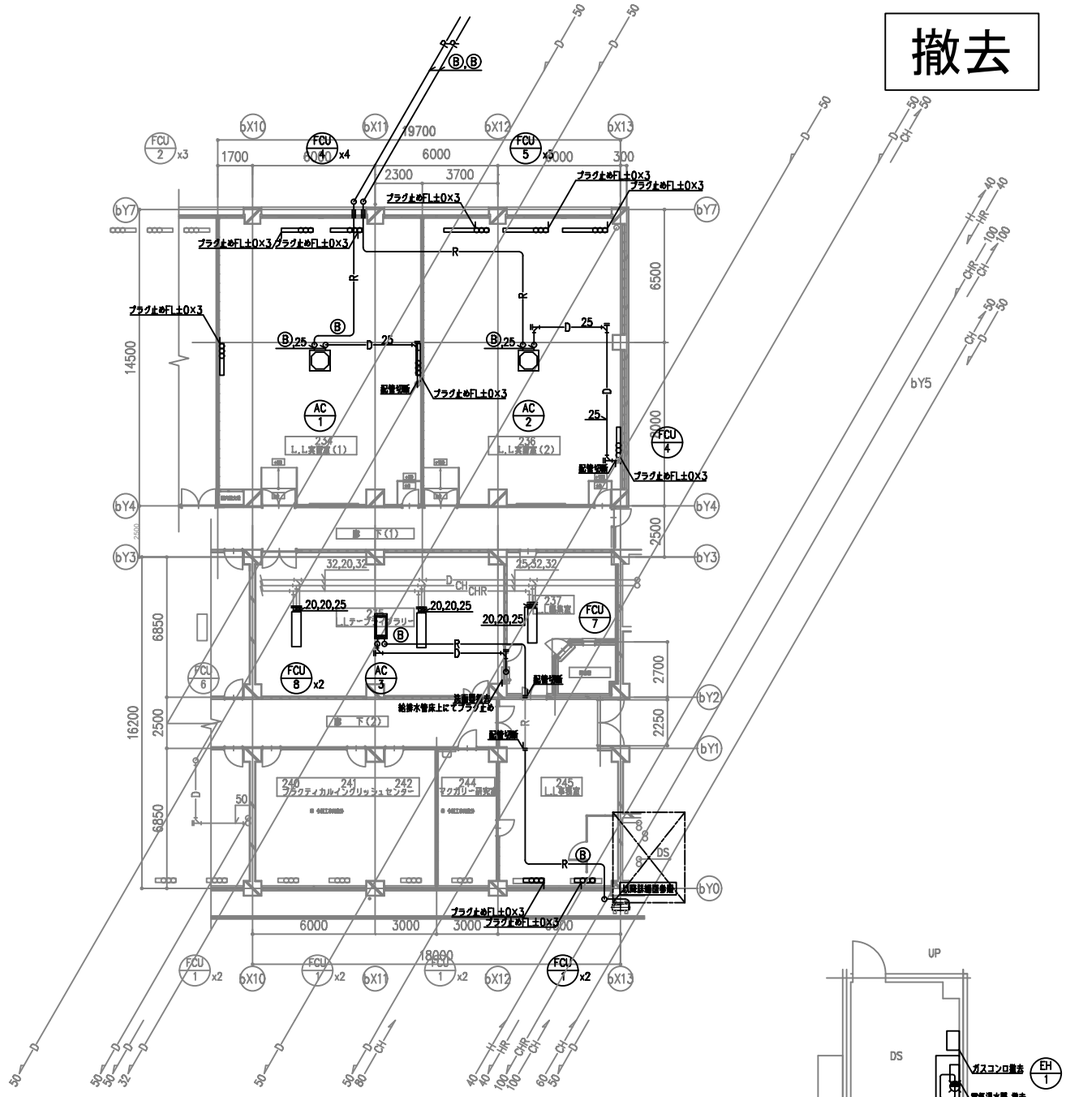
機器番号	機器名称（系統名）	設置階	台数	機器仕様	電動機（50Hz） 動力 kW	相 φ	電圧 V	極数 P	起動方式	非常電源	インターロック・連動	遠方 発停	遠方 運転故障表示	遠方 警報	コンクリート基礎	防振装置 G:ゴム S:スプリング P:ゴムパット	備考
FCU-1	ファンコイルユニット	–	2	床置型　型番 # 300　水量 7 L/min	50W	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	–	フレキシブル2本
				冷房能力 SH 1,660 kcal/H　TH 2,100 kcal/H													流量弁、レタンコック付
				暖房能力 3,590 kcal/H													
				風量 185 CMH~ 465 CMH													
FCU-4	ファンコイルユニット	–	5	床置型　型番 # 800　水量 17 L/min	95W	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	–	フレキシブル2本
				冷房能力 SH 4,300 kcal/H　TH 5,100 kcal/H													流量弁、レタンコック付
				暖房能力 9,300 kcal/H													
				風量 525 CMH~ 1,310 CMH													
FCU-5	ファンコイルユニット	–	3	床置型　型番 # 1200　水量 24 L/min	110W	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	–	フレキシブル2本
				冷房能力 SH 5,670 kcal/H　TH 7,500 kcal/H													流量弁、レタンコック付
				暖房能力 12,440 kcal/H													
				風量 700 CMH~ 1,755 CMH													
FCU-7	ファンコイルユニット	–	1	天井カセット形　型番 # 400　水量 10 L/min	62W	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	–	フレキシブル2本
				冷房能力 SH 2,555 kcal/H　TH 3,180 kcal/H													流量弁、レタンコック付
				暖房能力 4,985 kcal/H													
				風量 365 CMH~ 730 CMH													
FCU-8	ファンコイルユニット	–	2	天井カセット形　型番 # 600　水量 14 L/min	78W	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	–	フレキシブル2本
				冷房能力 SH 3,465 kcal/H　TH 4,380 kcal/H													流量弁、レタンコック付
				暖房能力 6,760 kcal/H													
				風量 485 CMH~ 970 CMH													
AC-1	パッケージエアコン	–	1	空冷ヒートポンプエアコン	3.19kW	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	–	
				天井カセット4方向形													
				冷房能力 11.2 kW													
				暖房能力 12.5 kW													
				風量 1740 CMH　送風機 内106 外110x2													
AC-2	パッケージエアコン	–	1	空冷ヒートポンプエアコン	3.76kW	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	–	
				天井カセット4方向形													
				冷房能力 14.0 kW													
				暖房能力 16.0 kW													
				風量 1740 CMH　送風機 内106 外110x2													
AC-3	パッケージエアコン	–	1	空冷ヒートポンプエアコン	4.1kW	1	100	–	直入	–	–	–	–	–	–	–	
				天井カセット2方向形													
				冷房能力 11.2 kW													
				暖房能力 12.5 kW													
				風量 1650 CMH　送風機 内106x2 外110x2													

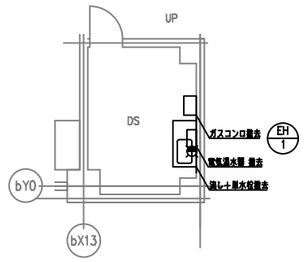
撤去機器表

機器番号	機器名称（系統名）	設置階	台数	機器仕様	電動機（50Hz） 動力 kW	相 φ	電圧 V	極数 P	起動方式	非常電源	インターロック・連動	遠方 発停	遠方 運転故障表示	遠方 警報	コンクリート基礎（建築工事）	防振装置 H:防振ｱｲｿﾚｰﾀ P:防振ﾊﾟｯﾄ S:ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ	備考（参考型番）
EH-1	電気温水器	2F	1	貯湯量12L　洗い用タイプ　密閉式排水ホッパー　他付属品一式	0.75	1	100	–	L-S	–	–	–	–	○	–	–	EK-12

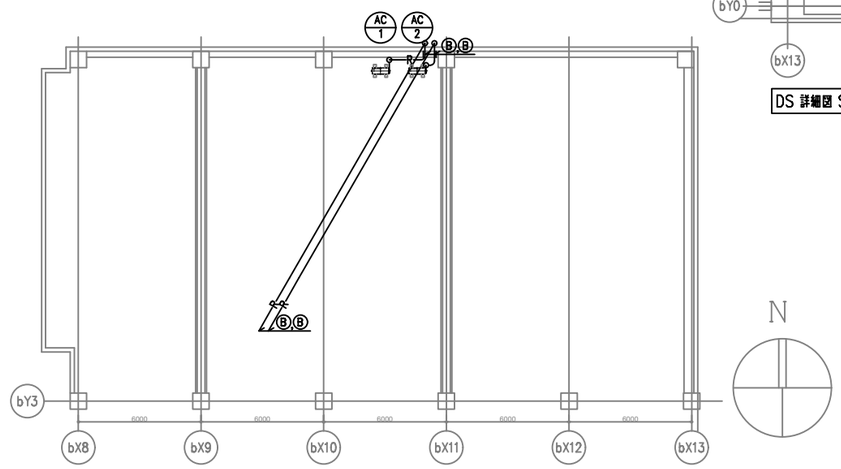
撤去器具表

器具名称	器具番号	屋外 DS			合計
流し台	建築工事	1			1
散水栓	T130AUN13 C	1			1





DS 詳細図 S=1:300



2F屋根 S=1:150

N

【注記】
1. ―――― 部は撤去を示す。
2. ―――― 部は既存を示す。

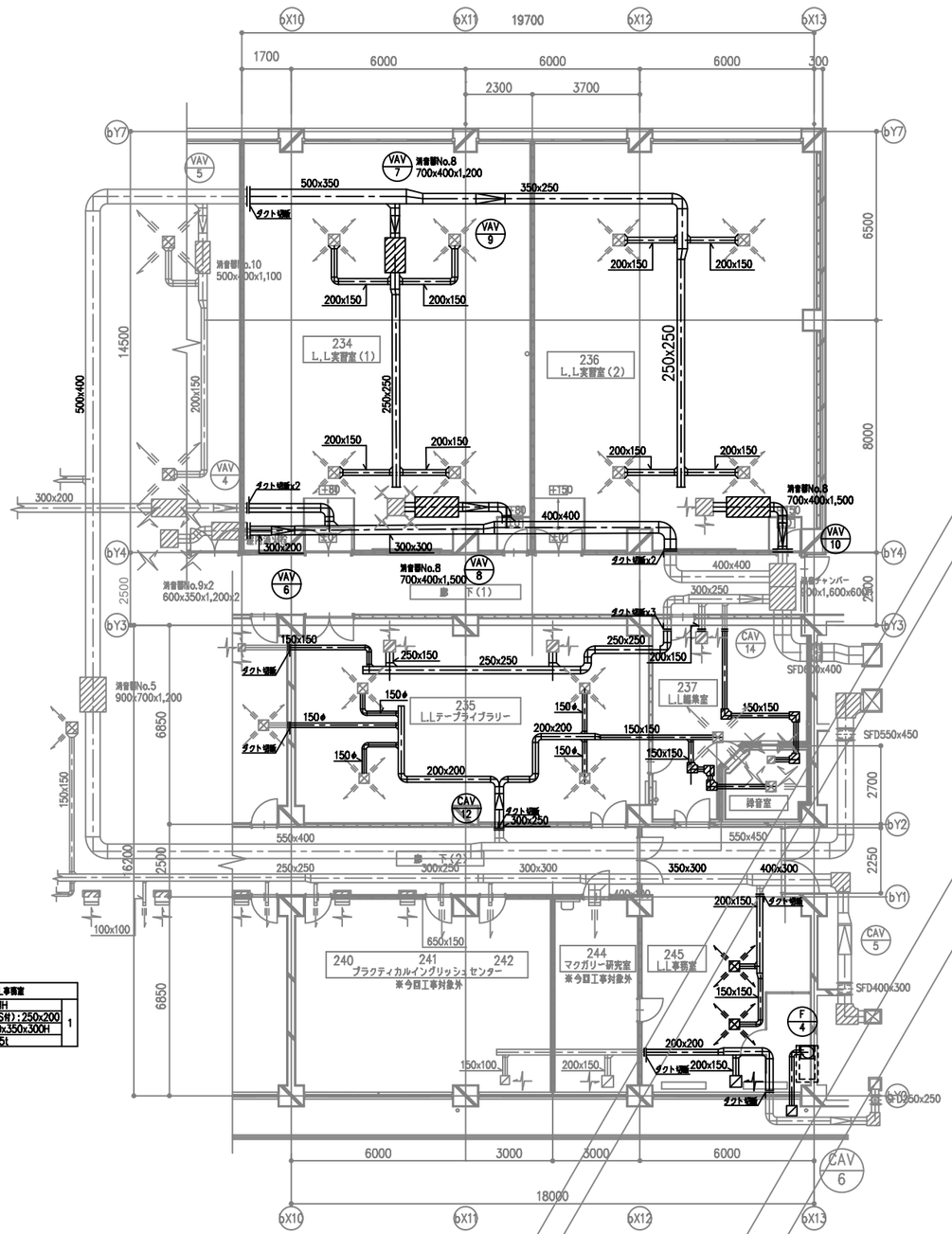
横浜市立大学		工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日 令和6年3月	縮尺 A3:1/300	図面名称	2階 配管平面図(撤去)
設計者		図面番号	M-06

株式会社一級建築士事務所 DEN-A
一級建築士登録 第170642号 田中 克樹

撤去

換気扇器具

記号	機器名称	仕様	電動機 容量	電動機 相	電動機 電圧	取付	台数	設置階	備考
F-4	天井扇	低?静型200CMH x 4mmAq	47W	1φ	100V	直入	1	共通	



L・L事務室		
SA	Q:150CMH アネモ:φ15 BOX:400x400x300H 円筒:GW25t	2

L・L事務室		
RA	Q:300CMH スリット(SH):250x200 BOX:400x350x300H 円筒:GW25t	1

N

【注記】
1.——— 線は撤去を示す。
2.——— 線は既存を示す。

横浜市立大学			工事名	横浜市立大学総合研究教育棟改修工事
年月日	令和6年3月	縮尺 A3:1/200	図面名称	2階 ダクト平面図(撤去)
設計者			図面番号	M-07

株式会社一級建築士事務所 DEN-A
一級建築士登録 第170642号 田中 克樹